
口腔の加齢制御を目指した集学的研究拠点の形成

平成 27 年度～令和元年度 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
研 究 成 果 報 告 書

令和 2 年 5 月

学校法人名 総持学園

大 学 名 鶴見大学

研究組織名 口腔加齢制御研究センター

研究代表者 斎藤 一郎

(鶴見大学歯学部 教授)

目 次

1. はしがき
2. 研究成果報告書概要
3. 添付資料（別添）

1. はしがき

本事業は、鶴見大学歯学部基礎・臨床に従事する研究者の中から、「難治性口腔疾患や顎機能障害の病因・病態解析」「加齢変化における硬組織の解析や診断法ならびに治療法の臨床応用」「加齢による防御的な生体変化の解析と関連する薬剤開発」を専門とする研究者 14 名をコアメンバーとし、この他に加齢に伴う難治性唾液腺障害を専門とする中村誠司教授（九州大学）と加齢変化による歯科心身症の解析を担当する豊福明教授（東京医科歯科大学）の 2 名が学外研究者として参加することで研究基盤形成の促進を図った。

口腔は生物としての生命維持に必要な咀嚼や摂食・嚥下という基本的機能を担うとともに、ヒトとしての根源的欲求である会話や味覚などの高次機能にも関与する。このような口腔顎顔面領域の機能は加齢により障害され、その心身の病的変化はさまざまである。口腔乾燥症を主症状とする自己免疫疾患の一つであるシェーグレン症候群や口腔粘膜疾患である再発性アフタ性潰瘍はじめ、心的障害や摂食・嚥下に関わる硬組織や筋組織の加齢変化は老化関連疾患：age-related diseases (ARD) として当該領域の難治性病態として位置付けられており、本研究プロジェクトでは本学に蓄積した病因・病態解析技術を集学的に駆使すると共に附属病院に集積した膨大な臨床検体を用いて病態解明から臨床研究への橋渡し研究を行うことを目的とし、基礎研究で得られた成果を臨床応用可能な知見にまで到達させるトランスレーショナルリサーチを実施した。このような取り組みは超高齢社会において極めて重要な検討課題であり、これらの病態解明や治療法を確立出来たことの社会的意義は極めて大きい。

最後に、本プロジェクトの外部評価を賜りました慶應大学医学部の坪田一男教授、東京大学医学部の水島昇教授、広島大学歯学部の高田隆教授に深く感謝申し上げます。

令和 2 年 3 月 27 日
研究代表者 斎藤 一郎

2. 研究成果報告書概要

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

**平成 27 年度～令和元年度「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」
研究成果報告書概要**

1 学校法人名 総持学園 2 大学名 鶴見大学

3 研究組織名 口腔加齢制御研究センター

4 プロジェクト所在地 神奈川県横浜市鶴見区鶴見 2-1-3

5 研究プロジェクト名 口腔の加齢制御を目指した集学的研究拠点の形成

6 研究観点 研究拠点を形成する研究

7 研究代表者

研究代表者名	所属部局名	職名
齋藤 一郎	歯学部	教授

8 プロジェクト参加研究者数 28 名

9 該当審査区分 理工・情報 ☐生物・医歯 人文・社会

10 研究プロジェクトに参加する主な研究者

研究者名	所属・職名	プロジェクトでの研究課題	プロジェクトでの役割
齋藤一郎	歯学部・教授	長寿病因・病態モデルマウスの作出と解析	病因の解明
松本直行	歯学部・准教授	臨床検体の網羅的遺伝子解析	診断法の開発
早川徹	歯学部・教授	新規治療法の分析	治療法の開発
朝田芳信	歯学部・教授	硬組織疾患関連遺伝子の解析と臨床応用	治療法の開発
船山ひろみ	歯学部・講師	結晶分析による構造解析	病因の解明
二藤彰	歯学部・教授	加齢変化の解析への応用	診断手技の開発
小川匠	歯学部・教授	形態学的診断への応用	診断手技の開発
濱田良樹	歯学部・教授	疾患の非侵襲的対処法	診断手技の開発
大島朋子	歯学部・学内教授	微生物診断への応用	診断手技の開発

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

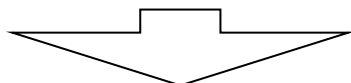
下田信治	歯学部・教授	硬組織の老化度分析	病因の解明
奥村敏	歯学部・教授	筋組織の病態解析	病因の解明
花田信弘	歯学部・教授	口腔機能と全身疾患の検討	病因の解明
山越康雄	歯学部・教授	硬組織の病態解析	病態機序の解明
黒田範行	歯学部・講師	長寿関連遺伝子の基礎的研究	病因の解明
(共同研究機関等) 中村誠司	九州大学大学院歯学研究員・教授	難治性唾液腺障害の解析	治療法の開発
豊福明	東京医科歯科大学歯学総合研究科・教授	歯科心身症の解析	病態の解明

<研究者の変更状況(研究代表者を含む)>

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
硬組織の病態解析	歯学部・准教授	山越康雄	病態機序の解明

(変更の時期:平成 28 年 4 月 1 日)



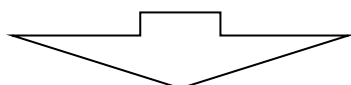
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
歯学部・准教授	歯学部・教授	山越康雄	病態機序の解明

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
生体成分の微量元素分析	歯学部・講師	山田浩之	治療法の開発

(変更の時期:平成 27 年 11 月 30 日に退職)



新

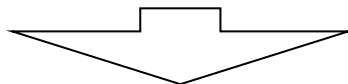
変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
	なし		

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
長寿関連遺伝子の基礎的研究	歯学部・准教授	佐藤秋絵	病因の解明

(変更の時期:平成 30 年 4 月 1 日)



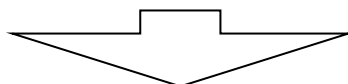
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
	歯学部・講師	黒田範行	病因の解明

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
微生物診断への応用	歯学部・教授	前田伸子	診断手技の開発

(変更の時期:平成 31 年 4 月 1 日)



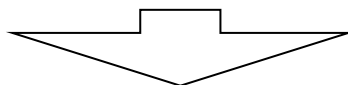
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
	歯学部・学内教授	大島朋子	診断手技の開発

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
臨床検体の網羅的遺伝子解析	歯学部・講師	梁洪淵	診断法の開発

(変更の時期:平成 31 年 4 月 1 日)



新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
	歯学部・准教授	松本直行	診断法の開発

11 研究の概要(※ 項目全体を10枚以内で作成)

(1)研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

研究目的・意義

口腔は生物としての生命維持に必要な咀嚼や摂食・嚥下という基本的機能を担うとともに、ヒトとしての根源的欲求である会話や味覚などの高次機能にも関与する。このような口腔顎顔面領域の機能は加齢により障害され、その心身の病的変化はさまざまである。口腔乾燥症を主症状とする自己免疫疾患の一つであるシェーグレン症候群や口腔粘膜疾患である再発性アフタ性潰瘍はじめ、心的障害や摂食・嚥下に関わる硬組織や筋組織の加齢変化は老化関連疾患: age-related diseases(ARD)として当該領域の難治性病態として位置付けられており、本研究プロジェクトでは本学に蓄積した病因・病態解析技術を集学的に駆使すると共に附属病院に集積した膨大な臨床検体を用いて病態解明から臨床研究への橋渡し研究を行うことを目的とし、基礎研究で得られた成果を臨床応用可能な知見にまで到達させるトランスレーショナルリサーチを実施

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

施する。このような取り組みは超高齢社会において極めて重要な検討課題であり、これらの病態解明や治療法を確立することの社会的意義は極めて大きい。

研究計画の概要

初年度は口腔顎顔面領域における加齢に伴う病因・病態解明と効果的治療法確立のための研究試料・医療情報の分析と、これにより 5 年計画の将来にわたって展開されるさまざまな研究のための試料の安定的確保を目指した。次年度(平成 28 年度)には既存の臨床検体や収集した検体の病因・病態解析を各領域の研究者により実施した。すなわち次世代型の最先端の科学技術を当該研究に駆使し、先進的な解析により口腔における加齢現象の実態の把握を行った。平成 29 年度には前年度に得られた成果を基に病因並びに病態を再現したさまざまな病態モデルにより診断法ならびに治療法の検討を行い、平成 30 年度にはこの領域から提案された口腔老化病態モデルを用いた病変の修復機構の検討を行い検証する。令和元年度にはこれまでの成果の集大成としてヒトへの応用を検討した臨床応用の具現化について検証する。

(2) 研究組織

本事業では斎藤一郎代表による研究統括のもと、上記 10 に記載した役割分担の通り、鶴見大学歯学部基礎・臨床歯科医学研究者の中から、「難治性口腔疾患や顎機能障害の病因・病態解析」「加齢変化における該当硬組織の解析や診断法ならびに治療法の臨床応用」「加齢による防御的な生体変化の解析と関連する薬剤開発」を得意とする研究者 14 名をコアメンバーとし、これに、難治性唾液腺障害の中村誠司教授(九州大学)と歯科心身症の解析の豊福明教授(東京医科歯科大学)の 2 名が学外研究者として参加することで、研究基盤形成の促進を図った。

また、定期的に研究成果報告会を開催し互いの研究課題の研究状況を討議することで研究者間の有機的な連携を深めた。本事業では教員 14 名、大学院生 9 名の若手研究者が口腔加齢制御研究センターにおいて、本事業に関連する研究を推進した。外部評価は関連領域の外部有識者である慶應大学医学部の坪田一男教授、東京大学医学部の水島昇教授、広島大学歯学部の高田隆教授に委嘱し、プロジェクトの効率的な遂行を図った。

鶴見大学からの研究支援と文部科学省からの資金的援助を受け、学外研究者とは有機的に本事業を推進する体制であった。

(3) 研究施設・設備等

当該拠点は鶴見大学歯学部 2 号館ならびに 3 号館に設置されており、口腔加齢制御研究センターを中心に研究施設の充実を図った。総面積で 2 号館 318m²、動物舎(2 号館) 36m²、3 号館ハイテクリサーチセンター 304m²で常時 28 名の研究者が従事した。本研究のために平成 27 年度以降に設置された主な研究装置とその利用時間は以下の通りである。

タンパク質画像解析装置(8 時間/月)、ラボ用オートクレーブ(22 時間/月)、マイクロ冷却遠心機(8.5 時間/月)、マイクロローター(4 時間/月)、GPS タイムコードジェネレータ(8 時間/月)、パナソニック CO2 インキュベーター(常時稼働)、リトラーム(6~7 時間/月)、ニコン NIS-Elements AR-SP/NIS-A 3D Measurement(7 時間/月)、MiniAmp Plus サーマルサイクラー(4 時間/月)、運動負荷装置 WZ-1504 4 連(6 時間/月)、超音波双方向血流計一式(4.5 時間/月)、ハンディ型ガス分析器(5 時間/月)

(4) 研究成果の概要 ※下記、13 及び 14 に対応する成果には下線及び*を付すこと。

【斎藤/松本】重度な唾液腺傷害を生じるモデルマウスを用い、ヒト検体との対比を検討し解析を行った(*1)結果、様々な因子による腺組織障害の改善方法が確認できた(*2)。加えて唾液分泌障害により生じる口腔内の病態に対する治療効果を検討し成果を得た(*3)ことは老化に伴う本症の新たな治療薬の開発に貢献できたと考えている。

【早川】DNA/複合体は、加齢ラットの骨形成に有効であったが、操作性に問題があった(*4)。そこで、その場で DNA 複合体ペーストを合成する on-the-spot 合成法を考案し、DNA/プロタミンペースト、DNA/ゼラチンペーストを作製した。ラット抜歯窩に埋入して、骨形成状態を検討した結果、良好な骨形成が確認された(*5)。

【朝田/船山】加齢において生命維持に必要な咀嚼や嚥下機能に関連する咀嚼筋の生後発達過程に関与する microRNA の同定とそのシグナル経路について明らかにすることができた(*6)。また、小眼球症関連転写調節因子(MITF)が加齢変化の中でみとめられる咬筋の筋萎縮や線維化、アポトーシスに重要な役割を

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

果たすことが示唆された(*7)。

【二藤】口コモチブシンドロームは超高齢化社会において大きな課題であるが、その運動器を構成する重要な要素の1つである靱帯・腱組織の障害の修復は容易ではない。靱帯・腱組織は骨、軟骨や筋肉に繋がる組織であるが、それらとの連関をも含めた形成・維持・修復機構は十分には解明されていない。そこで本研究は、靱帯・靱帯・骨の形成・維持の機構解明を目的として研究を遂行した。

【小川】平成 27 年度：咀嚼運動試作計測器の性能評価を終了した。平成 28 年度：筋電図を用いた咀嚼能力の定量的解析法は、システム化には至っていないがデータ処理方法は完成した。平成 29 年度：顎運動情報と歯列・顎顔面形態情報の統合方法を考案完成した。加えて咀嚼による補綴装置の摩耗について実験系を確立し、各種歯科材料に対して検討した。平成 30～令和元年度：大規模データ収集および統計的解析は、延べ 126 名の機能および形態情報を収集し解析を実施している。以上より当初の研究計画に対して達成度は 80%である。

【濱田】加齢に伴う口腔顎顔面領域の機能低下、精神的影響について、治療に伴う口腔機能変化が大きい疾患患者を対象とした臨床研究、あるいは口腔老化モデルの動物実験を通して研究を進めたところ、いくつかの興味深い結果が得られた。

【大島】口腔常在真菌 *Candida* は加齢や口腔乾燥症、義歯装着で増加する。本真菌が口腔常在微生物叢および高齢者の健康に及ぼす影響と改善策を検討した。

【下田】ヒトの歯の老化度について無機質、水分、有機質を指標として各含有量の年代別変化率を解析した。その結果、年代間で歯質溶解性に有意な差はない(*8)、加齢に一致する無機質量の増加傾向(*9)、および加齢による石灰化量の平均増加率は萌出後 61 年以上ではほぼ 0 であることが判明した(*10)。

【奥村】不正咬合や歯周病などの口腔疾患と心疾患は交感神経の慢性刺激状態を誘発するが、両疾患の関連は不明である。本研究では口腔疾患と心疾患の関連性について検討した。

【花田】目的：口腔の加齢制御を目指して、栄養指導(*11)、口腔細菌の分析(*12)と制御、iPS 細胞を用いた口腔機能の再建まで幅広い研究を実施し、口腔機能を維持するのが目的である。

意義：栄養指導の技術(*13)、口腔細菌叢の分析(*14)・改善の技術、歯根膜再生技術の実用化を推進することにより、人生の最期まで口から食べるという人類の長年の夢が将来実現することが期待される。

計画の概要：栄養学(*15)、細菌学、再生医学の基礎研究の中から有望な知見を選び出し、臨床歯学研究に至るまでのプロセスを推進する Translational Research を実施した。1、2 年目は上下の歯の接触状況と食事形態の関係を探った。3 年目は、歯根膜の再生医療の実用化を目指した研究を実施し、さらに、4、5 年目は、歯を失わないために栄養指導の手法(*16)、唾液検査(*17)・細菌分析(*18)・改善の手法を探索した。

【山越】象牙質形成過程における生理活性物質のトランスフォーミング成長因子ベータ(TGF- β)は歯髓組織および象牙芽細胞中では象牙質シアロリタンパク(DSPP)の遺伝子発現を上昇させ、象牙質基質中では DSPP 由来タンパクと結合することで活性が維持され、加齢に伴うタンパクの分解と共にその活性が失活していくことを解明できた(*19)ことより、本プロジェクトは順調に進められたといえる。

【黒田】老化現象の原因の一つとして、タンパク質恒常性喪失による不要タンパク質や変性タンパク質の蓄積などが指摘されている。このようなタンパク質恒常性の喪失の原因としては、ユビキチン-プロテアソーム系やオートファジー系といったタンパク質分解経路の機能低下が考えられている。

これまでに老化研究のモデル生物である短寿命の魚である turquoise killifish で研究された寿命関連遺伝子の 1 つとしてオートファジー関連遺伝子である *ATG5* の変異が指摘されており、オートファジー系の機能低下が老化の主たる原因ではないかと考えられている。

今回の一連の研究において、臨床的に慢性肝炎に対して処方されているグリチルリチンを培養細胞に添加したところ *ATG5* を含むいくつかのオートファジー関連遺伝子の発現量が更新していることが判明し、その際に培養細胞において、ポジティブコントロールとして FCS を除去した培地で培養することで飢餓状態においたものと同程度かそれ以上に、細胞内に多数のオートファゴソームが存在していることが明らかとなった。

これらのことより、グリチルリチンにオートファジー亢進能が見られることを見出した。

【中村】シェーグレン症候群(SS)は、唾液腺や涙腺などの外分泌腺が特異的に障害を受ける臓器特異的自己免疫疾患であるが、加齢や老化(エストロゲンの枯渇など)もリスクファクターの1つと考えられ、増齢的な発症傾向がある。しかし、発症の詳細なメカニズムは未だ不明であり、診断にも侵襲を伴う検査を行う必要が

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

あることから、病態解明と非侵襲性の診断方法の確立が望まれている。

本研究のプロジェクトでは、非侵襲的で簡便かつ繰り返し採取可能な唾液に注目し、唾液中のサイトカイン濃度を網羅的に検索し、一部の炎症性サイトカイン(TNF- α 、INF- γ 、IL-1 β 、IL-4、IL-8、IL-10)が有意に高かった(*20)。さらに、より SS の病態に特異的な分子を同定するため、近年自己免疫疾患の発症に関与していることが指摘されている Toll 様受容体(TLR)に注目し、SS の口唇腺を用いて網羅的遺伝子解析およびバリデーションを行った結果、TLR8 のみに発現亢進を認めた。

そこで、病変局所の TLR8 発現細胞の同定と機能解析を行った結果、CD68 陽性の単球/マクロファージが主な発現細胞であった(*21)。そこで、単球の細胞株である U-937 細胞株に対する TLR8 アゴニスト(R848)による刺激実験を行ったところ、TLR8 過剰発現させた細胞株のみに、TNF- α の産生亢進を認めた(*22)。さらに、今年度の研究では、ヒト TLR8 トランスジェニック/マウス TLR8 ノックアウト(huTLR8 Tg/mTLR KO)マウスを作成し、その表現型を検証した。その結果、mTLR8 KO マウスと比較して、顎下腺のリンパ球浸潤および線維化が亢進していた。これらの結果より、SS の発症には TLR8 を介した自然免疫が関与していることが示唆される。今後は炎症性サイトカインに加え TLR8 に注目し、唾液を用いた新たな診断方法を確立するとともに、新規標的分子治療への展開を目指す。

【豊福】これまで不明瞭であった、歯科心身症患者の加齢に伴う臨床的特性について明らかにした(*23)。

また三叉神経領域の神経障害性疼痛モデルによって satellite cells が関与する慢性疼痛発症機序の一部を明らかにした(*24)。これらの基礎と臨床を橋渡しする研究によって、中高年に好発する歯科心身症の臨床像をより明確にし、効果的な治療法の検討を行った。

<優れた成果が上がった点>

【斎藤/松本】増齢的にユビキノールの体内量が減少することやその作用機序として唾液腺における ATP 産生の増強や腺組織の活性酸素を除去し、過酸化脂質の生成ならびにタンパク質の酸化修飾を抑制することによる唾液分泌能の活性化が想定されていることから、健康者を対象とした臨床研究等でその有効性が明らかとなった(*25)。

【早川】新たに開発した on-the-spot 合成法では、DNA の粘調水溶液に塩基性タンパク質を添加するだけで、その場で DNA 複合体ペーストの作製が可能である(*26)。ペーストの流動性の調節も容易であり、必要量のペースト作製が可能であるなどの利点も有しており、操作性が飛躍的に改善した。

【朝田/船山】咬筋において、MITF がオートファジーを抑制することにより、加齢変化の中でみとめられる筋萎縮、線維化、アポトーシスを誘導する可能性が示唆された(*27)。

【二藤】平成 27～29 年度：ヒストン H3 メチル化酵素 G9a が腱細胞の増殖・分化ならびに腱組織形成に必須であり、腱組織形成が epigenetic に制御されることを示した点(*28)は極めて優れた成果である。また G9a が骨芽細胞においても増殖・分化に必須であることも示した。平成 27～令和元年度：腱・靱帯と骨の付着部(enthesis)にアネキシン a5(Anxa5)が強く発現する事を見出した。Anxa5 が phosphate/pyrophosphate 制御分子の発現調節を介して、力学的負荷に対する entheses の形成・維持を負に制御する可能性を示した点(*29)は極めて優れた成果である。

【小川】本研究課題では摂食・咀嚼・嚥下機能記録解析システムの開発を行った(*30)。顎運動測定(*31)、形態計測(*32)と情報統合技術(*33)は完成できた。成果は、国内外で高い評価を得た(*34)。食塊粒度解析法による咀嚼能率解析法を検討した(*35)。また、咀嚼の補綴装置等への影響を検討するため、歯科材料の摩耗特性を検討した(*36)。

【濱田】高齢者の口腔機能低下を想定し、顎骨再建患者や顎変形症患者の治療を通して口腔機能や精神的変化を適切に評価する方法について検討を進めた結果、患者の口腔機能と精神的改善が確認されたとともに、その評価項目の有効性が示唆された(*37)。また、加齢に伴う唾液分泌低下を想定した唾液腺摘出マウスによる研究を通して、唾液分泌低下が消化管粘膜や腸内細菌叢へ影響を与えることが判明し、全身疾患との関連性が示唆された(*38)。

【大島】血液成分との相関解析から、Candida は炎症の存在や肝機能低下と関連する可能性が示された(*39)。高齢者の口腔細菌叢を次世代シーケンスにより網羅的に解析(*40)したところ、多様性が Candida 増加と有意に逆相関していた。抗真菌剤による介入試験を行ったところ、口腔と全身の健康改善が見られた(*41)。Candida 含有プラークは除去困難(*42)なため、高齢者の食生活での排除法として、プロバイオティクスの有用性とメカニズム候補を示すことができた(*43)。

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

【下田】本研究により歯質に含まれる無機質の年代別変化率を明らかにすることができ、歯質の脱灰と無機質量の亢進に関して口腔内の唾液が重要な因子であることが示唆された。

【奥村】心筋と咬筋に発現する β -アドレナリン受容体(β -AR)のサブタイプ(β_1 , β_2)特異的な役割を解析したところ β_1 -AR経路は心筋と咬筋のリモデリングを誘導するが、 β_2 -AR経路は、肥大は誘導するが、組織学的異常は誘導しなかった(*44)。

【花田】栄養(*45)・運動と全身の健康の架け橋を担う歯科補綴と栄養指導の組み合わせは、体組成と代謝指標を改善することが明らかになった(*46)。

【山越】本研究において TGF- β の動態を解明できたことは、何らかの原因によって歯質の欠損が象牙質にまで至った際に、その部分の歯髄腔側で生じる象牙質形成機構の情報を得るだけでなく、加齢に応じて歯髄腔全体に見られる第二象牙質の形成機構の解明の一助となり、優れた成果の一つと考える。

【黒田】これまでもいくつかオートファジー亢進能を持つ物質が報告されているが、既に慢性肝炎に対して臨床的に投与されており、安全性などがある程度確かめられているグリチルリチンの新しい機能としてオートファジー亢進能があることを見出した。このことはグリチルリチンの新しい薬理作用を示唆しており、新しい臨床応用への道を切り開くものである。

【中村】これまで、難渋していた SS の診断および治療に対して、全く新しいアプローチで解析を進めており、その研究成果の一部は、英文論文に発表しており、今後実用に向けて進めて行く予定である。

【豊福】特に老化とともに増加する舌痛症(*47)や口腔セネストパシー(*48)の臨床・疫学的データやそれらの治療データ(*49)を示すことができた。

<課題となった点>

【斎藤/松本】ジフテリア毒素による組織特異的細胞死誘導システム(TRECK)を用いた唾液腺組織障害遺伝子改変モデルマウスを作出し、その解析を行ったところ唾液腺疾患の病態モデルとしての有用性が確認できたが、本研究期間中に全ての企画した実験が終了できず今後も継続する予定である。

【早川】DNA、プロタミンおよびゼラチンの添加順序の違いでペーストの性質、例えば流動性などが大きく異なることが分かった。また、それぞれの分子量もペーストの性質に影響した。

【朝田/船山】mitf 遺伝子変異型マウスの繁殖が難しくサンプル数の確保に時間を要した。飼育条件や飼育方法について検討する必要がある。

【二藤】①腱細胞分化に必要な転写因子群と G9a の相互作用を解析する必要がある。

②Anxa5 が phosphate/pyrophosphate 制御分子発現の調節を担うが、Anxa5 発現量の変化による細胞内・外の phosphate/pyrophosphate 濃度変化を正確に捉える必要がある。

【小川】顎運動、筋電図等の生体情報同期記録のシステム化はできていないが異なる測定器からの情報を同一時間軸で解析するため GPS 時刻コードを用いる方法を確立した。筋電図による咀嚼機能解析法は技術的には完成している(*50)ため、筋電図等の準備ができればシステム化は問題ない。

【濱田】高齢者の口腔粘膜機能低下を想定した口腔粘膜疾患に対する栄養機能食品の有用性については明らかにできなかった。全体的に臨床データの蓄積が不十分となった(*51)。

【大島】真菌叢の網羅解析は、細菌と異なり条件設定が難しく、確立に至らなかった。抗真菌剤による *Candida* 除去で健康を維持できるメカニズムも予備的データを得るに留まった。

【下田】シンクロナロンをもちいて歯の硬組織の老化による高石灰化現象の解析を行った(世界初)が、現在のコンピュータではデータ処理速度が不十分であり、部分的な要約データの解析にとどまった。

【奥村】口腔疾患に起因する心疾患の予防に β -AR遮断薬の有効性を示唆する結果が得られた。同薬剤を高齢者に用いる場合導入初期の心機能や呼吸機能の増悪などの副作用がある。そのため、 β -AR より下流の新規治療標的の開発が必要である。

【花田】歯根膜細胞からの iPS 細胞の樹立には成功したものの歯根膜細胞に分化させる技術の確立には至らなかった。

【山越】象牙質中に含まれる TGF- β 以外の生理活性物質の動態についても理解すると共に研究に必要な歯髄細胞の安定化を図る(*52)ことが今後の課題となる

【黒田】現在のところ、オートファゴソームに特異的に結合する蛍光物質や、anti-LC3 抗体を用いた免疫染色などによって、細胞内にポジティブコントロールと同程度のオートファゴソームの生成が確認されたことによってオートファジー亢進能の確認を行った。しかしながらオートファジー亢進能の定量的計測に適切な測定法が見

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

出だせていないために、他のオートファジー亢進剤との比較が行えていない。

【中村】本研究で作成したヒト TLR8 トランスジェニックマウスは全身発現性モデルマウスであり、SS の病態を忠実に反映するためには、コンディショナルトランスジェニックマウスを作成中である。

【豊福】高齢者では生物学的年齢と脳機能の老化現象には多様性が大きく、特に PBS の脳機能画像研究(*53)に関しては不満足な成果となった。

＜自己評価の実施結果と対応状況＞

斎藤一郎代表の統括のもとで研究成果報告会を毎年開催することで研究の進捗状況は常に検討してきた。各研究者は年度ごとに研究の進捗と今後の計画を報告し、研究代表者が全体の進捗状況と問題点とその対応について討議し、事業計画の改善を図ってきた。基礎研究では、口腔領域に関連する老化関連因子を見出しており、既に動物モデルを用いて臨床応用を目指した研究を開始した研究もある。また、口腔の種々の組織や臓器に関する加齢制御機構の確立も進展してきた。臨床研究では、本学歯学部倫理審査委員会にて倫理申請の承認後に研究を開始し、下記の成果が得られている。

重度な唾液腺傷害を生じるモデルマウスを用い、ヒト検体との対比を検討し解析を行った(*1)結果、様々な因子による腺組織障害の改善方法が確認できた(*2)。加えて唾液分泌障害により生じる口腔内の病態に対する治療効果を検討し成果を得た(*3)ことは老化に伴う本症の新たな治療薬の開発に貢献できたと考えている。

加齢研究における DNA/複合体のこれまでの成果は、加齢ラットの骨形成に有効であったが、操作性に問題があった(*4)。そこで、その場で DNA 複合体ペーストを合成する on-the-spot 合成法を考案し、DNA/プロタミンペースト、DNA/ゼラチンペーストを作製した。ラット抜歯窩に埋入して、骨形成状態を検討した結果、良好な骨形成が確認された(*5)。

加齢において生命維持に必要な咀嚼や嚥下機能に関連する咀嚼筋の生後発達過程に関与する microRNA の同定とそのシグナル経路について明らかにすることができた(*6)。また、小眼球症関連転写調節因子(MITF)が加齢変化の中でみとめられる咬筋の筋萎縮や線維化、アポトーシスに重要な役割を果たすことが示唆された(*7)。

ロコモティブシンドロームは超高齢化社会において大きな課題であるが、その運動器を構成する重要な要素の1つである靱帯・腱組織の障害の修復は容易ではない。靱帯・腱組織は骨、軟骨や筋肉に繋がる組織であるが、それらとの連関をも含めた形成・維持・修復機構は十分には解明されていない。そこで本研究は、靱帯・靱帯・骨の形成・維持の機構解明を目的として研究を遂行した。

咀嚼運動試作計測器の性能評価終了。筋電図を用いた咀嚼能力の定量的解析法は、システム化には至っていないがデータ処理方法や顎運動情報と歯列・顎顔面形態情報の統合方法を考案完成した。加えて咀嚼による補綴装置の摩耗について実験系を確立し、各種歯科材料に対して検討した。大規模データ収集および統計的解析は、延べ 126 名の機能および形態情報を収集し解析を実施している。以上により当初の研究計画に対して達成度は 80%である。

加齢に伴う口腔顎顔面領域の機能低下、精神的影響について、治療に伴う口腔機能変化が大きい疾患患者を対象とした臨床研究、あるいは口腔老化モデルの動物実験を通して研究を進めたところ、いくつかの興味深い結果が得られた。

口腔常在真菌 *Candida* は加齢や口腔乾燥症、義歯装着で増加する。本真菌が口腔常在微生物叢および高齢者の健康に及ぼす影響と改善策を検討した。

ヒトの歯の硬組織の老化度について無機質、水分、有機質を指標として各含有量の年代別変化率を解析した。その結果、年代間で歯質溶解性に有意な差はない(*8)、加齢に一致する無機質量の増加傾向(*9)、および加齢による石灰化量の平均増加率は萌出後 61 年以上ではほぼ 0 であることが判明した(*10)。

不正咬合や歯周病などの口腔疾患と心疾患は交感神経の慢性刺激状態を誘発するが、両疾患の関連は不明である。本研究では口腔疾患と心疾患の関連性について検討した。

口腔の加齢制御を目指して、栄養指導(*11)、口腔細菌の分析(*12)と制御、iPS 細胞を用いた口腔機能の再建まで口腔機能を維持することを目的として幅広い研究を実施。上下の歯の接触状況と食事形態の関係を検討し、歯根膜の再生医療の実用化を目指した研究を実施した。さらに歯を失わないために栄養指導の手法(*16)、唾液検査(*17)・細菌分析(*18)・改善の手法を確立した。

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

加齢変化に伴う象牙質形成過程における生理活性物質のトランスフォーミング成長因子ベータ(TGF- β)は歯髄組織および象牙芽細胞中では象牙質シアロリタンパク(DSPP)の遺伝子発現を上昇させ、象牙質基質中では DSPP 由来タンパクと結合することで活性が維持され、加齢に伴うタンパクの分解と共にその活性が失活していくことを解明できた(*19)。

老化現象の原因の一つとして、タンパク質恒常性喪失による不要タンパク質や変性タンパク質の蓄積などが指摘されている。このようなタンパク質恒常性の喪失の原因としては、ユビキチン-プロテアソーム系やオートファジー系といったタンパク質分解経路の機能低下が考えられている。これまでに老化研究のモデル生物である短寿命の魚である turquoise killifish で研究された寿命関連遺伝子の1つとしてオートファジー関連遺伝子である *ATG5* の変異が指摘されており、オートファジー系の機能低下が老化の主たる原因ではないかと考えられている。

今回の一連の研究において、臨床的に慢性肝炎に対して処方されているグリチルリチンを培養細胞に添加したところ *ATG5* を含むいくつかのオートファジー関連遺伝子の発現量が更新していることが判明し、その際に培養細胞において、ポジティブコントロールとして FCS を除去した培地で培養することで飢餓状態においたものと同程度かそれ以上に、細胞内に多数のオートファゴソームが存在していることが明らかとなった。

これらのことより、グリチルリチンにオートファジー亢進能が見られることを見出した。

シェーグレン症候群(SS)は、唾液腺や涙腺などの外分泌腺が特異的に障害を受ける臓器特異的自己免疫疾患であるが、加齢や老化(エストロゲンの枯渇など)もリスクファクターの1つと考えられ、増齢的な発症傾向がある。しかし、発症の詳細なメカニズムは未だ不明であり、診断にも侵襲を伴う検査を行う必要があることから、病態解明と非侵襲性の診断方法の確立が望まれている。本研究のプロジェクトでは、非侵襲性で簡便かつ繰り返し採取可能な唾液に注目し、唾液中のサイトカイン濃度を網羅的に検索し、一部の炎症性サイトカイン(TNF- α 、INF- γ 、IL-1 β 、IL-4、IL-8、IL-10)が有意に高かった(*20)。さらに、よりSSの病態に特異的な分子を同定するため、近年自己免疫疾患の発症に関与していることが指摘されている Toll 様受容体(TLR)に注目し、SS の口唇腺を用いて網羅的遺伝子解析およびバリデーションを行った結果、TLR8 のみに発現亢進を認めた。

そこで、病変局所の TLR8 発現細胞の同定と機能解析を行った結果、CD68 陽性の単球/マクロファージが主な発現細胞であった(*21)。そこで、単球の細胞株である U-937 細胞株に対する TLR8 アゴニスト(R848)による刺激実験を行ったところ、TLR8 過剰発現させた細胞株のみに、TNF- α の産生亢進を認めた(*22)。さらに、今年度の研究では、ヒト TLR8 トランスジェニック/マウス TLR8 ノックアウト(huTLR8 Tg/mTLR KO)マウスを作成し、その表現型を検証した。その結果、mTLR8 KO マウスと比較して、顎下腺のリンパ球浸潤および線維化が亢進していた。これらの結果より、SS の発症には TLR8 を介した自然免疫が関与していることが示唆される。今後は炎症性サイトカインに加え TLR8 に注目し、唾液を用いた新たな診断方法を確立するとともに、新規標的分子治療への展開を目指す。

これまで不明瞭であった、歯科心身症患者の加齢に伴う臨床的特性について明らかにした(*23)。また三叉神経領域の神経障害性疼痛モデルによって satellite cells が関与する慢性疼痛発症機序の一部を明らかにした(*24)。これらの基礎と臨床を橋渡しする研究によって、中高年に好発する歯科心身症の臨床像をより明確にし、効果的な治療法の検討を行った。

増齢的にユビキノールの体内量が減少することやその作用機序として唾液腺における ATP 産生の増強や腺組織の活性酸素を除去し過酸化脂質の生成ならびにタンパク質の酸化修飾を抑制することによる唾液分泌能の活性化が想定されていることから健常者を対象とした臨床研究等でその有効性が明らかとなった(*25)。

新たに開発した on-the-spot 合成法では、DNA の粘調水溶液に塩基性タンパク質を添加するだけで、その場で DNA 複合体ペーストの作製が可能である(*26)。ペーストの流動性の調節も容易であり、必要量のペースト作製が可能であるなどの利点も有しており、操作性が飛躍的に改善した。

咬筋において、MITF がオートファジーを抑制することにより、加齢変化の中でみとめられる筋萎縮、線維化、アポトーシスを誘導する可能性が示唆された(*27)。

ヒストン H3 メチル化酵素 G9a が腱細胞の増殖・分化ならびに腱組織形成に必須であり、腱組織形成が epigenetic に制御されることを示した点(*28)は極めて優れた成果である。また G9a が骨芽細胞においても増殖・分化に必須であることも示した。腱・靱帯と骨の付着部(enthesis)にアネキシン a5(Anxa5)が強く発現する事を見出した。Anxa5 が phosphate/pyrophosphate 制御分子の発現調節を介して、力学的負荷に対す

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

る *entheses* の形成・維持を負に制御する可能性を示した点(*29)は極めて優れた成果である。

本研究課題では摂食・咀嚼・嚥下機能記録解析システムの開発を行った(*30)。顎運動測定(*31)、形態計測(*32)と情報統合技術(*33)は完成できた。成果は、国内外で高い評価を得た(*34)。食塊粒度解析法による咀嚼能率解析法を検討した(*35)。また、咀嚼の補綴装置等への影響を検討するため、歯科材料の摩耗特性を検討した(*36)。

高齢者の口腔機能低下を想定し、顎骨再建患者や顎変形症患者の治療を通して口腔機能や精神的変化を適切に評価する方法について検討を進めた結果、患者の口腔機能と精神的改善が確認されるとともに、その評価項目の有効性が示唆された(*37)。また、加齢に伴う唾液分泌低下を想定した唾液腺摘出マウスによる研究を通して、唾液分泌低下が消化管粘膜や腸内細菌叢へ影響を与えることが判明し、全身疾患との関連性が示唆された(*38)。

血液成分との相関解析から、*Candida* は炎症の存在や肝機能低下と関連する可能性が示された(*39)。高齢者の口腔細菌叢を次世代シーケンスにより網羅的に解析(*40)したところ、多様性が *Candida* 増加と有意に逆相関していた。抗真菌剤による介入試験を行ったところ、口腔と全身の健康改善が見られた(*41)。*Candida* 含有プラークは除去困難(*42)なため、高齢者の食生活での排除法として、プロバイオティクスの有用性とメカニズム候補を示すことができた(*43)。

本研究により歯質に含まれる無機質の年代別変化率を明らかにすることができ、歯質の脱灰と無機質量の亢進に関して口腔内の唾液が重要な因子であることが示唆された。

心筋と咬筋に発現する β -アドレナリン受容体(β -AR)のサブタイプ(β_1 , β_2) 特異的な役割を解析したところ β_1 -AR 経路は心筋と咬筋のリモデリングを誘導するが、 β_2 -AR 経路は、肥大は誘導するが、組織学的異常は誘導しなかった(*44)。

栄養(*45)・運動と全身の健康の架け橋を担う歯科補綴と栄養指導の組み合わせは、体組成と代謝指標を改善することが明らかになった(*46)。

本研究において TGF- β の動態を解明できたことは、何らかの原因によって歯質の欠損が象牙質にまで至った際に、その部分の歯髄腔側で生じる象牙質形成機構の情報を得るだけでなく、加齢に応じて歯髄腔全体に見られる第二象牙質の形成機構の解明の一助となり、優れた成果の一つと考える。

これまでもいくつかオートファジー亢進能を持つ物質が報告されているが、既に慢性肝炎に対して臨床的に投与されており、安全性などがある程度確かめられているグリチルリチンの新しい機能としてオートファジー亢進能があることを見出した。このことはグリチルリチンの新しい薬理作用を示唆しており、新しい臨床応用への道を切り開くものである。

難渋していた SS の診断および治療に対して、全く新しいアプローチで解析を進めており、その研究成果の一部は、英文論文に発表しており、今後実用に向けて進めて行く予定である。

特に老化とともに増加する舌痛症(*47)や口腔セネストパシー(*48)の臨床・疫学的データやそれらの治療データ(*49)を示すことができた。

<外部(第三者)評価の実施結果と対応状況>

外部評価は坪田一男(慶應大学医学部 教授)、水島 昇(東京大学医学部 教授)、高田 隆(広島大学歯学部 教授)の3名に委嘱し、研究成果報告書における外部評価委員に評価を依頼したところ、中間評価として以下のような講評を得ることができ、それらの講評を運営会議において討議し、研究者間の連携をより高め、臨床応用を視野に入れて標的を絞った研究を展開することとした。

慶應大学医学部眼科学の坪田一男教授からは、三段階評価(A,B,C 評価)の内、A(優れた研究成果を上げている)評価と、「ドライマウスを中心とした老化と関連する幅広い研究で成果が上っていると判断します。この様なアプローチは、非常にユニークなものであり、興味深い方向性と思われます。特に糖尿病における唾液分泌障害成立機序の検討は糖尿病患者数の増大を見越して重要なものになると思われます。」という評価を頂き、東京大学大学院医学系研究科医学部分子生物学分野 水島 昇教授からは、A(優れた研究成果を上げている)評価と、「口腔の加齢制御に関連して、多分野からのアプローチがなされています。各研究部門からは継続的に成果がでており、それらが頻回な報告会で共有されています。研究成果と拠点としての機能のいずれもが高く評価されます。一般的にも注目度の高い研究テーマであるため、もし公開講演などの取り組みがあれば、最終報告に含めていただけるとよいと思います。」と評価された。広島大学大学院医歯薬学総合研究科創成医科学専攻先進医療開発科学講座の高田 隆教授・副学長からは、A(優れ

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

た研究成果を上げている)評価と、「本研究プロジェクトでは加齢に伴う口腔機能の低下を制御するための医療技術を開発することを目的に、基礎研究と臨床研究の連携による集学的なアプローチを実施している。平成 27～29 年度の 3 年間にわたる成果報告会の資料にあるように基礎系研究室と臨床系研究室から加齢にかかわる多くの研究成果が報告され、研究代表者である斎藤教授のもとでよく取りまとめられている。今後、これらの成果が新たな臨床技術の開発につながることを大いに期待したい。」との外部評価を得た。

最終年度も同様に外部評価を依頼したところ、高田 隆(広島大学)は定年退職したことから、上記の 2 名で行われた。慶応大学医学部の坪田一男教授からは A(優れた研究成果を上げている)評価と、「加齢によって様々な器官が機能を失っていきませんが、特に唾液腺の低下が著しく、現在ではドライマウス・う歯など大きな問題となっています。超高齢化社会に於いてはクオリティオブライフが非常に重要であり、今回、口腔加齢制御研究センターが行った研究は、日本の高齢化社会にとって特に食のクオリティオブライフにとって大変重要なものと考えます。サイエンスのレベルも高く、斎藤一郎教授の指導力に敬意を表する次第です。」との講評を頂いた。

東京大学医学部の水島 昇教授からは A(優れた研究成果を上げている)評価と、「口腔の加齢制御を目指した研究拠点形成について、文字通り集学的なアプローチがなされた。基礎から臨床、さらには歯科周辺領域をも交えた幅広い研究によって多くの研究成果が得られた。それらは拠点メンバーの継続的な論文発表にも現れている。報告会では、内部の発表だけではなく、関連する外部講師の特別講演も用意されており、若手育成という観点からも拠点に参加している研究者にとって得るものが大きかったと考えられる。老化制御の重要性が認識される中、口腔領域を中心とした本拠点形成の意義は大きく、十分な成果が得られたと判断される。」との講評を得た。

<研究期間終了後の展望>

【斎藤/松本】本件で作出した唾液腺組織障害遺伝子改変モデルマウスを用い、その腺組織の詳細な障害機序や治療法を開発を令和 2 年 10 月まで継続し国際誌へ投稿する計画である。

【早川】on-the-spot 合成法で作製した DNA ペーストには成長因子の添加も容易に可能である。加齢モデルラット、骨粗鬆症モデルラットなどを用いて、抜歯窩のみならず、垂直性骨欠損などへの応用についても検討していく。

【朝田/船山】これまでの研究成果について、論文にまとめ、学会発表を行う予定である。また、今後は、MITF と加齢変化との関連性および加齢におけるオートファジーと線維化やアポトーシスなど組織のリモデリングの関連性やその機序について詳細に解析する予定である。

【二藤】上記の課題点の解決に努める。さらに、in vitro の細胞伸展実験から Anxa5 が仲介する G9a の制御機構、ならびに腱・靱帯から骨への制御機構を解析し、腱・靱帯・骨ユニットの形成・維持のメカニズム解明に取り組んでいく。

【小川】システムを完成させ、咀嚼機能評価と加齢制御に対する臨床評価を実施するためのプロトコルの作製と大規模データの収集を行う。

【濱田】口腔顎顔面機能と形態改善が生活の質や精神状態に及ぼす影響について、今後もデータ蓄積と解析を進めることで、具体的な評価項目、検査項目が明確となると考えられる(*54)。また、唾液分泌低下が及ぼす消化管粘膜や腸内細菌叢へ影響について追加研究を行う事で全身疾患との関連性が明らかにできると考えられた(*55)。

【大島】口腔真菌叢の網羅的解析法の確立を行う。また、*Candida* 除去により健康を維持できる免疫メカニズムの検討を行う。

【下田】歯質無機質量の普及型マイクロ CT 装置による無機質の定量評価の確立により、(1)非破壊的な無機質定量測定の精度と利便性を高めることができる、(2)う蝕病巣内の脱灰抵抗因子の解析研究を促進できる、(3)個体歯の年齢推定の推定精度が現在の $\pm 10\%$ 以内から $\pm 5\%$ 以内に向上する。

【奥村】心臓型アデニル酸シクラーゼ (AC5) ならびに Epac1 (exchange protein activated by cAMP) が新規治療標的の候補になる可能性を示唆する実験データを検証する(*56)。

【花田】カスタムトレーを用いた口腔細菌叢制御(*57)により、高齢者の歯数の減少を防ぐ試みを推進する。

【山越】本研究により TGF- β が象牙質形成に重要な役割を担っていることが判明し、このことは iPS 細胞や歯髄細胞を用いた象牙質再生研究やインプラント治療、レーザー治療(*58)および覆髄治療などの臨床応用に向けた今後の研究に発展する可能性がある。

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

【黒田】今後もグリチルリチンのオートファジー亢進能の定量解析ならびに、様々なオートファジー阻害物質との相互作用を確認することによって、グリチルリチンのオートファジー経路への関与のメカニズムを明らかにしていくつもりである。

【中村】上記マウスを用いて、さらに TLR8 シグナルを解析するとともに、ヒト TLR8 キメラ抗体(すでに作成済み)を用いた、治療効果を検討し、新規標的分子薬の開発に繋げる。

【豊福】今後も加齢に伴う歯科心身症の観察研究や脳機能画像研究(特に脳形態の経時的変化の観察)などを継続していく。また単一施設でのデータ収集の限界には、今回得られたノウハウを活かし、全国の他機関との共同研究なども検討している。

<研究成果の副次的効果>

【斎藤/松本】高齢者や唾液分泌障害に併発する口腔カンジダ症の対処法として乳酸菌(EF2001)の有効性をヒト試験にて検証できたことや、加齢に伴うビタミン D の摂取量の低下を改善するための Cholecalciferol (VD3)の経口摂取は高齢者にみられる肺線維症の予防に対する有効性が示された知見は産学連携により実用化されるであろう。

【早川】DNA ペーストとの骨形成の比較で、ゼラチン/リン酸カルシウムペーストやアミノ酸含有アパタイトペーストにも骨形成を促進する効果が有る事が分かった(*59)。これらの結果から、骨形成に優れた新規なインジェクタブル骨補填材開発の示唆が得られた。

【朝田/船山】生後発達過程において、咬筋では筋分化誘発シグナル経路が優位に働くのに対し、腭腹筋では筋細胞増殖誘発シグナル経路が優位に活性化されることが示唆された(*60)。

【二藤】マウスではAnxa5が力学的負荷に対するenthesisの形成・維持を負に制御することを見出した(*61)。これらアネキシン分子群が腱断裂や外骨症の治療薬における候補分子となることを示した。

【小川】顎運動測定、形態計測と情報統合技術の成果は、顎運動情報を活用する次世代 CAD/CAM システムに応用できる(*62)。

【濱田】加齢に伴う唾液分泌低下を想定した唾液腺摘出マウスによる研究を通して、善玉菌が減少し、リウマチや糖尿病などと関連する菌が増加していることが判明し、唾液分泌低下と全身疾患との関連が示唆された(*63)。今後、唾液に焦点を絞った抗加齢研究へ発展できると考えられる。

【大島】補綴材料に付着するペリクル様唾液タンパク質とプラーク叢は菌面と大きな差は見られなかった(*64)。

【下田】本研究中に実施した歯質無機質の定性分析により、う蝕最表層に低分子リン酸カルシウム結晶が存在し、これによりう蝕病変の発症機構が明らかにされた点(*65)。

【奥村】抗ヘルペス薬(ビダラビン)がAC5の選択的抑制作用を有することを明らかにした(*66)。同薬剤はヒトへの投与が認可されているため早急な臨床応用が可能である(日本、米国、欧州の特許取得:特許(*67))。

【花田】口腔病原細菌の分析に代わる唾液ヘモグロビン法(*68)の開発の端緒を開いた。

【山越】本研究で見出された DSP-TGF- β および DPP-TGF- β 複合体を人工的に作製し、歯根膜再生誘導を高めるインプラント開発を目指した実験に着手している。

【黒田】グリチルリチンは既に医療の現場で、慢性肝炎などに対して臨床的に投与されている薬剤であり、その安全性試験などが既に行われている薬剤である。そのような薬剤の新しい機能の発見はグリチルリチンの新たな臨床的応用に繋がる可能性があると考えている。

【中村】TLR8 シグナルが SS の発症に関与していることが示唆されたため、診断にも応用できないかを検討するために、今後は唾液中の TLR8 および下流の関連分子の濃度も測定し、新たな診断マーカーとなり得るか検証する予定である。

【豊福】高齢者の本症の臨床データベース構築の1つのモデルケースとして、全国の他施設でも同様の研究手法を採用可能で、多施設での共同研究の可能性などが拓けてきた。それらの活用によって未診断・未治療で放置されている患者の福音につながるものと考えられる。

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

12 キーワード(当該研究内容をよく表していると思われるものを8項目以内で記載してください。)

- | | | |
|-------------------|------------------|--------------------|
| (1) <u>超高齢社会</u> | (2) <u>加齢変化</u> | (3) <u>口腔病変</u> |
| (4) <u>口腔機能</u> | (5) <u>口腔老化度</u> | (6) <u>老化関連遺伝子</u> |
| (7) <u>口腔異常感症</u> | (8) <u>学際的研究</u> | |

13 研究発表の状況(研究論文等公表状況。印刷中も含む。)

上記、11(4)に記載した研究成果に対応するものには＊を付すこと。

<雑誌論文> (別添資料 1)

【斎藤/松本】

- Islam S., Uehara O., Matsuoka H., Kuramitsu Y., Adhikari BR., Hiraki D., Toraya S., Jayawardena A., Saito I., Muthumala M., Nagayasu H., Abiko Y., Chiba I.: DNAhypermethylation of sirtuin 1 (SIRT1) caused by betel quid chewing—a possible predictive biomarker for malignant transformation. Clin. Epigenetics. 2020 Jan 13;12(1):12. doi: 10.1186/s13148-019-0806-y.
- Isono Y., Furuya M., Kuwahara T., Sano D., Suzuki K., Jikuya R., Mitome T., Otake S., Kawahara T., Ito Y., Muraoka K., Nakaigawa N., Kimura Y., Baba M., Nagahama K., Takahata H., Saito I., Laura S. Schmidt, W. Marston, Linehan, Kodama T., Yao M., Oridate N., Hasumi H.: FLCN alteration drives metabolic reprogramming towards nucleotide synthesis and cystic formation in salivary gland. Biochem. Biophys. Res. Commun., 2020 Feb 19;522(4):931–938. doi: 10.1016/j.bbrc.2019.11.184. Epub 2019 Dec 2.
- Tsujino I., Ushikoshi-Nakayama R., Yamazaki T., Matsumoto N., Saito I.: Pulmonary activation of vitamin D3 and preventive effect against interstitial pneumonia. J. Clin. Biochem. Nutr., 2019 Nov;65(3):245–251. doi: 10.3164/jcbn.19-48. Epub 2019 Sep 11.
- (*) Yamazaki T., Ushikoshi-Nakayama R., Shirone K., Suzuki M., Abe S., Matsumoto N., Inoue H., Saito I.: Evaluation of the effect of a heat-killed lactic acid bacterium, *Enterococcus faecalis* 2001, on oral candidiasis. Benef. Microbes, 2019. July 10 (6): 661–669. doi.org/10.3920/BM2018.0115
- (*)25 Ushikoshi-Nakayama R., Ryo K., Yamazaki T., Kaneko M., Sugano T., Ito Y., Matsumoto N., Saito I.: Effect of gummy candy containing ubiquinol on secretion of saliva: A randomized, double-blind, placebo-controlled parallel-group comparative study and an in vitro study. PLoS One, 2019 Apr 3;14(4):e0214495. doi: 10.1371/journal.pone.0214495. eCollection 2019.
- Ryo K., Kaneko M., Takahashi K., Ono H., Ogasawara T., Abe M., Saito I.: Study on the salivation effect of encapsulated food products containing Sichuan pepper oil. Clin. Exp. Dent. Res., 2019 Jan 31;5(1):7–13. doi: 10.1002/cre2.149. eCollection 2019 Feb.
- Makino K., Takeuchi O., Imai K., Inoue H., Hatori K., Himi K., Saito I., Ochiai K., Ogiso B.: Porphyromonas endodontalis reactivates latent Epstein-Barr virus. Int. Endod. J., 2018 Dec;51(12):1410–1419. doi: 10.1111/iej.12959. Pub 2018 Jun 27.
- Tanaka J., Ozawa M., Hojo H., Kawashima Y., Mabuchi Y., Hata K., Nakamura S., Yasuhara R., Takamatsu K., Irie T., Fukada T., Sakai T., Inoue T., Nishimura R., Ohara O., Saito I., Ohba S., Tsuji T., Mishima K.: Generation of orthotopically functional salivary gland from embryonic stem cells. Nature Commun., 2018.Oct 11;9(1):4216. doi: 10.1038/s41467-018-06469-7.
- 斎藤一郎:6 ドライマウスと慢性炎症、別冊 BIO Clinica 慢性炎症と疾患、7:33–35,2018
- 斎藤一郎:特集:口腔疾患のサイエンス 総論 歯科医学研究の最前線、月刊 細胞、50:2–3,2018.
- Sumida T., Azuma N., Moriyama M., Takahashi H., Asashima H., Honda F., Abe S., Ono Y., Hirota T., Hirata S., Tanaka Y., Shimizu T., Nakamura H., Kawakami A., Sano H., Ogawa Y., Tsubota K., Ryo K., Saito I., Tanaka A., Nakamura S., Takamura E., Tanaka M., Suzuki K., Takeuchi T., Yamakawa N., Mimori T., Ohta A., Nishiyama S., Yoshihara T., Suzuki Y., Kawano M., Tomiita M., Tsuboi H.: Clinical practice guideline for Sjögren's syndrome 2017. Modern Rheumatology., 2018 Feb 7:1–74. doi: 10.1080/14397595.2018.1438093. [Epub ahead of print]

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

12. Nakamura S., Okamoto M.R., Yamamoto K., Tsurumoto A., Yoshiko Y., Iwabuchi H., Saito I., Maeda N., Nakagawa Y.: The Candida species that are important for the development of atrophic glossitis in xerostomia patients. BMC Oral Health., 2017. Dec 16;17(1):153. doi: 10.1186/s12903-017-0449-3.
13. (*1) Saruta J., To M., Sugimoto M., Yamamoto Y., Shimizu T., Nakagawa Y., Inoue H., Saito I., Tsukinoki K.: Salivary Gland derived BDNF Overexpression in Mice Exerts an Anxiolytic Effect. Int. J. Mol. Sci. 2017. 18(9), 1902; doi: 10.3390/ijms18091902
14. Uehara O., Takimoto K., Morikawa T., Harada F., Takai R., Adhikari B. R., Itatsu R., Namura T., Yoshida K., Matsuoka H., Nagayasu H., Saito I., Muthumala M., Chiba I., Abiko Y.: Unregulated expression of MMP-9 in gingival epithelial cells induced by prolonged stimulation with arecoline. Oncol. Lett., 2017 Jul;14(1):1186-1192. doi:10.3892/ol.2017.6194. Epub 2017 May 17.
15. 斎藤一郎: 口腔から考える全身の抗加齢医学, 週刊 医学のあゆみ, 261: 6 638-641, 2017.
16. Tsuboi H., Hagiwara S., Asashima H., Takahashi H., Harota T., Noma H., Umehara H., Kawakami A., Nakamura H., Sano H., Tsubota K., Ozawa Y., Takamura E., Saito I., Inoue H., Nakamura S., Moriyama M., Takeuchi T., Tanaka Y., Hirata S., Mimori T., Matsumoto I., Sumida T.: Comparison of performance of the 2016 ACR-EULAR classification criteria for primary Sjögren's syndrome with other sets of criteria in Japanese patients. Ann. Rheum. Dis., 2017. Mar 22. doi: 10.1136/annrheumdis-2016-210758.
17. (*2) Inoue H., Kishimoto A., Ushikoshi-Nakayama R., Hasaka A., Takahashi A., Ryo K., Muramatsu T., Ide F., Mishima K., Saito I.: Resveratrol improves salivary dysfunction in a non-obese diabetic (NOD) mouse model of Sjögren's syndrome. J.Clin. Biochem. Nutr. 2016. 59(2): 107-112.
18. Tanaka N., Muro Y., Suzuki Y., Nishiyama S., Takada K., Sekiguchi M., Hashimoto N., Ohmura K., Shimoyama K., Saito I., Kawano M., Akiyama M.: Anticentromere antibody-positive primary Sjögren's syndrome: Epitope analysis of a subset of anticentromere antibody-positive patients. Mod. Rheumatol., 2016 May 10:1-7. doi: 10.1080/14397595. 2016.1176327.
19. Kusakabe Y., Shindo Y., Kawai T., Takahashi Y., Koori M., Inoue H., Saito I.: Sex-Based Differences in Smgc Expression in the Submandibular Gland of C57BL/6 Mice. Pathobiology. 2016; 83(6): 287-94. doi: 10.1159/000446000. Epub 2016 Jun 2.
20. 梁 洪淵, 斎藤一郎: 診療の秘訣 ドライマウス, モダンフィジシャン 内科系総合雑誌, 36:8 2016-2018, 2016.
21. Kikuchi K., Ishige T., Ide F., Ito Y., Saito I., Hoshino M., Inoue H., Miyazaki Y., Nozaki T., Kojima M., Kusama K.: Overexpression of Activation-Induced Cytidine Deaminase MTX- and Age-Related Epstein-Barr Virus-Associated B-Cell Lymphoproliferative Disorders of the Head and Neck. J. Oncol., 2015;2015:605750. doi: 10.1155/2015/605750. Epub 2015 Mar 5.
22. (*1) Takahashi A., Inoue H., Mishima K., Ide F., Nakayama R., Hasaka A., Ryo K., Ito Y., Sakurai T., Hasegawa Y., Saito I.: Evaluation of the effects of quercetin on damaged salivary secretion. PLoS One, 2015 Jan 28;10(1): e0116008. doi: 10.1371/journal.pone.0116008. eCollection 2015.
23. 斎藤一郎: 先制医療としての抗加齢歯科医学, 日本歯科医師会雑誌, 8: 19-24, 2016.
24. 斎藤一郎: 口腔から考える全身の抗加齢(アンチエイジング)医学, 日本健康医療学会雑誌, 3: 2-7, 2015.
25. 梁 洪淵, 斎藤一郎. 特集 口腔機能のアンチエイジング 2 食品による口腔機能の維持. アンチエイジング医学-日本抗加齢医学会雑誌, メディカルレビュー社, 11: 26-32, 2015
26. 斎藤一郎: 抗加齢専門医・指導士認定試験のための, アンチ・エイジング医学-日本抗加齢医学会雑誌, 11: 109-111, 2015.
27. 梁 洪淵, 斎藤一郎: 私の処方 ドライマウスとは, モダンフィジシャン 内科系総合雑誌, 35:9 1145-1146, 2015
28. 斎藤一郎: 超高齢社会におけるドライマウスへの対応 ドライマウスへどう取り組むべきか, 日本歯科評論, 3: 30-6, 2015.

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

【早川】

1. (*5)(*26) Yamachika R, Miyamoto N, Mishima H, Hayakawa T, Hosoya N. Effects of DNA/protamine and DNA/gelatin paste on bone formation at tooth extraction wound sites. J Hard Tissue Biology. 2019; 28: 191–198.
2. (*4) 鈴木 一, 高橋 璋, 三島弘幸, 早川 徹. DNA/プロタミン複合体ペーストによるラット抜歯窩の骨形成. 日本歯科産業学会誌. 2019; 33: 15–21.
3. Miyamoto N, Yamachika R, Sakurai T, Hayakawa T, Hosoya N. Miyamoto. Bone response to titanium implants coated with double- or single-stranded DNA. BioMed Research International. Volume 2018, Article ID 9204391, 11 pages. <https://doi.org/10.1155/2018/9204391>.
4. (*59) Waki T, Mochizuki C, Sato M, Sakurai T, Tohru Hayakawa T, Chikahiro Ohkubo. Bone response to apatite paste derived from Ca-amino acid complex. J Hard Tissue Biology. 27(2), 147–154, 2018.
5. Yagi R, Mochizuki C, Sato M, Toyama T, Hirota M, Hayakawa T, Ohkubo C. Characterization and bone response of carbonate-containing apatite coated titanium implants using an aqueous spray coating. Materials. *Materials* 2017, 10, 1416; doi:10.3390/ma10121416.
6. Yoshida E., Hayakawa T.: Quantitative analysis of apatite formation on titanium and zirconia in a simulated body fluid solution using the quartz crystal microbalance method. Advances in Materials Science and Engineering. 2017; Article ID 7928379, 9 pages, <https://doi.org/10.1155/2017/7928379>
7. Kusakawa Y., Yoshida E., Hayakawa T.: Protein adsorption to titanium and zirconia using a quartz crystal microbalance method. BioMed Research International., Volume 2017, Article ID 1521593, 8 pages. <https://doi.org/10.1155/2017/1521593>
8. (*59) Wada T., Amemiya T., Hirota M., Hayakawa T.: Bone Formation in Gelatin/Calcium Phosphate Paste in a Subperiosteal Pocket of Rat Calvaria. J Hard Tissue Biology. 2016; 25: 305–312.
9. (*59) Wada T., Ozawa D., Hayakawa T.: Gelatin/Calcium phosphate paste for bone regeneration. J Oral Tissue Engin. 2016; 14: 27–33.
10. Yoshida E., Hayakawa T.: Adsorption analysis of lactoferrin to titanium, stainless steel, zirconia and polymethyl methacrylate using the quartz crystal microbalance method. BioMed Research International., 2016; Article ID 3961286: 7 pages. <http://dx.doi.org/10.1155/2016/3961286>.
11. Sakurai T, Yoshinari M, Toyama T, Hayakawa T, Ohkubo C. Effects of a multilayered DNA/protamine coating on titanium implants on bone responses. J. Biomed. Mater. Res., Part A. 2016 Jun; 104(6):1500–9.
12. Hayakawa T. Biochemical surface modifications to titanium implants using the tresyl chlorideactivated method. Dent. Mater. J., 2015; 34:725–739.

【朝田/船山】

1. Danielsson J, Vink J, Hyuga S, Fu XW, Funayama H, Wapner R, Blanks AM, Gallos G.: Anoctamin Channels in Human Myometrium: A Novel Target for Tocolysis. Reprod Sci. 2018 Nov;25(11):1589–1600. doi: 10.1177/1933719118757683.
2. Kobayashi S, Yamakoshi Y, Asada Y. (2018) TGF- β autocrine signaling at secretory-stage enamel. J Oral Biosci. 60(3):70–75.
3. Shimazaki E, Karakida T, Yamamoto R, Kobayashi S, Fukae M, Yamakoshi Y, Asada Y. (2016) TGF- β and physiological root resorption of deciduous teeth. Int J Mol Sci. 18(1) pii: E49. doi:

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

10.3390/ijms18010049.

4. Kobayashi-Kinoshita S, Yamakoshi Y, Onuma K, Yamamoto R, Asada Y. (2016) TGF- β 1 autocrine signalling and enamel matrix components. Sci Rep. 6:33644 doi:10.1038/srep33644.
5. Danielsson J, Zaidi S, Kim B, Funayama H, Yim PD, Xu D, Worgall TS, Gallos G, Emala CW. Airway Epithelial Cell Release of GABA is Regulated by Protein Kinase A. Lung. 2016 Jun;194(3):401-8. doi: 10.1007/s00408-016-9867-2. Epub 2016 Mar 17.
6. (*6)(*60) Nariyama M, Mori M, Shimazaki E, Ando H, Ohnuki Y, Abo T, Yamane A, and Asada Y: Functions of miR-1 and miR-133a during the postnatal development of masseter and gastrocnemius muscles. Mol. Cell Biochem. 査読あり, Vol 407, 2015, pp17-27, DOI: 10.1007/s11010-015-2450-y.

【二藤】

1. (*29)(*61) Shimada A, Ideno H, Arai Y, Komatsu K, Wada S, Yamashita T, Amizuka N, Pöschl E, Brachvogel B, Nakamura Y, Nakashima K, Mizukami H, Ezura Y, Nifuji A: Annexin A5 Involvement in Bone Overgrowth at the Enthesis. J Bone Miner Res., 2018; 33(8):1532-1543. doi: 10.1002/jbmr.3453.
2. Hayashi N, Sato T, Kokabu S, Usui M, Yumoto M, Ikami E, Sakamoto Y, Nifuji A, Hayata T, Noda M, Yoda T.: Possible association of oestrogen and Cryba4 with masticatory muscle tendon-aponeurosis hyperplasia., Oral Dis., 2018; doi: 10.1111/odi.12876.
3. Kamiunten T, Ideno H, Shimada A, Arai Y, Terashima T, Tomooka Y, Nakamura Y, Nakashima K, Kimura H, Shinkai Y, Tachibana M, Nifuji A., Essential roles of G9a in cell proliferation and differentiation during tooth development., Exp Cell Res. 2017; 357(2):202-210
4. Huynh NC, Everts V, Nifuji A, Pavasant P, Ampornaramveth RS.: Histone deacetylase inhibition enhances in-vivo bone regeneration induced by human periodontal ligament cells., Bone. 2017; 95:76-84.
5. Kawasaki M, Izu Y, Hayata T, Ideno H, Nifuji A, Sheffield VC, Ezura Y, Noda M.: Bardet-Biedl syndrome 3 regulates the development of cranial base midline structures., Bone. 2017; 101:179-190.
6. Pawaputanon Na Mahasarakham C, Ezura Y, Kawasaki M, Smriti A, Moriya S, Yamada T, Izu Y, Nifuji A, Nishimori K, Izumi Y, Noda M.: BMP-2 Enhances Lgr4 Gene Expression in Osteoblastic Cells., J Cell Physiol., 2016; 231(4); 887-95.
7. Komatsu K, Shibata T, Shimada A, Ideno H, Nakashima K, Tabata Y, Nifuji A.: Cationized gelatin hydrogels mixed with plasmid DNA induce stronger and more sustained gene expression than atelocollagen at calvarial bone defects in vivo., J Biomater Sci Polym Ed., 2016; 27(5): 419-30.
8. (*28) Wada S, Ideno H, Shimada A., Kamiunten T, Nakamura Y, Nakashima K, Kimura H, Shinkai Y, Tachibana M, Nifuji A.: H3K9MTase G9a is essential for the differentiation and growth of tenocytes in vitro. Histochem Cell Biol., 2015; 144(1):13-20.
9. Kamiunten T, Ideno H, Shimada A, Nakamura Y, Kimura H, Nakashima K, Nifuji A.: Coordinated expression of H3K9 histone methyltransferases during tooth development in mice. Histochem Cell Biol., 2015; 143(3):259-66.
10. Ideno H, Nakashima K, Nifuji A., Roles of the histone methyltransferase G9a in the development and differentiation of mesenchymal tissues. J Phys Fitness Sports Med., 2015; 4(5):357-362.

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

【小川】

1. (*62) Ito T, Shigemoto S, Shigeta Y, Matsuka Y, Ogawa T. Proposal of quantitative method for determining occlusal plane. J Jpn Soc Stomatognath Funct 26(1) , 2019 (in press).
2. Ando E, Shigeta Y, Ishikawa C, Shigemoto S, Ogawa T, Clark GT, Enciso R. Evaluation of fat tissue deposition within the tongue via near-infrared interactance. J Dent Sleep Med; 6(4), 2019 (in press).
3. (*33) Kihara T, Ikawa T, Shigeta Y, Shigemoto S, Nakaoka K, Hamada Y, Ogawa T. Mandibular 3-dimensional finite element analysis for a patient with an aggressive form of craniofacial fibrous dysplasia. Oral Surg Oral Med Oral Pathol Oral Radiol. 2019 Jun 25.
4. Nomura Y, Okada A, Kakuta E, Otsuka R, Sogabe K, Yamane K, Yamamoto T, Shigeta Y, Shigemoto S, Ogawa T, Hanada N. Consistency of supplied food and dentition status of the elderly in residential care homes. BMC oral health 19(1): 74, 2019.
5. (*32) Ito M, Ikawa T, Shigeta Y, Shigemoto S, Ogawa T. Detectability and reproducibility of the edge including the micro step in laboratory and intraoral scanners. The Journal of the Japan Academy of Digital Dentistry (Web) 8(3): 163–169 (WEB ONLY), 2019.
6. Hirai S, Ando E, Shigeta Y, Ishikawa C, Ito T, Shigemoto S, Ogawa T, Clark GT, Enciso R. Is there Weakness Area in Airway?. Austin J Otolaryngol 6(1): 1106, 2019.
7. (*32) Ikawa T, Shigeta Y, Kihara T, Ando E, Harada N, Hirai S, Shigemoto S, Nakaoka K, Hamada Y. Ogawa T. Spontaneous-regeneration of the reconstructed mandible in a segmental mandibulectomized young girl. Austin Journal of Surgery 6(3): 1164, 2019.
8. (*30) 小川匠、重本修伺. 形態学的診断への応用—咀嚼機能の維持が加齢制御に及ぼす影響について—. 鶴見歯学 45(1): 48–49, 2019.
9. (*32) Ito M, Ikawa T, Shigeta Y, Shigemoto S, Ogawa T. Verification of reproducibility of surface profile and small step height in dental scanners. J Jpn Soc Stomatognath Funct 25(1): 10–16, 2019.
10. Sasaki K, Yamamoto T, Ikawa T, Shigeta Y, Shigemoto S, Ando E, Ogawa T, Ihara K. Pre-endodontic Post and Core Technique for Endodontic and Prosthodontic Treatment. The journal of contemporary dental practice 19(1):117–122, 2018.
11. (*36) Hirabayashi R, Ito M, Shigeta Y, Shigemoto S, Ikawa T, Yamamoto T, Ogawa T. Verification of evaluation system for occlusal facets on sleep splint. J Jpn Soc Stomatognath Funct 24(2): 99–106, 2018.
12. (*62) Sasaki K, Shigemoto S, Shigeta Y, Hirabayashi R, Tsumita M, Ikawa T, Ikuta N, Okuma K, Yamamoto T, Ogawa T. Factors associated with occlusal plane inclination in adults. The Journal of Japanese Society of Stomatognathic Function. 24(1): 18–24. 2017
13. (*36) 平井健太郎, 井川知子, 重田優子, 小川 匠. 易摩耗性スプリントを用いた咬耗の定量的評価法の開発. 日本顎口腔機能学会雑誌. 23(2): 107–116, 2017.
14. (*36) Hirai K, Ikawa T, Shigemoto S, Shigeta Y, Ogawa T. Evaluation of sleep bruxism with a novel designed occlusal splint. J Prosthodont Res., 2017 Jul;61(3):333–343.
15. (*32) 井川知子, 重田優子, 平井真也, 小川 匠, 中岡一敏, 濱田良樹, 原田直彦, 河村 昇. チーム医療による顎骨欠損症例の顎骨再建と咬合再 建. 鶴見歯学. 43(1): 40–47.2017
16. 重田優子, 重本修伺, 小川 匠. オクルーザルオーバーレイスプリントによる咬合機能回復. 日本補綴歯科学会誌 9(4) 351–356, 2017

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

17. Nomura Y, Takeuchi H, Shigemoto S, Okada A, Shigeta Y, Ogawa T, Hanada N. Secondary Endpoint of the Prosthodontics. Int J Clin Case Stud 3 1-6 2017
18. (*33) Hirai S, Shigemoto S, Shigeta Y, Kamei S, Ogawa T, Ando E, Hirabayashi R, Ikawa T, Matsuka Y. Relationship between the mandibular movements and deformation of the coronoid process and the condyle. J Jpn Assoc Oral Rehabil.,2016; 29(1): 35-40.”
19. (*32) Yamada H, Nakaoka K, Sonoyama T, Kumagai K, Ikawa T, Shigeta Y, Harada N, Kawamura N, Ogawa T, Hamada Y. Clinical Usefulness of Mandibular Reconstruction Using Custom-Made Titanium Mesh Tray and Autogenous Particulate Cancellous Bone and Marrow Harvested From Tibia and/or Iliac. International Journal of Oral and Maxillofacial Surgery. 2016; 27(3): 586-592.”
20. Uchida A, Hirai K, Ikawa T, Fujii T, Ando E, Shigeta Y, Ogawa T. In What Kind of Cases is Acquisition of Facial Information Necessary? 歯科審美. 2016;28(2): 49-56.
21. Shigeta Y, Ogawa T, Nakamura Y, Hirabayashi R, Ando E, Ikawa T, Hirai S. Raising Student Awareness in a Test Centered Environment. Psychology & Psychotherapy. 2016; 6(1): 239.
22. Yamazaki Y, Shigeta Y, Ogawa T, Enciso R, Ando E, Ikawa T, Hosoya N, Clark GT. The Relationship between Anterior Tubercle of the Atlas to the Adjacent Oropharyngeal Airway Volume: Implication of Normalized Variables and Gender Differences. Journal of Dentistry and Oral Care Medicine. 2016;2(1): 2454-3276. ”
23. Ando E, Shigeta Y, Nejima J, Yamanaka H, Hirai S, Ogawa T, Clark GT, Enciso R. Assessment of the calcification of the nuchal ligament and osteophytes of the cervical spine in obstructive sleep apnoea subjects and snorers. J Oral Rehabil. 2016; 43(2): 96-102.
24. (*32) Ikawa T, Shigeta Y, Hirabayashi R, Hirai S, Hirai K, Harada N, Kawamura N, Ogawa T. Computer assisted mandibular reconstruction using a custom-made titan mesh tray and removable denture based on the top-down treatment technique. J Prosthodont Res. 60(4); 321-331. 2016
25. (*32) Katsumura S, Sato K, Ikawa T, Yamamura K, Ando E, Shigeta Y, Ogawa T. High-precision, reconstructed 3D model of skull scanned by conebeam CT: Reproducibility verified using CAD/CAM data. Legal Medicine, 2016; 18:37-43.”
26. (*62) 井川知子, 重田優子, 平林里大, 平井真也, 高木温子, 河村 昇, 小川 匠. 新しい概念に基づいた新型咬合器の開発. 口腔リハビリ誌, 28: 11-20. 2015.
27. (*33) Nakaoka K, Hamada Y, Nakatani H, Shigeta Y, Hirai S, Ikawa T, Mishima A, Ogawa T. Surgical Intervention for Masticatory Muscle Tendon-Aponeurosis Hyperplasia Based on the Diagnosis Using the Four-Dimensional Muscle Model. J Craniofac Surg., 2015; 26(6)1871-1876.
28. Okamoto M, Imai S, Miyahara M, Saito W, Momoi Y, Nomura Y, Ikawa T, Ogawa T, Miyabe-Nishiwaki T, Kaneko A, Watanabe A, Watanabe S, Hayashi M, Tomonaga M, Hanada N. Streptococcus panodentis sp. nov. from the oral cavities of chimpanzees. Microbiol Immunol., 2015; 59(9): 526-532.
29. (*62) Shigeta Y, Ogawa T, Nakamura Y, Ando E, Hirabayashi R, Ikawa T. Structural equation modeling for alteration of occlusal plane inclination. J Prosthodont Res., 2015; 59(3):185-193.
30. Shigemoto S, Shigeta Y, Nejima J, Ogawa T, Matsuka Y, Clark GT. Diagnosis and treatment for obstructive sleep apnea: Fundamental and clinical knowledge in obstructive sleep apnea. J Prosthodont Res., 2015; 59(3): 161-171.
31. 大倉一夫, 大川周治, 藤澤政紀, 櫻井 薫, 馬場一美, 小川 匠, 矢谷博文, 窪木拓男, 松香芳

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

三 ブラキシズムに対する診断と対策に関するプロジェクト研究 睡眠時ブラキシズムの簡便な診断法確立と対処法の検討, : 日本歯科医学会誌, 34:79-83, 2015

【濱田】

1. 中岡一敏, 齋藤知之, 山田秀典, 重松宏昭, 仲宗根康成, 石塚忠利, 江口貴紀, 濱田良樹 滑膜性骨軟骨腫症を伴った顎関節ピロリン酸カルシウム結晶沈着症の1例 日本顎関節学会雑誌第31巻第3号 in press
2. Fujihara H, Nozaki T, Tsutsumi M, Isumi M, Shimoda S, Hamada Y, Masutani M.: Spontaneous Development of Dental Dysplasia in Aged Parp-1 Knockout Mice. **Cells**. 2019 in press
3. (*37)(*51)(*54) 山田秀典、中岡一敏、長谷部充彦、雨宮剛志、堀内俊克、濱田良樹 自家脛骨骨髓海綿骨細片とカスタムメイド・チタンメッシュトレを用いて下顎骨再建を行った1例 日本口腔外科学会雑誌 65(8):545-550 2019
4. (*38)(*51)(*55)(*63) 中岡 雅典, 藤原 久子, 山田 浩之, 濱田 良樹 大唾液腺摘出による消化管粘膜の組織学的変化 鶴見歯学 45 巻 1 号 Page1-10 2019.01
5. Kihara T, Ikawa T, Shigeta Y, Shigemoto S, Nakaoka K, Hamada Y, Ogawa T.: Mandibular 3-dimensional finite element analysis for a patient with an aggressive form of craniofacial fibrous dysplasia. Oral. Surg. Oral. Med. Oral. Pathol. Oral. Radiol. 2019 Jun 25. (Epub ahead of print)
6. Eguchi T, Basugi A, Kanai I, Miyata Y, Hamada Y.: Multiple oral ulcers caused by incorrect use of oral bisphosphonate in a patient with dementia: A case report. Gerodontology. 2019 Mar;36(1):82-84. doi: 10.1111/ger.12378.
7. Lip Morphology in Patients With Facial Asymmetry Can Be Corrected by 2-Jaw Surgery. Aoyama I, Oikawa T, Nakaoka K, Sekiya T, Hamada Y, Nakamura Y. J Oral Maxillofac Surg. 2018 Nov; 76(11):2404-2410.
8. Possible involvement of invariant natural killer T cells and mucosal-associated invariant T cells in a murine model of titanium allergy. Kumagai K, Matsubara R, Nakasone Y, Shigematsu H, Kitaura K, Suzuki S, Hamada Y, Suzuki R. J Oral Maxillofac Surg Med Pathol 30: 1, 1-9, 2018.
9. Yamamoto N, Kawaguchi K, Fujihara H, Hasebe M, Kishi Y, Yasukawa M, Kumagai K, Hamada Y.: Detection accuracy for epithelial dysplasia using an objective autofluorescence visualization method based on the luminance ratio. Int J Oral Sci. 2017 Nov 10;9(11): e2.
10. Miyamoto Y, Kanzaki H, Wada S, Tsuruoka S, Itohiya K, Kumagai K, Hamada Y, Nakamura Y.: Asporin stably expressed in the surface layer of mandibular condylar cartilage and augmented in the deeper layer with age. Bone Rep. 2017 Jul 23; 7:41-50.
11. Matsubara R, Kumagai K, Shigematsu H, Kitaura K, Nakasone Y, Suzuki S, Hamada Y, Suzuki R. Fexofenadine Suppresses Delayed-Type Hypersensitivity in the Murine Model of Palladium Allergy. Int J Mol Sci. 2017 Jun 25;18(7).
12. 重松 宏昭, 後藤 哲人, 小早川 元博, 亀井 和利, 後藤 陽子, 濱田 良樹 顎下部に発生した硝子血管型 Castleman's disease の1例 日本口腔外科学会雑誌 63 巻 9 号, 439-443, 2017 年 9 月
13. 藤澤 靖子, 赤池 駿, 関谷 利子, 城所 明光, 中岡 一敏, 濱田 良樹, 中村 芳樹 両側下顎枝矢状分割法を適用した下顎側方偏位を伴う骨格性下顎前突患者の治療前後のスマイル時口唇の三次元的変化 日本顎変形症学会雑誌 27 巻 3 号 175-182 2017 年 8 月
14. Hasebe M, Yoshikawa R, Nishii K, Kawaguchi K, Kamada T, Hamada Y. Usefulness of ¹¹C-methionine-PET for predicting the efficacy of carbon ion radiation therapy for head and neck

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

- mucosal malignant melanoma. Int J Oral Maxillofac Surg. 2017; 46:1220–1228.
15. Eguchi T, Kawaguchi K, Basugi A, Kanai I, Hamada Y.: Intraoperative real-time assessment of blood flow using indocyanine green angiography after anastomoses in free-flap reconstructions. Br J Oral Maxillofac Surg. 2017 Jul;55(6):628–630.
 16. 堀内 俊克, 坂井 陳作, 熊谷 賢一, 荒 博範, 清水 一, 後藤 陽子, 下地 柳盛, 羽地 都映, 濱田 良樹 済生会横浜市東部病院口腔外科における顎顔面骨折の臨床統計的検討 8年間 474例の検討 日本口腔診断学会雑誌30巻1号 Page13–17 2017年2月
 17. Isoda Y, Imamura E, Ueno D, Akaike T, Hamada Y. Use of a trephine bur and curette for minimally invasive harvesting of particulate cancellous bone and marrow from the iliac crest: a case of alveolar ridge reconstruction. Int J Implant Dent. 2016 Dec;2(1):1.
 18. (*37)(*51)(*54) 井川 知子, 重田 優子, 平井 真也, 小川 匠, 中岡 一敏, 濱田 良樹, 原田 直彦, 河村 昇 チーム医療による顎骨欠損症例の顎骨再建と咬合再建 鶴見歯学 43 巻 1 号 Page40–48 2017 年 1 月
 19. Ohashi Y, Kumagai K, Miyata Y, Matsubara R, Kitaura K, Suzuki S, Hamada Y, Suzuki R. Overexpression of ErbB4 is an independent marker for lymph node metastasis in Japanese patients with oral squamous cell carcinoma. Oral Surg Oral Med Oral Pathol Oral Radiol. 2016 Sep;122(3):313–21.
 20. Eguchi T, Ishida R, Ara H, Hamada Y, Kanai I.: A diffuse traumatic neuroma in the palate: a case report. J Med Case Rep. 2016 May 11;10(1):116.
 21. (*37)(*51)(*54) Yamada H, Nakaoka K, Sonoyama T, Kumagai K, Ikawa T, Shigeta Y, Harada N, Kawamura N, Ogawa T, Hamada Y. Clinical Usefulness of Mandibular Reconstruction Using Custom-Made Titanium Mesh Tray and Autogenous Particulate Cancellous Bone and Marrow Harvested from Tibia and/or Ilia. J Craniofac Surg. 2016 May;27(3):586–92.
 22. Nagaoka T, Kitaura K, Miyata Y, Kumagai K, Kaneda G, Kanazawa H, Suzuki S, Hamada Y, Suzuki R. Downregulation of epidermal growth factor receptor family receptors and ligands in a mutant K-ras group of patients with colorectal cancer.
 23. 田中 庸子, 郷家 久道, 河原田 尚, 和気 昌弘, 中谷 逸希, 濱田 良樹 下唇に発生した骨軟骨性分離腫の1例 日本口腔外科学会雑誌 62 巻 3 号 120–123
 24. Yasukawa M, Fujihara H, Fujimori H, Kawaguchi K, Yamada H, Nakayama R, Yamamoto N, Kishi Y, Hamada Y, Masutani M.: Synergetic Effects of PARP Inhibitor AZD2281 and Cisplatin in Oral Squamous Cell Carcinoma in Vitro and in Vivo. Int J Mol Sci. 2016 Feb 24;17(3):272.
 25. Kumagai K, Horikawa T, Shigematsu H, Matsubara R, Kitaura K, Eguchi T, Kobayashi H, Nakasone Y, Sato K, Yamada H, Suzuki S, Hamada Y, Suzuki R.: Possible Immune Regulation of Natural Killer T Cells in a Murine Model of Metal Ion-Induced Allergic Contact Dermatitis. Int J Mol Sci. 2016 Jan 12;17(1).
 26. Kurokawa M, Kanzaki H, Tokiwa H, Handa H, Nakaoka K, Hamada Y, Kato H, Nakamura Y. The main occluding area in normal occlusion and mandibular prognathism. Angle Orthod. 2016 Jan;86(1):87–93.1. Epub
 27. 堀内 俊克, 宮嶋 千秋, 圓谷 郷, 飯田 良平, 濱田 良樹 咀嚼障害を有する患者における摂食回復支援食「あいーと」の臨床的有用性 顎矯正手術後における検討 日本静脈経腸栄養学会雑誌 31 巻 4 号 Page975–980 2016 年 7 月
 28. 中岡一敏, 山田 浩之, 堀内 俊克, 中島 敏文, 中谷 逸希, 濱田 良樹 下顎骨関節突起骨折

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

- の観血的整復固定術における high perimandibular approach の有用性 日本口腔外科学会雑誌 62 巻 7 号 341-345 2016 年 7 月
29. 佐藤 光一郎、藤原 久子、堀江 彰久、熊谷 賢一、山田 浩之、濱田 良樹 大きな嚢胞様腔を形成した顎下腺多形腺腫の 1 例 日本口腔外科学会雑誌 62 巻 4 号 Page174-177 2016 年 4 月
 30. 田中 庸子、郷家 久道、河原田 尚、和気 昌弘、中谷 逸希、濱田 良樹 下唇に発生した骨軟骨性分離腫の 1 例 日本口腔外科学会雑誌 62 巻 3 号 Page120-123 2016 年 3 月
 31. Kishi Y, Fujihara H, Kawaguchi K, Yamada H, Nakayama R, Yamamoto N, Fujihara Y, Hamada Y, Satomura K, Masutani M. PARP Inhibitor PJ34 Suppresses Osteogenic Differentiation in Mouse Mesenchymal Stem Cells by Modulating BMP-2 Signaling Pathway. Int J Mol Sci. 2015 Oct 19;16(10):24820-38.
 32. Miyata Y, Kumagai K, Nagaoka T, Kitaura K, Kaneda G, Kanazawa H, Suzuki S, Hamada Y, Suzuki R.: Clinicopathological significance and prognostic value of Wilms' tumor gene expression in colorectal cancer. Cancer Biomark. 2015;15(6):789-97.
 33. 馬杉 亮彦、山田 浩之、中谷 逸希、伊藤 由美、斎藤 一郎、濱田 良樹 下唇部の皮下に発生した軟骨様汗管腫の 1 例 日本口腔外科学会雑誌 61 巻 11 号 599-602 2015 年 11 月
 34. (*37)(*51)(*54) 山田 浩之、長谷部 充彦、佐藤 光一郎、馬杉 亮彦、園山 智生、濱田 良樹 自家腸骨海綿骨細片移植による即時顎堤再建後にインプラント治療を施行した歯原性線維腫の 1 例 熊谷 賢一、日本口腔診断学会雑誌(0914-9694)28 巻 3 号 Page221-225 2015 年 10 月
 35. Nakaoka K, Hamada Y, Nakatani H, Shigeta Y, Hirai S, Ikawa T, Mishima A, Ogawa T.: Surgical Intervention for Masticatory Muscle Tendon-Aponeurosis Hyperplasia Based on the Diagnosis Using the Four-Dimensional Muscle Model. J Craniofac Surg. 2015 Sep;26(6):1871-6.
 36. Kumagai K, Suzuki S, Kanri Y, Matsubara R, Fujii K, Wake M, Suzuki R, Hamada Y.: Spontaneously developed osteoarthritis in the temporomandibular joint in STR/ort mice. Biomed Rep. 2015 Jul;3(4):453-456. Epub 2015 May 21.
 37. Arai C, Choi JW, Nakaoka K, Hamada Y, Nakamura Y. Management of open bite that developed during treatment for internal derangement and osteoarthritis of the temporomandibular joint. Korean J Orthod. 2015 May;45(3):136-45.
 38. 君塚 幸子、福山 英治、米満 郁男、島崎 一夫、大村 進、濱田 良樹、藤内 祝 顔面非対称に対して上下顎同時骨延長術を適用した Marfan 症候群の 1 例、日本顎変形症学会雑誌 (0916-7048)25 巻 1 号 Page49-55 2015 年 4 月
 39. 高松 朋矢、山田 浩之、久保田 卓、石田 璃久磨、今村 栄作、濱田 良樹 口底に生じた器質化血腫の 1 例 日本口腔外科学会雑誌 61 巻 3 号 Page164-167 2015 年 3 月
- 【大島】
1. (*40) Takahashi, Y., Park, J., Hosomi, K., Yamada, T., Kobayashi, A., Yamaguchi, Y. Iketani S, Kunisawa J., Mizuguchi K, Maeda N & Ohshima, T. Analysis of oral microbiota in Japanese oral cancer patients using 16S rRNA sequencing. J. Oral Biosci.. 2019, 61(2).120-128.
 2. (*39)(*41) 草塩英治 大島朋子 前田伸子. 抗真菌薬による口腔内 Candida の抑制は全身状態を改善させる. 鶴見歯学, 2019, 45(1), 28-29.
 3. (*42) Ohshima T, Ikawa S, Kitano K, Maeda N. A proposal of remedies for oral disease caused by Candida: A mini review. Front. Microbiol. 2018. 9:1522. doi: 10.3389/fmicb.2018.01522
 4. (*43) Kojima, Y., Ohshima, T. Kawai, T., Seneviratne, C.J., & Maeda, N. Antifungal activity of

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

probiotic Lactobacilli culture supernatant against *Candida albicans* ; the possibility of suppression factor other than organic acids. Tsurumi Univ. Dental J. 2018;44(2),75-84.

5. (*41) 木村陽介、山本共夫、草塩英治、前田伸子: 抗真菌剤の長期使用は菌垢量を減少させる、歯薬療法、36: 9-14, 2017.
6. (*41)(*43) 前田伸子: 常在真菌 *Candida* の病原性—カンジダ症とその対応—、歯薬療法、35: 115-123, 2016.
7. (*43) Ohshima T., Kojima Y., Seneviratne, C. J. & Maeda N.: Therapeutic application of synbiotics, a fusion of probiotics and prebiotics, and biogenics as a new concept for oral *Candida* infections: A mini review. Front. Microbiol. 25 Jan. 2016
8. (*42)(*43) Kojima Y., Ohshima T., Seneviratne, C. J., & Maeda N.: Combining prebiotics and probiotics to develop novel synbiotics that suppress oral pathogens. J. Oral Biosci., 2016;58:27-32. doi: 10.1016/j.job.2015.08.004

【下田】

1. (*65) Asada Y., Chiba T., Shimoda S., Momoi Y., Yamamoto T. : Acidic Calcium Phosphate Crystals Observed on the Outermost Layer of Human Enamel. J Hard Tissue Biol. 2019; 28: 139-146.
2. Yasuharu Tai, Yuka Asada, Toshie Chiba, Yasuo Miake, Shinji Shimoda, Noriyasu Hosoya: Electron Microscopic Study on the Formation of Hardened Molds of Calcium Phosphate Crystals Containing Gelatin. Journal of Hard Tissue Biology., 2019. 28 (2) : 165-174. doi. doi.org/10.2485/jhtb.28.165
3. (*9)(*10) Sekimizu T., Shimoda S., Hosoya N. : Age-related Changes in Root Dentin – Measurement of Hypercalcified Root Dentin Using Monochromatic Synchrotron Radiation X-ray Micro-CT –. J Hard Tissue Biol. 2018; 27: 103-108.
4. 伊東 宏和、五十嵐 千浪、若江(森田) 五月、市古 敬史、下田 信治、小林 馨:大規模災害を想定した歯科用コーンビーム CT を活用した身元特定に関する基礎的研究, 歯科放射線 206;56(2):83-89., 2017
5. 千葉 敏江, 浅田 由佳, 石川 美佐緒, 山本 雄嗣, 下田 信治, 桃井 保子:リン酸カルシウム系ペーストによるエナメル質の再石灰化促進作用, 日本歯科保存学雑誌 Vol. 59, 2016
6. (*8) Oki H., Chiba T., Shimoda S., Momoi Y. : Demineralization and Remineralization Phenomena of Human Enamel in Acid Erosion Model. J Hard Tissue Biol. 2016; 25: 27-34.
7. 下田 信治・千葉 敏江:知覚過敏抑制材料「ティースメイト® AP ペースト」「ティースメイト® ディセンシタイザー」は、なぜ効くのか. 日本歯科評論, 76(7)107-112. 2016.
8. 千葉 敏江、山本 雄嗣、下田 信治、桃井 保子:リン酸カルシウム系ペーストの歯質ケア材としての有用性. 日本歯科保存学雑誌 58(3), 2015

【奥村】

1. (*44) Ito A, Ohnuki Y, Suita K, Ishikawa M, Mototani Y, Shiozawa K, Kawamura N, Yagisawa Y, Nariyama M, Nakamura Y, Okumura S : Role of β -adrenergic signaling in masseter muscle. PLoS One. 2019; 14, e0215539.
2. (*44) Kawamura N, Ohnuki Y, Matsuo I, Suita K, Ishikawa M, Mototani Y, Shiozawa K, Ito A, Yagisawa Y, Hayakawa Y, Nariyama M, Ujiie Y, Gomi K, Okumura S: Effects of chronic Porphyromonas gingivalis lipopolysaccharide infusion on skeletal muscle. J Physiol Sci. 2019; 69, 503-511.
3. (*56) Prajapati R, Fujita T, Suita K, Nakamura T, Cai W, Hidaka Y, Umemura M, Yokoyama U, Knollmann BC, Okumura S, Ishikawa Y: Usefulness of exchange protein directly activated by cAMP (Epac)1-inhibiting therapy for prevention of atrial and ventricular arrhythmias in mice. Circ J.

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

- 2019; 83, 295–303.
4. Shiozawa K, Mototani Y, Suita K, Ito A, Kawamura N, Yagisawa Y, Matsuo I, Hayakawa Y, Nariyama M, Umeki D, Saeki Y, Ohnuki Y, Okumura S: Relationship between bite size per mouthful and dental arch size in healthy subjects. *J Physiol Sci*. 2018; 68, 77–87.
 5. Mototani Y, Okamura T, Goto M, Shimizu Y, Yanobu–Takanashi R, Ito A, Kawamura N, Yagisawa Y, Umeki D, Nariyama M, Suita K, Ohnuki Y, Shiozawa K, Sahara Y, Kozasa T, Saeki Y, Okumura S: Role of G protein–regulated inducer of neurite outgrowth 3 (GRIN3) in β –arrestin 2–Akt signaling and dopaminergic behaviors. *Plufingers Arch*. 2018; 470, 937–946.
 6. (*56)(*66) Suita K, Fujita T, Cai W, Hidaka Y, Jin H, Prajapati R, Umemura M, Yokoyama U, Sato M, Knollmann BC, Okumura S, Ishikawa Y: Vidarabine, an anti–herpesvirus agent, prevents catecholamine–induced arrhythmia without adverse effect on heart function in mice. *Plufingers Arch*. 2018; 470, 923–935.
 7. (*56) Jin H, Fujita T, Jin M, Kurotani R, Hidaka Y, Cai W, Suita K, Prajapati R, Liang C, Ohnuki Y, Mototani Y, Umemura M, Yokoyama U, Sato M, Okumura S, Ishikawa Y: Epac activation inhibits IL–6–induced cardiac dysfunction. *J Physiol Sci*. 2018; 68, 77–87.
 8. Umemura M, Kim J–H, Aoyama H, Hoshino Y, Fukumura H, Nakakaji R, Sato I, Ohtake M, Akimoto T, Narikawa M, Tanaka R, Fujita T, Yokoyama U, Taguri M, Okumura S, Sato M, Eguchi H, Ishikawa Y: The iron chelating agent, deferoxamine detoxifies (Salen)–induced cytotoxicity. *J Pharmacol Sci*. 2017; 134, 203–210.
 9. (*56) Jin H, Fujita T, Jin M, Kurotani R, Namekata I, Hamaguchi S, Hidaka Y, Cai W, Suita K, Ohnuki Y, Mototani Y, Shiozawa K, Prajapati R, Liang C, Umemura M, Yokoyama U, Sato M, Tanaka H, Okumura S, Ishikawa Y: Cardiac overexpression of Epac1 in transgenic mice rescues lipopolysaccharide–induced cardiac dysfunction and inhibits Jak–STAT pathway. *J Mol Cell Cardiol*. 2017; 108, 170–180.
 10. (*56) Fujita T, Umemura M, Yokoyama U, Okumura S, Ishikawa Y: The role of Epac in the heart. *Cell Mol Life Sci*. 2017; 74, 591–606.
 11. (*56) Cai W, Fujita T, Hidaka Y, Jin H, Suita K, Ling C, Parajapati R, Umemura M, Yokoyama U, Sato M, Okumura S, Ishikawa Y: Disruption of Epac1 protects the heart from adenylyl cyclase type5–mediated cardiac dysfunction. *Biochem Biophys Res Commun*. 2016; 457, 1–7.
 12. (*44)(*56) Ohnuki Y, Umeki D, Mototani Y, Shiozawa K, Ito A, Kawamura N, Jin H, Cai W, Suita K, Saeki Y, Fujita T, Ishikawa Y, Okumura S: Role of phosphodiesterase 4 expression in the Epac1 signal–dependent skeletal muscle hypertrophic action of clenbuterol. *Physiol Rep*. 2016; 4, e12791.
 13. Sato I, Umemura M, Mitsudo K, Fukumura H, Kim J–H, Hoshino Y, Nakashima H, Kioi M, Nakakaji R, Sato M, Fujita T, Yokoyama U, Okumura S, Oshiro H, Eguchi H, Tohnai I, Ishikawa Y: Simultaneous hyperthermia–chemotherapy with controlled drug delivery using single–drug nanoparticles. *Sci Rep*. 2016; 6, 24629.
 14. Shiozawa K, Ohnuki Y, Mototani Y, Umeki D, Ito A, Saeki Y, Hanada N, Okumura S: Effects of food diameter on bite size per mouthful and chewing behavior. *J Physiol Sci*. 2016; 66, 93–98.
 15. Kato Y, Yokoyama U, Yanai C, Ishige R, Kurotaki D, Umemura M, Fujita T, Kubota T, Okumura S, Sata M, Tamura T, Ishikawa Y: Epac1 deficiency attenuated vascular cell migration and neointimal formation. *Arterioscler Thromb Vascular Biol*. 2015; 35, 2617–2625.
 16. (*56)(*66) Suita K, Fujita T, Hasegawa N, Cai W, Jin H, Hidaka Y, Prajapati R, Umemura M, Yokoyama U, Sato M, Okumura S, Ishikawa Y: Norepinephrine–induced adrenergic activation strikingly increased the atrial fibrillation through β_1 – and α_1 –adrenergic receptor –mediated signaling in mice. *PLoS One*. 2015; 10, e0133664.
 17. Umeki D, Ohnuki Y, Mototani Y, Shiozawa K, Suita K, Fujita T, Nakamura Y, Saeki Y, Okumura S: Protective effects of clenbuterol against dexamethasone–induced masseter muscle atrophy and myosin heavy chain transition. *PLoS One*. 2015; 10, e0128263.

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

18. (*56) Tsunematsu T, Okumura S, Mototani Y, Ohnuki Y, Jin H, Cai W, Suita K, Sato I, Umemura M, Yokoyama U, Sato M, Fujita T, Ishikawa Y: Coupling of β_1 -adrenergic receptor to type 5 adenylyl cyclase and its physiological relevance in cardiac myocytes. Biochem Biophys Res Commun. 2015; 458, 531–535.
19. Kamide T, Okumura S, Ghosh S, Shinoda Y, Motatini Y, Ohnuki Y, Jin H, Cai W, Suita K, Sato I, Umemura M, Fujita T, Yokoyama U, Sato M, Furutani K, Kitano H, Ishikawa Y: Oscillation of cAMP and Ca^{2+} in cardiac myocytes: a systems biology approach. J Physiol Sci. 2015; 65, 195–200.

【花田】

1. (*11)(*13)(*15)(*16)(*46) Takeuchi H, Terada M, Kobayashi K, Uruguchi M, Nomura Y, Hanada N, Influences of Masticatory Function Recovery Combined with Health Guidance on Body Composition and Metabolic Parameters. OPEN DENTISTRY JOURNAL 13 124–136 2019
2. Hanioka T, Morita M, Yamamoto T, Inagaki K, Wang PL, Ito H, Morozumi T, Takeshita T, Suzuki N, Shigeishi H, Sugiyama M, Ohta K, Nagao T, Hanada N, Ojima M, Ogawa H, Smoking and periodontal microorganisms. The Japanese dental science review 55(1) 88–94 2019 年 11 月
3. Murata T, Ishikawa M, Shibuya K, Hanada N, Method for functional analysis of a gene of interest in *Streptococcus mutans*: gene disruption followed by purification of a polyhistidine-tagged gene product. Journal of microbiological methods 155 49–54 2018 年 12 月
4. Kuroiwa A, Nomura Y, Ochiai T, Sudo T, Nomoto R, Hayakawa T, Kanzaki H, Nakamura Y, Hanada N, Antibacterial, Hydrophilic Effect and Mechanical Properties of Orthodontic Resin Coated with UV-Responsive Photocatalyst. Materials (Basel, Switzerland) 11(6) 2018 年 5 月
5. Nomura Y, Matsuyama T, Fukai K, Okada A, Ida M, Yamauchi N, Hanamura H, Yabuki Y, Watanabe K, Sugawara M, Imanishi Y, Koizumi N, Murano Y, Nishiyama A, Fukukawa Y, Otsuka R, Hanada N, Precede-Proceed model based questionnaire and saliva tests for oral health checkup in adult. Journal of oral science 2019 年 9 月
6. Suma S, Naito M, Wakai K, Naito T, Kojima M, Umemura O, Yokota M, Hanada N, Kawamura T, Tooth loss and pneumonia mortality: A cohort study of Japanese dentists. PloS one 13(4) e0195813 2018 年
7. Murata T, Yamashita M, Ishikawa M, Shibuya K, Hanada N, Purification of a High Molecular Mass Protein in *Streptococcus mutans*. Journal of visualized experiments : JoVE (151) 2019 年 9
8. Nomura Y, Okada A, Miyoshi J, Mukaida M, Akasaka E, Saigo K, Daikoku H, Maekawa H, Sato T, Hanada N, Willingness to Work and the Working Environment of Japanese Dental Hygienists. International journal of dentistry 2018 2727193 2018 年
9. (*13)(*16)(*45) Consistency of supplied food and dentition status of the elderly in residential care homes. Nomura Y, Okada A, Kakuta E, Otsuka R, Sogabe K, Yamane K, Yamamoto T, Shigeta Y, Shigemoto S, Ogawa T, Hanada N, BMC oral health 19(1) 74 2019 年 5 月
10. Nomura Y, Maung K, Kay Khine EM, Sint KM, Lin MP, Win Myint MK, Aung T, Sogabe K, Otsuka R, Okada A, Kakuta E, Wint WY, Uruguchi M, Hasegawa R, Hanada N Prevalence of Dental Caries in 5- and 6-Year-Old Myanmar Children. International journal of dentistry 2019 5948379 2019 年
11. Okada A, Sogabe K, Takeuchi H, Okamoto M, Nomura Y, Hanada N, Characterization of specimens obtained by different sampling methods for evaluation of periodontal bacteria. Journal of oral science 59(4) 491–498 2017 年 12 月
12. Arai C, Nomura Y, Matsuzawa M, Hanada N, Nakamura Y, Extracellular HSP72 induces proinflammatory cytokines in human periodontal ligament fibroblast cells through the TLR4/NF κ

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

- B pathway in vitro. Archives of oral biology 83 181–186 2017 年 11 月
13. Murata T, Okada A, Matin K, Hanada N. Generation of a Gene-disrupted *Streptococcus mutans* Strain Without Gene Cloning. Journal of visualized experiments : JoVE (128) 2017 年 10 月
 14. Nitta H, Katagiri S, Nagasawa T, Izumi Y, Ishikawa I, Izumiyama H, Uchimura I, Kanazawa M, Chiba H, Matsuo A, Utsunomiya K, Tanabe H, Takei I, Asanami S, Kajio H, Ono T, Hayashi Y, Ueki K, Tsuji M, Kurachi Y, Yamanouchi T, Ichinokawa Y, Inokuchi T, Fukui A, Miyazaki S, Miyauchi T, Kawahara R, Ogiuchi H, Yoshioka N, Negishi J, Mori M, Mogi K, Saito Y, Tanzawa H, Nishikawa T, Takada N, Nanjo K, Morita N, Nakamura N, Kanamura N, Makino H, Nishimura F, Kobayashi K, Higuchi Y, Sakata T, Yanagisawa S, Tei C, Ando Y, Hanada N, Inoue S, The number of microvascular complications is associated with an increased risk for severity of periodontitis in type 2 diabetes patients: Results of a multicenter hospital-based cross-sectional study. Journal of diabetes investigation 8(5) 677–686 2017 年 9 月
 15. (*12)(*14)(*18) Nomura Y, Takeuchi H, Okamoto M, Sogabe K, Okada A, Hanada N, Chair-side detection of Prevotella Intermedia in mature dental plaque by its fluorescence. Photodiagnosis and photodynamic therapy 18 335–341 2017 年 6 月
 16. (*68) Okada A, Nomura Y, Sogabe K, Oku H, Sato Gillbreath A, Hino F, Hayashi H, Yoshino H, Utsunomiya H, Suzuki K, Koresawa K, Koba K, Uetani K, Kotoh M, Nishitsuji N, Akutsu S, Nakasone T, Tobi Y, Fukuzawa Y, Yabuki Y, Naono Y, Yajima M, Shimizu K, Hanada N, Comparison of salivary hemoglobin measurements for periodontitis screening. Journal of oral science 59(1) 63–69 2017
 17. Nomura Y, Morozumi T, Nakagawa T, Sugaya T, Kawanami M, Suzuki F, Takahashi K, Abe Y, Sato S, Makino-Oi A, Saito A, Takano S, Minabe M, Nakayama Y, Ogata Y, Kobayashi H, Izumi Y, Sugano N, Ito K, Sekino S, Numabe Y, Fukaya C, Yoshinari N, Fukuda M, Noguchi T, Kono T, Umeda M, Fujise O, Nishimura F, Yoshimura A, Hara Y, Nakamura T, Noguchi K, Kakuta E, Hanada N, Takashiba S, Amitani Y, Yoshie H, Site-level progression of periodontal disease during a follow-up period. PloS one 12(12) e0188670 2017 年
 18. Okamoto M, Naito M, Miyanohara M, Imai S, Nomura Y, Saito W, Momoi Y, Takada K, Miyabe-Nishiwaki T, Tomonaga M, Hanada N, Complete genome sequence of *Streptococcus troglodytae* TKU31 isolated from the oral cavity of a chimpanzee (Pan troglodytes). Microbiology and immunology 60(12) 811–816 2016 年 12 月
 19. Murata T, Hanada N, Contribution of chloride channel permease to fluoride resistance in *Streptococcus mutans*. FEMS microbiology letters 363(11) 2016 年 6 月
 20. (*68) Nomura Y, Okada A, Kakuta E, Gunji T, Kajiura S, Hanada N, A new screening method for periodontitis: an alternative to the community periodontal index. BMC oral health 16(1) 64 2016
 21. T. Morozumi, T. Nakagawa, Y. Nomura, T. Sugaya, M. Kawanami, F. Suzuki, K. Takahashi, Y. Abe, S. Sato, A. Makino-Oi, A. Saito, S. Takano, M. Minabe, Y. Nakayama, Y. Ogata, H. Kobayashi, Y. Izumi, N. Sugano, K. Ito, S. Sekino, Y. Numabe, C. Fukaya, N. Yoshinari, M. Fukuda, T. Noguchi, T. Kono, M. Umeda, O. Fujise, F. Nishimura, A. Yoshimura, Y. Hara, T. Nakamura, K. Noguchi, E. Kakuta, N. Hanada, S. Takashiba, H. Yoshie,. Salivary pathogen and serum antibody to assess the progression of chronic periodontitis: a 24 - mo prospective multicenter cohort study : J Periodontal Res. 2016 Dec;51(6):768–778. doi: 10.1111/jre.12353. Epub 2016 Jan 20.
 22. (*11)(*13)(*15)(*16) Shiozawa K, Ohnuki Y, Mototani Y, Umeki D, Ito A, Saeki Y, Hanada N, Okumura S, Effects of food diameter on bite size per mouthful and chewing behavior. The

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

journal of physiological sciences : JPS 66(1) 93–98 2016 年 1 月

23. Okamoto M, Imai S, Miyanohara M, Saito W, Momoi Y, Nomura Y, Ikawa T, Ogawa T, Miyabe–Nishiwaki T, Kaneko A, Watanabe A, Watanabe S, Hayashi M, Tomonaga M, Hanada N *Streptococcus panodentis* sp. nov. from the oral cavities of chimpanzees. Microbiology and immunology 59(9) 526–532 2015 年 9 月
24. Kajiyama S, Ujiie Y, Nishikawa S, Inoue K, Shirakawa S, Hanada N, Liddell R, Davies JE, Gomi K, Bone formation by human umbilical cord perivascular cells. Journal of biomedical materials research. Part A 103(8) 2807–2814 2015 年 8 月

【山越】

1. Yang X, Yamazaki H, Yamakoshi Y, Duverger O, Morasso MI, Beniash E. (2019) Trafficking and secretion of Keratin 75 by ameloblasts in vivo. J Biol Chem. pii: jbc.RA119.010037. doi: 10.1074/jbc.RA119.010037.
2. Okubo M, Chiba R, Karakida T, Yamazaki H, Yamamoto R, Kobayashi S, Niwa T, Margolis HC, Nagano T, Yamakoshi Y, Gomi K. (2019) Potential function of TGF- β isoforms in maturation-stage ameloblasts. J Oral Biosci. 61(1):43–54.
3. (*52) Karakida T, Onuma K, Saito MM, Yamamoto R, Chiba T, Chiba R, Hidaka Y, Fujii–Abe K, Kawahara H, Yamakoshi Y. (2019) Potential for drug repositioning of midazolam for dentin regeneration. Int J Mol Sci. 20(3) pii: E670. doi. 10.3390/ijms20030670.
4. Chiba R, Okubo M, Yamamoto R, Saito MM, Kobayashi S, Beniash E, Yamakoshi Y. (2019) Porcine keratin 75 in developing enamel. J Oral Biosci. 61(3):163–172.
5. (*58) Yamakawa S, Niwa T, Karakida T, Kobayashi K, Yamamoto R, Chiba R, Yamakoshi Y and Hosoya N. (2018) Effects of Er:YAG and diode laser irradiation on dental pulp cells and tissues. Int J Mol Sci. 19(8):2429.
6. Kobayashi S, Yamakoshi Y, Asada Y. (2018) TGF- β autocrine signaling at secretory-stage enamel. J Oral Biosci. 60(3):70–75.
7. (*19) Yamakoshi Y. (2018) Structural features, processing, mechanism and gene splice variants of dentin sialophosphoprotein. Jpn Dent Sci Rev. 54(4):183–196.
8. (*19) Niwa T, Yamakoshi Y, Yamazaki H, Karakida T, Chiba R, Hu JC–C, Nagano T, Yamamoto R, Simmer JP, Margolis HC, Gomi K. (2018) The dynamics of TGF- β in dental pulp, odontoblasts and dentin. Sci Rep. 8(1):4450.
9. (*19) 山越康雄 (2017) 象牙質シアロリンタンパク質(DSPP). 鶴見歯学 43(1): 1–11.
10. Yamazaki H, Beniash E, Yamakoshi Y, Simmer JP, Margolis HC. (2017) Protein phosphorylation and mineral binding affect the secondary structure of the leucine-rich amelogenin peptide. Front Physiol. 8:450.
11. Kwak SY, Litman A, Margolis HC, Yamakoshi Y, Simmer JP. (2017) Biomimetic enamel regeneration mediated by leucine-rich amelogenin peptide. J Dent Res. 96(5): 524–530.
12. 小林一行、丹羽堯彦、山川駿次郎、斉藤まり、山崎泰志、細矢哲康、五味一博、山越康雄 (2016) hPDL 細胞に対する Er:YAG レーザーの照射効果、日本レーザー学会誌、27(3): 84–89.
13. (*19) Yamamoto R, Yamakoshi Y. (2016) Dentin sialophosphoprotein-derived proteins in porcine pulp and dentin – Gene expression and function –. J Oral Biosci 58(4): 120–127.
14. Shimazaki E, Karakida T, Yamamoto R, Kobayashi S, Fukae M, Yamakoshi Y, Asada Y. (2016) TGF- β and physiological root resorption of deciduous teeth. Int J Mol Sci. 18(1) pii: E49. doi:

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

10.3390/ijms18010049.

15. Kobayashi-Kinoshita S, Yamakoshi Y, Onuma K, Yamamoto R, Asada Y. (2016) TGF- β 1 autocrine signalling and enamel matrix components. *Sci Rep.* 6:33644 doi:10.1038/srep33644.
16. Ujiie Y, Karakida T, Yamakoshi Y, Oshima T, Gomi, Oida S. (2016) Interleukin-4 released from human gingival fibroblasts reduces osteoclastogenesis. *Arch Oral Biol.* 72:187-193. doi: 10.1016/j.archoralbio.
17. Zhang J, Shirai M, Yamamoto R, Yamakoshi Y, Oida S, Ohkubo C, Zeng J. (2016) Effect of Nerve Growth Factor on Osseointegration of Titanium Implants in Type 2 Diabetic Rats. *Int J Oral Maxillofac Implants* 31(5):1189-1194. doi:10.11607/jomi.4455.
18. Shirai M, Yamamoto R, Chiba T, Komatsu K, Shimoda S, Yamakoshi Y, Oida S, Ohkubo C. (2016) Bone augmentation around a dental implant using demineralized bone sheet containing biologically active substances. *Dent Mater J.* 35(3):470-8. doi:10.4012/dmj.2016-026.
19. Kwak SY, Yamakoshi Y, Simmer JP, Margolis HC (2016) MMP20 proteolysis of native amelogenin regulates mineralization in vitro. *J Dent Res.* 95(13):1511-1517.
20. (*19) Yamamoto R, Oida S, Yamakoshi Y. (2015) Dentin sialophosphoprotein-derived proteins in the dental pulp. *J Dent Res.* 94(8):1120-7. doi:10.1177/0022034515585715.
21. Wang SK, Hu Y, Yang J, Smith CE, Richardson AS, Yamakoshi Y, Lee YL, Seymen F, Koruyucu M, Gencay K, Lee M, Choi M, Kim JW, Hu JC, Simmer JP. (2015) Fam83h null mice support a neomorphic mechanism for human ADHCAI. *Mol Genet Genomic Med.* 4(1):46-67. doi: 10.1002/mgg3.178.
22. Matsuzawa M, Arai C, Nomura Y, Murata T, Yamakoshi Y, Oida S, Hanada N, Nakamura Y. (2015) Periostin of human periodontal ligament fibroblasts promotes migration of human mesenchymal stem cell through the α v β 3 integrin/FAK/PI3K/Akt pathway. *J Periodontal Res.* 50(6):855-63. doi:10.1111/jre.12277.
23. Papagerakis P, Pannone G, Zhang LI, Athanassiou-Papaefthymiou M, Yamakoshi Y, McGuff HS, Shkeir O, Ghirtis K, Papagerakis S. (2015) Clinical significance of kallikrein-related peptidase-4 in oral cancer. *Anticancer Res.* 35(4):1861-6.

【黒田】

1. Inoue K, Kuroda N, Sato T. Elastic fiber system evaluated in the digestive organ of rats. *Microscopy (Oxf).* 2019 Dec 3;68(6):434-440. doi: 10.1093/jmicro/dfz030.
2. Kawasaki K., Mikami M., Nakatomi M., Braasch I., Batzel P., H Postlethwait J., Sato A, Sasagawa I., Ishiyama M. SCPP Genes and Their Relatives in Gar Rapid Expansion of Mineralization Genes in Osteichthyans. *J. Exp. Zool. B. Mol. Dev. Evol.*, 2017;328(7):645-665.
3. Terai Y., Miyagi R., Aibara M., Mizoiri S., Imai H., Okitsu T., Wada A., Takahashi-Kariyazono S., Sato A, Tichy H., Mrosso H.D.J., Mzighani S.I., Okada N. Visual adaptation in Lake Victoria cichlid fishes: depth-related variation of color and scotopic opsins in species from sand/mud bottoms. *BMC Evol. Biol.*, 2017;17(1):200.
4. Hara Y., Wake K., Inoue K., Kuroda N, Sato A, Inamatsu M., Tateno C., Sato T.: Development of the Heart Endocardium at an Early Stage of Chick Embryos Evaluated at Light- and Electron-Microscopic Levels. *Anat Rec (Hoboken)*, 2016;299(8):1080-9.
5. Wake K, Sato T. The sinusoid in the liver: lessons learned from the original definition by Charles Sedgwick Minot (1900). *Anat Rec (Hoboken)*. 2015;298(12):2071-80. doi: 10.1002/ar.23263. Epub.

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

6. Zenzo Miwa, Kouji Inoue, Noriyuki Kuroda and Tetsuji Sato Evaluation of Pulpal Vitality in Patients with Hereditary Sensory and Autonomic Neuropathy Type IV or V Journal of Dental and Oral Health (2015) 4: 22–29
 7. 棕梨兼彰、池田忠幸、黒田範行、早川徹、森戸光彦 歯科用磁性アタッチメントを構成するステンレス鋼からの金属イオン溶出と細胞増殖への影響 Elution of Metal Ions from Stainless Steel Which Compose Dental Magnetic Attachment and its Influence of Cell Growth 鶴見歯学 (2015) 41: 1–10
- 【中村】
1. Ishiguro N, Moriyama M, Furusho K, Furukawa S, Shibata T, Murakami Y, Chinju A, Rafiul Haque ASM, Gion Y, Ohta M, Maehara T, Tanaka A, Yamauchi M, Sakamoto M, Mochizuki K, Ono Y, Hayashida JN, Sato Y, Kiyoshima T, Yamamoto H, Miyake K, Nakamura S. Activated M2 macrophage contributes to the pathogenesis of IgG4-related disease via TLR7/IL-33 signaling. Arthritis Rheumatol 2019. in press
 2. Sakamoto M, Moriyama M, Shimizu M, Chinju A, Mochizuki K, Munemura R, Ohya K, Maehara T, Ogata K, Ohta M, Yamauchi M, Ishiguro N, Matsumura M, Ohya Y, Kiyoshima T, Nakamura S. The diagnostic utility of submandibular gland sonography and labial salivary gland biopsy in IgG4-related dacryoadenitis and sialadenitis: its potential application to the diagnostic criteria. Mod Rheumatol 2019. in press. (doi: 0.1080/14397595.2019.1576271)
 3. (*21) Furusho K, Shibata T, Sato R, Fukui R, Motoi Y, Zhang Y, Saitoh S, Ichinohe T, Moriyama M, Nakamura S, Miyake K. Cytidine deaminase enables Toll-like receptor 8 activation by cytidine or its analogs. Int Immunol 31(3);167–173, 2019.
 4. Maehara T, Moriyama M, Nakamura S. Pathogenesis of IgG4-related disease: a critical review. Odontology 107(2):127–132, 2019. (doi: 10.1007/s10266-018-0377-y)
 5. Sumida T, Azuma N, Moriyama M, Hagiwara S, Takahashi H, Asashima H, Honda F, Abe S, Ono Y, Hirota T, Hirata S, Tanaka Y, Shimizu T, Nakamura H, Kawakami A, Sano H, Ogawa Y, Tsubota K, Ryo K, Saito I, Tanaka A, Nakamura S, Takamura E, Tanaka M, Suzuki K, Takeuchi T, Yamakawa N, Ohta A, Mimori T, Nishiyama S, Yoshihara T, Suzuki Y, Kawano M, Tomiita M, Tsuboi H. Clinical practice guideline for Sjögren's syndrome 2017. Mod Rheumatol 28(3):383–408, 2018.
 6. Ogata K, Matsumura M, Moriyama M, Katagiri W, Hibi H, Nakamura S. Cytokine mixtures mimicking secretomes from mesenchymal stem cells improve medication-related osteonecrosis of the jaw in a rat model. JBMR plus 2017 in press. DOI: 10.1002/jbm4.10013.
 7. Takahashi H, Tsuboi H, Asashima H, Hirota T, Kondo Y, Moriyama M, Matsumoto I, Nakamura S, Sumida T. cDNA microarray analysis identifies NR4A2 as a novel molecule involved in the pathogenesis of Sjögren's syndrome. Clin Exp Immunol 2017 in press. DOI: 10.1111/cei.13000.
 8. Kubota K, Moriyama M, Furukawa S, Haque R ASM, Maruse Y, Jinno T, Tanaka A, Ohta M, Ishiguro N, Yamauchi M, Sakamoto M, Maehara T, Hayashida JN, Kawano S, Kiyoshima T, Nakamura S. CD163+CD204+ tumor-associated macrophages contribute to T cell regulation via interleukin-10 and PD-L1 production in oral squamous cell carcinoma. Sci Rep 7:1755, 2017. DOI: 10.1038/s41598-017-01661-z.
 9. Tsuboi H, Hagiwara S, Asashima H, Takahashi H, Hirota T, Noma H, Umehara H, Kawakami A, Nakamura H, Sano H, Tsubota K, Ogawa Y, Takamura E, Saito I, Inoue H, Nakamura S, Moriyama M, Takeuchi T, Tanaka Y, Hirata S, Mimori T, Matsumoto I, and Sumida T. Comparison of performance of the 2016 ACR-EULAR classification criteria for primary Sjögren's syndrome with other sets of

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

criteria in Japanese patients. Ann Rheum Dis 2017 in press DOI: 10.1136/annrheumdis-2016-210758.

10. Yamauchi M, Moriyama M, Hayashida JN, Maehara T, Ishiguro N, Kubota K, Furukawa S, Ohta M, Sakamoto M, Tanaka A, Nakamura S. Myeloid dendritic cells stimulated by thymic stromal lymphopoietin promote Th2 immune responses and the pathogenesis of oral lichen planus. PLoS ONE 12(3): e0173017. 2017. DOI: 10.1371/journal.pone.0173017.
11. Furukawa S, Moriyama M, Miyake K, Nakashima H, Tanaka A, Maehara T, Iizuka-Koga M, Tsuboi H, Hayashida JN, Ishiguro N, Yamauchi M, Sumida T, and Nakamura S. Interleukin-33 produced by M2 macrophages and other immune cells contributes to Th2 immune reaction of IgG4-related disease. Sci Rep 7:42413, 2017 DOI: 10.1038/srep42413.
12. Moriyama M and Nakamura S. Th1/Th2 immune balance and other T helper subsets in IgG4-Related Disease. Curr Top Microbiol Immunol 401:75–83, 2017 DOI: 10.1007/82_2016_40.
13. Maehara T, Mattoo H, Ohta M, Mahajan VS, Moriyama M, Yamauchi M, Drijvers J, Nakamura S, Stone JH, Pillai SS. Lesional CD4+ IFN- γ + cytotoxic T lymphocytes in IgG4-related dacryoadenitis and sialoadenitis. Ann Rheum Dis 76(2):377–385, 2017.
 ➡ Highlighted in Nat Rev Rheumatol 12(9):500, 2016
14. Imabayashi Y, Moriyama M, Takeshita T, Ieda S, Hayashida JN, Tanaka A, Maehara T, Furukawa S, Ohta M, Kubota K, Yamauchi M, Ishiguro N, Yamashita Y, Nakamura S. Molecular analysis of fungal populations in patients with oral candidiasis using next-generation sequencing. Sci Rep 6:28110, 2016. (doi: 10.1038/srep28110)
15. (*20) Ohya K, Moriyama M, Hayashida JN, Tanaka A, Maehara T, Ieda S, Furukawa S, Ohta M, Imabayashi Y, Nakamura S. Saliva as a potential tool for diagnosis of dry mouth including Sjögren's syndrome. Oral Dis 21: 224–231, 2015.
16. Hayashida JN, Minami S, Moriyama M, Toyoshima T, Shinozaki S, Tanaka A, Maehara T, Nakamura S. Differences of stimulated and unstimulated salivary flow rates in the patients with dry mouth. J Oral Maxillofac Surg Med Pathol 27(1):96–101, 2015.

【豊福】

1. (*24) Sugawara S, Shinoda M, Hayashi Y, Saito H, Asano S, Kubo A, Shibuta I, Furukawa A, Toyofuku A, Iwata K. Increase in IGF-1 Expression in the Injured Infraorbital Nerve and Possible Implications for Orofacial Neuropathic Pain. Int J Mol Sci. 2019 Dec 17;20(24). pii: E6360. doi: 10.3390/ijms20246360. PubMed PMID: 31861182.
2. (*49) Watanabe M, Takenoshita M, Tu TTH, Toyofuku A. Real-world Discontinuation of Antidepressant Treatment in Patients with Burning Mouth Syndrome: A Chart Review. Pain Med. 2019 Dec 16. pii: pnz324. doi: 10.1093/pm/pnz324. [Epub ahead of print] PubMed PMID: 31841160.
3. (*49) Paudel D, Utsunomiya M, Yoshida K, Giri S, Uehara O, Matsuoka H, Chiba I, Toyofuku A, Abiko Y. Pharmacotherapy in relieving the symptoms of burning mouth syndrome: A 1-year follow-up study. Oral Dis. 2020 Jan;26(1):193–199. doi: 10.1111/odi.13226. Epub 2019 Nov 26. PubMed PMID: 31705718.
4. (*23)(*47) Suga T, Takenoshita M, Toyofuku A. Medical comorbidities of patients with burning mouth syndrome. Oral Dis. 2020 Jan;26(1):238–239. doi: 10.1111/odi.13186. Epub 2019 Oct 10. PubMed PMID: 31466124.
5. (*53) Shinohara Y, Umezaki Y, Minami I, Watanabe M, Miura A, Mikutsuki L, Kawasaki K, Sugawara

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

- S, Trang TTH, Suga T, Watanabe T, Yoshikawa T, Takenoshita M, Motomura H, Toyofuku A. Comorbid depressive disorders and left-side dominant occlusal discomfort in patients with phantom bite syndrome. J Oral Rehabil. 2020 Jan;47(1):36–41. doi: 10.1111/joor.12872. Epub 2019 Aug 28. PubMed PMID:31398263.
6. Uezato A, Toyofuku A, Umezaki Y, Nishikawa T. Oral dysesthesia associated with autistic traits: a retrospective chart review. Eur J Oral Sci. 2019 Aug;127(4):347–350. doi: 10.1111/eos.12620. Epub 2019 May 9. PubMed PMID:31071244.
 7. (*49) Tu TTH, Miura A, Shinohara Y, Mikuzuki L, Kawasaki K, Sugawara S, Suga T, Watanabe T, Aota Y, Umezaki Y, Takenoshita M, Toyofuku A. Pharmacotherapeutic outcomes in atypical odontalgia: determinants of pain relief. J Pain Res. 2019 Feb 27;12:831–839. doi: 10.2147/JPR.S188362. eCollection 2019. PubMed PMID:30881094; PubMed Central PMCID: PMC6398971.
 8. (*53) Umezaki Y, Tu TTH, Toriihara A, Sato Y, Naito T, Toyofuku A. Change of Cerebral Blood Flow After a Successful Pharmacological Treatment of Phantom Bite Syndrome: A Case Report. Clin Neuropharmacol. 2019 Mar/Apr;42(2):49–51. doi:10.1097/WNF.0000000000000328. PubMed PMID: 30789368; PubMed Central PMCID: PMC6426344.
 9. (*23)(*47) Tu TTH, Takenoshita M, Matsuoka H, Watanabe T, Suga T, Aota Y, Abiko Y, Toyofuku A. Current management strategies for the pain of elderly patients with burning mouth syndrome: a critical review. Biopsychosoc Med. 2019 Jan 31; 13:1. doi: 10.1186/s13030-019-0142-7. eCollection 2019. Review. PubMed PMID: 30733824; PubMed Central PMCID: PMC6357406.
 10. (*23) Suga T, Watanabe T, Aota Y, Nagamine T, Toyofuku A. Burning mouth syndrome: The challenge of an aging population. Geriatr Gerontol Int. 2018 Dec;18(12):1649–1650. doi:10.1111/ggi.13548. PubMed PMID: 30548780.
 11. (*48) Umezaki Y, Miura A, Shinohara Y, Mikuzuki L, Sugawara S, Kawasaki K, Tu TT, Watanabe T, Suga T, Watanabe M, Takenoshita M, Yoshikawa T, Uezato A, Nishikawa T, Hoshiko K, Naito T, Motomura H, Toyofuku A. Clinical characteristics and course of oral somatic delusions: a retrospective chart review of 606 cases in 5 years. Neuropsychiatr Dis Treat. 2018 Aug 13;14:2057–2065. doi:10.2147/NDT.S167527. eCollection 2018. PubMed PMID: 30147319; PubMed Central PMCID: PMC6095116.
 12. Tu TTH, Uezato A, Toyofuku A. Psychology: Psychiatric dimension to oral pain. Br Dent J. 2018 Aug 24;225(4):276. doi: 10.1038/sj.bdj.2018.701. PubMed PMID: 30141507.
 13. Kawasaki K, Nagamine T, Watanabe T, Suga T, Tu TTH, Sugawara S, Mikuzuki L, Miura A, Shinohara Y, Yoshikawa T, Takenoshita M, Toyofuku A. An increase in salivary flow with amitriptyline may indicate treatment resistance in burning mouth syndrome. Asia Pac Psychiatry. 2018 Sep;10(3):e12315. doi:10.1111/appy.12315. Epub 2018 Mar 25. PubMed PMID: 29575764.
 14. Miura A, Tu TTH, Shinohara Y, Mikuzuki L, Kawasaki K, Sugawara S, Suga T, Watanabe T, Watanabe M, Umezaki Y, Yoshikawa T, Motomura H, Takenoshita M, Maeda H, Toyofuku A. Psychiatric comorbidities in patients with Atypical Odontalgia. J Psychosom Res. 2018 Jan;104:35–40. doi: 10.1016/j.jpsychores.2017.11.001. Epub 2017 Nov 7. PubMed PMID: 29275783.
 15. (*24) Sugawara S, Okada S, Katagiri A, Saito H, Suzuki T, Komiya H, Kanno K, Ohara K, Inuma T, Toyofuku A, Iwata K. Interaction between calcitonin gene-related peptide-immunoreactive neurons and satellite cells via P2Y(12) R in the trigeminal ganglion is involved in neuropathic

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

- tongue pain in rats. Eur J Oral Sci. 2017 Dec;125(6):444–452. doi: 10.1111/eos.12382. Epub 2017 Oct 11. PubMed PMID: 29023985.
16. (*47) Tu TTH, Miura A, Shinohara Y, Mikuzuki L, Kawasaki K, Sugawara S, Suga T, Watanabe T, Watanabe M, Umezaki Y, Yoshikawa T, Motomura H, Takenoshita M, Toyofuku A. Evaluating Burning Mouth Syndrome as a Comorbidity of Atypical Odontalgia: The Impact on Pain Experiences. Pain Pract. 2018 Jun;18(5):580–586. doi: 10.1111/papr.12647. Epub 2017 Nov 20. PubMed PMID: 28972293.
 17. (*24) Mikuzuki L, Saito H., Katagiri A., Okada S., Sugawara S., Kubo A., Ohara K., Lee J., Toyofuku A., Iwata K. : Phenotypic change in trigeminal ganglion neurons associated with satellite cell activation via extracellular signal-regulated kinase phosphorylation is involved in lingual neuropathic pain. Eur J Neurosci. 2017 Sep;46(6):2190–2202. doi: 10.1111/ejn.13667. Epub 2017 Sep 4. PubMed PMID: 28834578.
 18. Takenoshita M., Miura A., Shinohara Y., Mikuzuki R., Sugawara S., Tu TTH., Kawasaki K., Kyuragi T., Umezaki Y., Toyofuku A. : Clinical features of atypical odontalgia; three cases and literature reviews. Biopsychosoc Med. 2017 Aug 3;11:21. doi:10.1186/s13030-017-0106-8. eCollection 2017. PubMed PMID: 28785306; PubMed Central PMCID: PMC5541751.
 19. Matsuoka H., Chiba I., Sakano Y., Toyofuku A., Abiko Y. Cognitive behavioral therapy for psychosomatic problems in dental settings. Biopsychosoc Med. 2017 Jun 13;11:18. doi: 10.1186/s13030-017-0102-z. eCollection 2017. Review. PubMed PMID: 28630646; PubMed Central PMCID: PMC5470220.
 20. (*48) Umezaki Y., Uezato A., Toriihara A., Nishikawa T., Toyofuku A. Two Cases of Oral Somatic Delusions Ameliorated With Brain Perfusion Asymmetry: A Case Report. Clin Neuropharmacol. 2017 Mar/Apr;40(2):97–99. doi: 10.1097/WNF.0000000000000207. PubMed PMID: 28225385; PubMed Central PMCID: PMC5349303.
 21. (*49) Takenoshita M., Motomura H., Toyofuku A. Low-Dose Aripiprazole Augmentation in Amitriptyline-Resistant Burning Mouth Syndrome: Results from Two Cases. Pain Med. 2017 Apr 1;18(4):814–815. doi: 10.1093/pm/pnw200. PubMed PMID: 27558854; PubMed
 22. Umezaki Y., Miura A., Watanabe M., Takenoshita M., Uezato A., Toriihara A., Nishikawa T., Toyofuku A. Oral cenesthopathy. Biopsychosoc Med. 2016 Jun 10;10:20. doi: 10.1186/s13030-016-0071-7. Review. PubMed PMID: 27293481; PubMed Central PMCID: PMC4903001.
 23. (*49) Umezaki Y., Takenoshita M., Toyofuku A. Low-dose aripiprazole for refractory burning mouth syndrome. Neuropsychiatr Dis Treat. 2016 May 19;12:1229–31. doi:10.2147/NDT.S94426. PubMed PMID: 27279742; PubMed Central PMCID: PMC4878659.
 24. Toyofuku A. Psychosomatic problems in dentistry. Biopsychosoc Med. 2016 Apr 30;10:14. doi: 10.1186/s13030-016-0068-2. Review. PubMed PMID: 27134647; PubMed Central PMCID: PMC4851772.
 25. (*48) Watanabe M., Umezaki Y., Miura A., Shinohara Y., Yoshikawa T., Sakuma T., Shitano C., Katagiri A., Takenoshita M., Toriihara A., Uezato A., Nishikawa T., Motomura H., Toyofuku A. Comparison of cerebral blood flow in oral somatic delusion in patients with and without a history of depression: a comparative case series. BMC Psychiatry. 2015 Mar 10;15:42. doi: 10.1186/s12888-015-0422-0. PubMed PMID: 25886053; PubMed Central PMCID: PMC4364484.
 26. Watanabe M., Umezaki Y., Suzuki S., Miura A., Shinohara Y., Yoshikawa T., Sakuma T., Shitano C.,

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

- Katagiri A., Sato Y., Takenoshita M., Toyofuku A. Psychiatric comorbidities and psychopharmacological outcomes of phantom bite syndrome. J Psychosom Res. 2015 Mar;78(3):255-9. doi: 10.1016/j.jpsychores.2014.11.010. PubMed PMID: 25477300.
27. 豊福 明: 超高齢社会におけるドライマウスへの対応 ドライマウスと歯科心身症、日本歯科評論 75(3) 47-52, 2015.
28. 豊福 明: 歯科の不定愁訴(MUOS)への向き合い方、The Quintessence 34(6) 1210-1219, 2015.
29. 豊福 明: 最近の歯学 歯科心身医学 歯の不定愁訴は、どこから生じるのか?、口腔病学会雑誌 81/82 巻 3/1 号 15, 2015.
30. 吉川達也、豊福 明: 不定愁訴臨床を極める! 歯科領域では不定愁訴をこうみる, Modern Physician 35(8) 952-954, 2015.

<図書>

【斎藤/松本】

1. 斎藤一郎(分担): 新版 歯学生のための摂食嚥下リハビリテーション学、医師薬出版株式会社、2019.9.
2. 斎藤一郎(分担): 学研 まんがでよくわかるシリーズ 147 ガムのひみつ【新版】、株式会社学研プラス、2019.2
3. 斎藤一郎(分担): ライフステージに合わせた口腔機能への対応 MFT アップデート、医師薬出版株式会社、2018.12
4. 斎藤一郎(分担): 代謝センシングー健康、食、美容、薬、そして脳の代謝を知るー、シーエムシー出版、2018.9
5. 斎藤一郎(分担): シェーグレン症候群の診断と治療マニュアル 改訂第 3 版、診断と治療社、2018.9.20.
6. 斎藤一郎(分担): 小児期シェーグレン症候群(SS)診療の手引き 2018 年版、羊土社、2018.5.1
7. 斎藤一郎: 不老は口から。電子免疫治療研究会 3: 1 11-15, 2017.
8. 斎藤一郎(分担): 歯周病を自分で治す最強療法、株式会社マキノ出版、2017.
9. 梁洪淵, 斎藤一郎(分担): 機能性食品 DATA BOOK 3 歯科領域。メディカルレビュー社、2016.
10. 斎藤一郎(分担): 『臨床のみかたシリーズ』新訂版 知りたいことがすぐわかる高齢者歯科医療ー歯科医療につながる医学知識ー、株式会社永末書店、2017.
11. 梁洪淵, 斎藤一郎(分担): シェーグレン症候群診療ガイドライン 2017 年版、株式会社診断と治療社、2017.
12. 斎藤一郎(編著・分担): 超高齢社会におけるドライマウスへの対応ーいま、ドライマウスにどう取り組むべきか。株式会社ヒョーロン・パブリッシャーズ、2017.
13. 梁洪淵, 斎藤一郎(分担): ドクターが教える あなたのカラダとサプリメント。メディカルレビュー社、2016.
14. 斎藤一郎(監修・分担): ドライシンドロームの基礎と臨床。メディカルレビュー社、2016.
15. 斎藤一郎: 幸せを引き寄せる笑顔の法則。誠文堂新光社、2016
16. 斎藤一郎(編集・監修・分担), 梁洪淵(分担): アンチエイジング医学 基礎と臨床 第 3 版。メジカルビュー社、2016.
17. 斎藤一郎(分担): 健康に長生きしたければ1日1曲歌いなさい。株式会社アスコム、2015.
18. 斎藤一郎(分担): ラジオ深夜便 新珠玉のことば ~ラジオが教えてくれた名言 100~。一般財団法人 NHK サービスセンター、2015.
19. 斎藤一郎(分担): 第3版 EB ウィルス 自己免疫疾患(関節リウマチ、Sjogren 症候群)。診断と治療社、2015.
20. 梁 洪淵, 斎藤一郎(分担): コエンザイム Q10 の基礎と応用 応用編 9 口腔疾患。丸善プラネット株式会社、2015.
21. 斎藤一郎(分担): 非侵襲的検体検査の最前線ー唾液検査・呼吸検査を中心にー。シーエムシー出版、2015.

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

【早川】

1. 福島忠男, 大野 純, 鍛冶屋浩, 御手洗 誠, 早川 徹: 歯科再生・修復医療と材料, サケ由来骨再生材料シーエムシー出版, 2015 年.

【朝田/船山】

1. 成山明具美: 子どもの患者の治療・対応に上手くなろうー乳幼児の外科的処置①局所酔時の対応, 日本歯科評論増刊, 朝田芳信, ヒョーロン・パブリッシャーズ, 62-63, 2015
2. 成山明具美: 子どもの患者の治療・対応に上手くなろうー10 乳幼児の治療を安全に行うためのポイント①薬剤, 日本歯科評論増刊, 朝田芳信, ヒョーロン・パブリッシャーズ, 68-69, 2015

【小川】

1. Saulo L. Sousa Melo, Zhimin Li, Kivanç Kamburoğlu, Yuko Shigeta, Takumi Ogawa, Reyes Enciso and William C. Scarfe Obstructive Sleep Apnea Hypopnea Syndrome 1071-1108 Springer 2018
2. 井川知子, 小川 匠 基礎から学ぶ CADA/CAM テクノロジー 78-70 医歯薬出版 2017 年 8 月
3. 新 よくわかる顎口腔機能 咬合・摂食嚥下・発音を理解する 日本顎口腔機能学会編 医歯薬出版, 2017. 「顎運動モデル」(小川 匠, 井川知子), 「顎運動をどう評価するか」(平林里大, 小川 匠), 「機能時の咬合接触」(小川 匠, 重本修伺),
4. 小川 匠, 井川 知子(分担) デジタルデンティストリー シミュレーションとナビゲーション 111-118 永末書店 2015

【濱田】

1. 和気 裕之, 澁谷 智明, 岡本 俊宏, 築山 能大, 小見山 道, 和嶋 浩一, 濱田 良樹, 塚原 宏泰, 島田 淳, 依田 哲也, 儀武 啓幸, 五十嵐 千浪, 玉置 勝司, 高野 直久, 佐藤 文明 一般歯科臨床での顎関節脱臼への対処法 古谷野 潔(日本顎関節学会), 歯界展望 Page138-150、2017.07
2. 濱田良樹: 第 3 章 口腔外科疾患総論, ⑩顎関節疾患, IV 炎症, V 腫瘍および腫瘍類似疾患, VI 顎関節強直症: 最新口腔外科学 第 5 版: 榎本昭二, 道 健一, 天笠光雄, 小村 健 監修; 又賀泉, 森田章介, 杉山芳樹, 大木秀郎, 柴原孝彦, 依田哲也, 原田浩之, 原田 清 編集: 医歯薬出版株式会社, 東京, P397-403, 2017.
3. 山田浩之, 濱田良樹. 付章 III 手術各論 6 唾液腺の手術, 栗田賢一, 覚道健治編集, SIMPLE TEXT 口腔外科の疾患と治療 第 4 版, 分担執筆, 共著, 永末書店, P437~439, 2016.
4. 山田浩之, 濱田良樹. VIII 唾液腺疾患, 栗田賢一, 覚道健治編集, SIMPLE TEXT 口腔外科の疾患と治療 第 4 版 分担執筆, 共著, 永末書店, P242~260, 2016.
5. 濱田良樹: 第 IV 章 4 細径硬性関節鏡を用いた病態診断と顎関節有視下洗浄療法: カラーアトラス顎関節外科の手術手技ーパンピングから関節鏡、円板切除、全置換術までー: 村上賢一郎, 近藤壽郎, 瀬上夏樹 監著: クインテッセンス出版株式会社, 東京, P78-83, 2016.
6. 熊谷賢一, 濱田良樹: 3 唾液腺疾患 5 外傷, 6 異物: 口腔内科学: 山根源之, 草間幹夫, 久保田英朗 編集主幹: 永末書店, 京都, P430-435, 2016.
7. 山田浩之, 濱田良樹: VIII 唾液腺疾患: 第 4 版 SIMPLE TEXT 口腔外科の疾患と治療: 栗田賢一, 覚道健治 編集主幹: 永末書店, 京都, P242-260, 2016.
8. 山田浩之, 濱田良樹: 付章 III 手術各論 6. 唾液腺の手術: 第 4 版 SIMPLE TEXT 口腔外科の疾患と治療: 栗田賢一, 覚道健治 編集主幹: 永末書店, 京都, P437-439, 2016.
9. 濱田良樹: 第 3 章 顎関節症の治療 II. 顎関節症の治療法 6. 外科療法: 顎関節症診療ハンドブック: 本田和也, 松本邦史, 小林 馨, 新井嘉則 編: メディア株式会社, 東京, P118-119, 2016
10. 山田浩之, 濱田良樹. 第 4 章 外科的侵襲の病態生理と患者管理, B 患者の評価および管理, 野

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

- 間弘康, 瀬戸皖一監修, 標準口腔外科学 第4版, 分担執筆, 共著, 医学書院 P67～75, 2015
11. 濱田良樹, 山田浩之. Chapter 5 難抜歯, 坂下英明編著, 抜歯テクニックコンプリートガイド, 分担執筆, 共著, クインテッセンス出版 P109～134, 2015

【大島】

1. (*43) Bacterial cell-free probiotics using effective substances produced by probiotic bacteria, for application in the oral cavity. Ohshima, T., Kawai, T., Maeda, N., in “Prebiotics and Probiotics – Potential Benefits in Human Nutrition and Health– Intech Open. 2019)
2. (*42)(*43) “Microbial Biofilms: OMICS biology, antimicrobials and clinical implications.” Ed. Seneviratne CJ. (CRC Press, Taylor & Francis group, UK). Chapter X : Ohshima T Kojima. Y., Seneviratne CJ. Maeda, N.. Synbiotics, a fusion of probiotics and prebiotics, and biogenics against oral biofilm associated diseases. 2017.)
3. (*41) 口腔カンジダ症治療指針:第1章 口腔カンジダの基礎 前田伸子 共著 日本歯科薬物療法学会 口腔カンジダ症薬物療法ガイドライン制定委員会編 医歯薬出版 2016年3月発行

【奥村】

1. 奥村 敏監修, 塩澤光一著 タディ生理学・口腔生理学 第3版 永末書店 2018年4月19日出版
2. 石川義弘, 岡村康司, 尾仲達史, 河野憲二監訳, 奥村 敏他共訳 ガイトン生理学原著第13版 エルゼビア・ジャパン株式会社 2018年3月20日出版
3. 奥村敏他 生理学問題集(CBT 準拠) 日本生理学会 教育委員会編 文光堂 2015年12月7日出版

【花田】

1. (*11)(*13) 花田 信弘、萩原 芳幸、北川 昇 (監修)、臨床歯科栄養学—歯科に求められる栄養の基礎知識 口腔保健協会、2018年
2. 花田 信弘 著, 藤原 卓 (著), 眞木 吉信 (著), 奥 猛志 (著), 吉田 昊哲 (編集) ゼロからわかる小児う蝕予防の最前線、クインテッセンス出版 2018年
3. 花田信弘 著、歯周病が寿命を縮める、法研、2017年
4. 花田信弘監著、歯科発アクティブライフプロモーション 21—健康増進からフレイル予防まで、デンタル・ダイヤモンド社、2017年
5. 花田信弘 著、女性の口臭・歯周病はこうして防ぐ、PHP 出版、2017年
6. (*11) 萩原芳幸、武内博朗、花田信弘 著, インプラント治療で生活習慣病を予防する～咀嚼機能回復後の食習慣改善と栄養指導が導く健康寿命の延伸～インプラント YEARBOOK 2016、クインテッセンス出版、東京、2016年4月。

【山越】

1. (*19) Yamakoshi Y, Hu JC, Saito MM, Simmer JP. (2019) Protocols for studying formation and mineralization of dental tissues in vivo: Extraction protocol for isolating dentin matrix proteins from developing teeth. Odontogenesis; Methods Mol. Biol. Chapter 24 (Ed. Papagerakis P, Human Press), pp.239–250.

【黒田】

1. Noriyuki Kuroda, Tetsuji Sato Novel Mechanism Supporting Therapeutic Effects of Glycyrrhizin in Acute or Chronic Hepatitis May 2017, DOI10.5772/67078 In book: Biological Activities and Action Mechanisms of Licorice Ingredients
2. 「歯科衛生士講座 高齢者歯科学」第3版 永末書店 2017,

【中村】

1. 森山 雅文、中村 誠司:「口腔外科のレベルアップ&ヒント」片倉 朗 編:第9章 唾液腺疾患 02. IgG4 関連疾患、192–195 頁、デンタルダイヤモンド社、2019

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

2. 中村誠司: 口腔乾燥. 医学書院 夏目長門、池上由美子編: 治療を支える. がん患者の口腔ケア (第4章、4-1)、pp53-61、2017.
3. 中村誠司: 口腔乾燥症(ドライマウス)について①, ②. 健康教室 798(3): 78-81, 86-89, 2017
4. 中村誠司: Ⅸ口腔乾燥 93唾液. 永末書店 一般社団法人日本口腔ケア学会編: 口腔ケア基礎知識、pp274-276、2017.
5. 中村誠司: Ⅱドライマウスはどのような病気か? 鑑別すべき疾患とは? ~原因別に考えるドライマウスの診断~ 株式会社ヒョーロン・パブリッシャーズ 超高齢社会におけるドライマウスへの対応 いま、ドライマウスにどう取り組むべきか~ pp17-28、2017
6. 森山 雅文、中村 誠司:「シェーグレン症候群の診断と治療マニュアル 改訂第3版」第3章 診断手技・手法 1. 唾液分泌量の測定、第4章 臨床症状 5. IgG4 関連疾患 (2) 病態、第5章 対応と治療 2. 口腔乾燥症の対応と治療、44-47 頁、187-191 頁、214-218 頁、診断と治療社、2018

【豊福】

1. 豊福 明、吉川達也: 5 分でできる明るい歯科心身医学、永末書店、2017.
2. 斎藤一郎、阪井丘芳、豊福 明、中川洋一、中村誠司: 超高齢社会におけるドライマウスへの対応、ヒョーロンパブリッシャーズ、29-36、2017.
3. 豊福 明: 内科での投薬と歯科治療 4. 抗うつ薬(知りたいことがすぐわかる高齢者歯科医療)永末書店、174-175、2017.
4. 豊福 明: 精神障害とその分類(スペシャルニーズデンティストリー障害者歯科)、医歯薬出版、147-155、2017.
5. 吉川達也、豊福 明: 歯科(口腔)心身症(総論)、精神疾患との鑑別(口腔内科学)、永末書店、518-522、528-535、2016.
6. 豊福 明: 精神神経疾患とドライシンドローム・歯科心身症(ドライシンドロームの基礎と臨床)メディカルレビュー社、181-185、2016.

<学会発表>

【斎藤/松本】

1. 中山亮子,山崎智恵,松本直行,井上裕子,斎藤一郎. 肺線維症モデルを用いたビタミン D の抗炎症作用と局所活性化の検討 第 19 回日本抗加齢医学会総会・学術大会. パシフィコ横浜. 2019 年 6 月 14 日
2. (*2) 山崎智恵,中山亮子,奴久妻智代子,松本直行,斎藤一郎. 重炭酸イオンの経皮吸収による血流促進効果の検討 第 19 回日本抗加齢医学会総会・学術大会. パシフィコ横浜. 2019 年 6 月 14 日
3. (*3) 山崎智恵,白根和明,中山亮子,松本直行,菅野智子,金子三恵,井上裕子,斎藤一郎. 乳酸菌(EF2001)のカンジダ抑制効果と口腔カンジダ症の改善の検討. 第 18 回日本抗加齢医学会総会・学術大会. 大阪国際会議場. 2018 年 5 月 26 日
4. (*25) 中山亮子,金子三恵,菅野智子,梁 洪淵,山崎智恵,藤井健志,松本直行,井上裕子,斎藤一郎. 還元型 CoQ10 が唾液分泌に与える効果の検討. 第 18 回日本抗加齢医学会総会・学術大会. 大阪国際会議場. 2018 年 5 月 25 日
5. (*3) 松本直行,中山亮子,斎藤一郎. 2型糖尿病に見られる唾液分泌障害成立機序の検討 -GlcNAc 修飾を介した腺組織傷害の関与-. 第 28 回 日本臨床口腔病理学会総会・学術大会,ウエスタ川越,埼玉,2017 年 8 月 24 日
6. 金子三恵,梁 洪淵,中山亮子,玉置洋,斎藤一郎. エクオール含有大豆イソフラボンの唾液分泌に与える効果の検討. 第 17 回日本抗加齢医学会総会,東京国際フォーラム,東京,2017 年 6 月 4 日
7. (*2) 中山亮子,井上裕子,金子三恵,梁 洪淵,伊藤正,斎藤一郎. 早期閉経モデルマウスを用いた唾液分泌障害におけるミトコンドリアの解析. 第 17 回日本抗加齢医学会総会,東京国際フォーラム,東京,2017 年 6 月 2 日
8. 松本直行, 斎藤一郎. 変異特異的 LAMP 法による EGFR 及び KRAS 遺伝子変異の検出. 第 9 回

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

日本口腔検査学会総会・学術大会, 奥羽大学, 福島, 2016 年 10 月 1 日～2 日

9. 金子三恵, 梁 洪淵, 斎藤一郎. アンチエイジング外来における口腔と全身の老化度検査の解析. 第 9 回日本口腔検査学会・学術大会, 奥羽大学, 郡山, 2016 年 10 月 2 日
10. Matsumoto N., Komiyama K., Saito I. Rapid detection of EGFR and KRAS gene mutation by mutation oriented LAMP method. 第 27 回 日本臨床口腔病理学会総会・学術大会, 広島大学 広仁会館, 広島, 2016 年 8 月 12 日
11. 中山 亮子, 井上 裕子, 金子 三恵, 梁 洪淵, 斎藤 一郎. ミトコンドリアのエストロゲンを経た唾液分泌制御機構の検討. 第 16 回日本抗加齢医学会総会, パシフィコ横浜, 神奈川, 2016 年 6 月 10 日
12. 金子三恵, 梁 洪淵, 高橋啓, 小野博之, 小笠原智彦, 阿部道郎, 斎藤一郎. 花椒オイル含有カプセル型食品の唾液分泌効果の検討. 第 8 回日本口腔検査学会総会・学術大会, 神奈川歯科大学, 横須賀, 2015 年 10 月 4 日
13. 金子三恵, 梁 洪淵, 高橋啓, 小野博之, 小笠原智彦, 阿部道郎, 井上裕子, 斎藤一郎. ドライマウス患者に対する花椒オイル含有カプセル型食品の唾液分泌効果の検討. 第 15 回日本抗加齢医学会総会, 福岡国際会議場, 福岡, 2015 年 5 月 31 日

【早川】

1. 早川 徹. 歯科材料としてのアパタイト. 第 14 回バイオミネラリゼーションワークショップ. 東京大学大気海洋研, 2019 年 11 月 8 日.
2. 山近梨奈, 宮本永浩, 庵原啓司, 早川 徹, 細矢哲康. 外科的歯内療法における骨補填材に関する基礎的研究. 日本歯科保存学会 2018 年度春季学術大会(第 148 回), 横浜みなとみらいホール, 2018 年 6 月 14-15 日.
3. 山近梨奈, 宮本永浩, 細矢哲康, 早川 徹. 改良型 DNA 複合体ペーストの骨形成能について. 平成 30 年度春期第 71 回日本歯科理工学会学術講演会, 大阪歯科大学 楠葉学舎, 2018 年 4 月 14-15 日.
4. 脇 拓也, 早川 徹, 大久保力廣. アミノ酸含有新規ナノ-HA ペーストの骨応答. 口腔インプラント学会 3 回関東・甲信越支部学術大会, 鶴見大学記念館, 2018 年 2 月 11-12 日.
5. 八木 亮, 早川 徹, 大久保 力廣. 三元系錯体水溶液スプレー法によるアパタイト薄膜コーティングインプラント. 日本口腔インプラント学会 3 回関東・甲信越支部学術大会, 鶴見大学記念館, 2018 年 2 月 11-12 日.
6. 早川 徹. シンポジウム1 口腔から始めるバイオマテリアル 歯科用インプラントの表面改質. 第 39 回日本バイオマテリアル学会大会, タワーホール船堀, 2017 年 11 月 21-22 日.
7. 宮本永浩, 山近梨奈, 櫻井敏継, 庵原啓司, 細矢哲康, 早川 徹. 立体構造の異なる DNA コーティングチタンインプラントの骨形成. 平成 29 年度秋期第 70 回日本歯科理工学会学術講演会, 新潟・朱鷺メッセ, 2017 年 10 月 14-15 日.
8. 八木 亮, 廣田正嗣, 遠山岳史, 望月千尋, 佐藤光史, 早川 徹, 大久保力廣. Ca-CO₃-PO₄ 錯体水溶液スプレー法によるアパタイト薄膜コーティングについて. 平成 29 年度秋期第 70 回日本歯科理工学会学術講演会, 新潟・朱鷺メッセ, 2017 年 10 月 14-15 日.
9. 八木 亮, 廣田正嗣, 遠山岳史, 望月千尋, 佐藤光史, 早川 徹, 大久保力廣. Ca 錯体水溶液スプレー法を用いたアパタイト薄膜コーティングインプラントについて. 第 26 回 硬組織再生生物学会学術大会・総会, 岡山大学歯学部, 2017 年 8 月 19 日.
10. 脇 拓也, 廣田正嗣, 早川 徹, 大久保力廣. アミノ酸配位子の異なる Ca-錯体由来 HA ペーストの骨形成の検討. 第 32 回日本歯科産業学会学術講演会, 北海道自治労会館, 2017 年 7 月 8-9 日.
11. 脇 拓也, 櫻井敏継, 望月千尋, 佐藤光史, 早川 徹, 大久保力廣. Ca-アミノ酸錯体由来アパタイトペーストの骨形成に関する研究ーアミノ酸配位子の影響ー. 平成 29 年度春期第 69 回日本歯科理工学会学術講演会, 日本歯科大学, 2017 年 4 月 15-16 日.

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

12. 八木 亮, 鈴木 一, 脇 拓也, 廣田正嗣, 早川 徹, 大久保力廣. 疑似体液中でのアパタイト形成に関する基礎的検討. 平成 29 年度春期第 69 回日本歯科理工学会学術講演会, 日本歯科大学, 2017 年 4 月 15-16 日.
13. 八木 亮, 廣田正嗣, 遠山岳史, 望月千尋, 佐藤光史, 早川 徹, 大久保力廣. Ca-CO₃-PO₄ 三元系錯体水溶液スプレー法により形成されたアパタイト薄膜の性質. 日本バイオマテリアル学会シンポジウム 2016, 福岡国際会議場, 2016 年 11 月 21-22 日.
14. 脇 拓也, 櫻井敏継, 望月千尋, 佐藤光史, 早川 徹, 大久保力廣. Ca-アミノ酸錯体由来アパタイトペーストによる骨形成. 日本バイオマテリアル学会シンポジウム 2016, 福岡国際会議場, 2016 年 11 月 21-22 日.
15. Sakurai T, Yoshinari M, Toyama T, Hayakawa T, Ohkubo C. Bone response to multilayered DNA/protamine coated titanium implants. International Dental Materials Congress 2016, Indonesia, 2016 年 11 月 4-6 日.
16. Waki T, Mochizuki C, Sato M, Hayakawa T, Ohkubo C. Bone response to apatite paste derived from Ca-amino acid complex. International Dental Materials Congress 2016, Indonesia, 2016 年 11 月 4-6 日.
17. Yoshida E, Hayakawa T. Monitoring of protein adsorption and apatite precipitation on titanium and zirconia by QCM method. International Dental Materials Congress 2016, Indonesia, 2016 年 11 月 4-6 日.
18. 櫻井敏継, 早川 徹, 大久保力廣. DNA/プロタミンレイヤー固定化チタンインプラントの骨形成促進効果. 平成 28 年度春期第 67 回日本歯科理工学会学術講演会, 九大医学部百年講堂, 2016 年 4 月 16-17 日.
19. 櫻井敏継, 早川 徹, 大久保力廣. チタンインプラントへの DNA/プロタミンレイヤー固定化による骨形成促進効果. 平成 27 年度 西関東・東関東支部合同学術大会, パシフィコ横浜, 2016 年 1 月 10 日.
20. 櫻井敏継, 早川 徹, 遠山岳史, 吉成正雄, 大久保力廣. DNA/プロタミンレイヤー固定化チタンインプラントの骨形成能. 第 37 回日本バイオマテリアル学会大会, 京都テルサ, 2015 年 11 月 17-18 日.
21. 櫻井敏継, 早川 徹, 遠山岳史, 吉成正雄, 大久保力廣. チタンインプラントへの DNA/プロタミンレイヤー固定化が骨形成促進に与える影響. 第 24 回 硬組織再生生物学会学術大会, 大阪歯科大学創立 100 周年記念館, 2015 年 8 月 22 日.

【朝田/船山】

1. (*7)(*27) Nariyama M, Ohnuki Y, Umeki D, Suita K, Ito A, Yagisawa Y, Ishikawa M, Asada Y, Okumura S: Role of microphthalmia-associated transcription factor on fibrosis and apoptosis in masseter muscle, 第 61 回歯科基礎医学会学術大会 2019 年 10 月 12-13 日、東京歯科大学 (東京都千代田区)
2. (*7)(*27) 成山明具美、奥村 敏、朝田芳信: Mitf 遺伝子変異による咬筋の線維化とアポトーシスの誘導, 第 57 回日本小児歯科学会大会 2019 年 6 月 10-11 日 札幌コンベンションセンター(北海道札幌市)
3. (*7)(*27) Nariyama M, Ohnuki Y, Umeki D, Suita K, Ito A, Kawamura N, Yagisawa Y, Ishikawa M, Asada Y, Okumura S: Role of microphthalmia-associated transcription factor in masseter muscle hypertrophy induced by β 2-adrenoceptor stimulation, 第 60 回歯科基礎医学会学術大会 2018 年 9 月 5-7 日、九州大学病院キャンパス百年講堂(福岡県福岡市)
4. (*27) 成山明具美、大貫芳樹、奥村 敏、朝田芳信: 咬筋における小眼球症関連転写調節因子 (MITF) の生理機能について, 第 55 回日本小児歯科学会、2017 年 5 月 25-26 日、西日本総合展示

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

場新館 AIM (福岡県北九州市)

5. 田島 格、伊平弥生、成山明具美、朝田芳信: 歯胚の消失モデルマウスを用いた基底膜分子の機能的役割について、第 55 回日本小児歯科学会、2017 年 5 月 25-26 日、西日本総合展示場新館 AIM 福岡県北九州市)
6. (*27) Nariyama M, Ohnuki Y, Umeki D, Ito A, Kawamura N, Yagisawa Y, Okumura S, and Asada Y: Role of Microphthamia-Associated Transcription Factor in Masseter Muscle Hypertrophy Induced by β 2-adrenoceptor Stimulation, 第 58 回歯科基礎医学会学術大会、2016 年 8 月 24-26 日、札幌コンベンションセンター(北海道札幌市)
7. (*27) Nariyama M, Ohnuki Y, Umeki D, Ito A, Kawamura N, Okumura S, and Asada Y: Role of Microphthamia-Associated Transcription Factor in Masseter Muscle Hypertrophy Induced by β 2-adrenoceptor Stimulation, PDAA(第 10 回アジア小児歯科学会)、2016 年 5 月 26-28 日、東京ドームホテル(東京都文京区)
8. (*6)(*60) 成山明具美、島崎絵美、安藤 準、大貫芳樹、奥村 敏、朝田芳信: 咬筋と腓腹筋の生後発達過程における miR-1, miR-133a の機能、第 57 回歯科基礎医学会学術大会、2015 年 9 月 11-13 日、朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター(新潟県新潟市)

【二藤】

1. (*29)(*61) 出野 尚、小松浩一郎、中島和久、雨宮俊彦、新井嘉則、江面陽一、二藤 彰「Annexin A5 は entheses の細胞外ピロリン酸と力学的負荷に対する反応の調節により石灰化を制御する」第 42 回日本分子生物学会年会、福岡、2019 年 12 月
2. 出野 尚、小松浩一郎、中島和久、新井嘉則、立花 誠、木村 宏、二藤 彰「G9a は Runx2 の機能を調節してマウス頭蓋の骨形成を制御する」第 42 回日本分子生物学会年会、福岡、2019 年 12 月
3. 出野 尚、小松浩一郎、中島和久、今西康雄、雨宮俊彦、新井嘉則、江面陽一、二藤 彰「Annexin A5 は咬合力誘導性の骨増大、歯根膜拡大ならびにエナメル質咬耗を抑制する」第 37 回日本骨代謝学会学術集会、神戸、2019 年 10 月
4. 中島和久、小松浩一郎、出野 尚、山下照仁、宇田川信之、二藤 彰「タンパク質の過剰発現は破骨細胞前駆細胞の分化・融合を抑制する」第 37 回日本骨代謝学会学術集会、神戸、2019 年 10 月
5. (*29)(*61) Ideno H., Komatsu K., Nakashima K., Arai Y., Ezura Y., Nifuji A. "Anxa5 protects hyper-mineralization at the entheses by differential expression of pyrophosphate regulators." 10th International Conference on Annexin Biology, Münster (Germany)、2019 年 9 月
6. (*29)(*61) 出野 尚、小松 浩一郎、中島 和久、新井 嘉則、江面 陽一、二藤 彰「Annexin A5 は phosphate/pyrophosphate 制御分子の遺伝子発現調節を介し、細胞外 phosphate/pyrophosphate のレベルを制御する」第 13 回 ALPS 研究会、石川、2019 年 7 月
7. (*29)(*61) 出野 尚、新井嘉則、和田悟史、中島和久、小松浩一郎、山下照仁、江面陽一、二藤 彰「Annexin A5 による力学的負荷を介した腱・靱帯付着部(enthesis)石灰化の制御」第 4 回日本アネキシン研究会、東京、2018 年 12 月
8. 陳 文、内田萌菜、米澤智洋、小松浩一郎、中島和久、出野 尚、二藤 彰、汾陽光盛「アネキシン A5 欠損マウスに認められる行動の変化に関するパイロットスタディ」第 4 回日本アネキシン研究会、東京、2018 年 12 月
9. 中島和久、小松浩一郎、出野 尚、山下照仁、宇田川信之、二藤 彰「タンパク質の過剰発現は破骨細胞前駆細胞の融合を抑制する」第 41 回日本分子生物学会年会、横浜、2018 年 11 月
10. 出野 尚、小松浩一郎、中島和久、新井嘉則、立花 誠、木村 宏、二藤 彰「ヒストンメチル化酵素 G9a による骨芽細胞分化における Runx2 の転写活性化能の制御」第 41 回日本分子生物学会年会、

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

横浜、2018 年 11 月

11. (*29)(*61) Ideno H., Arai Y., Komatsu K., Nakashima K., Wada S., Yamashita T., Ernst Pöschl., Bent Brachvogel., Ezura Y., Nifuji A. “Annexin A5 prevents force-mediated bone ridge overgrowth at the enthesis.” 第 40 回米国骨代謝学会 (ASBMR)、モントリオール(カナダ)、2018 年 09 月
12. 小松浩一郎、出野 尚、中島和久、山下照仁、宇田川信之、二藤 彰「ヒストンメチル化酵素 G9a の破骨細胞分化制御への関与」第 59 回歯科基礎医学会学術大会、福岡、2018 年 9 月
13. 小松浩一郎、出野 尚、中島和久、山下照仁、宇田川信之、立花 誠、二藤 彰「ヒストンメチル化酵素 G9a は破骨細胞分化を負に制御する」第 36 回日本骨代謝学会学術集会、長崎、2018 年 07 月
14. (*29)(*61) Ideno H., Komatsu K., Nakashima K., Arai Y., Ezura Y., Nifuji A. “Anxa5 suppresses excessive enthesis calcification induced by mechanical loading, possibly through regulating extracellular pyrophosphate.” 第 36 回日本骨代謝学会学術集会、長崎、2018 年 07 月
15. (*29)(*61) Shimada A., Arai Y., Komatsu K., Wada S., Ideno H., Nakashima K., Yamashita T., Ezura Y., Amizuka N., Poumlschl E., Brachvogel B., Nakamura Y., Nifuji A. “Annexin A5 prevents force-mediated bone ridge overgrowth at the enthesis.” Spring Harbor Lab meeting, Annexins: 9th International Conference on the Annexins、コールドスプリングハーバー(米国)、2017 年 9 月
16. (*29)(*61) 島田明美、新井嘉則、小松浩一郎、和田悟史、出野 尚、中島和久、山下照仁、江面陽一、網塚憲生、中村芳樹、二藤 彰「腱・靱帯付着部(enthesis)において Annexin a5 は線維軟骨の分化を負に制御する」第 35 回日本骨代謝学会学術集会、福岡、2017 年 7 月
17. 出野 尚、上運天太一、島田明美、寺島達夫、中島和久、友岡康弘、中村芳樹、木村 宏、立花 誠、二藤 彰「ヒストンメチル化酵素 G9a はマウス歯胚の増殖と分化を制御する」第 35 回日本骨代謝学会学術集会、福岡、2017 年 7 月
18. Ideno H., Kamiunten T., Shimada A., Terashima T., Nakashima K., Tomooka Y., Nakamura Y., Kimura H., Tachibana M., Nifuji A. “H3K9MTase G9a regulates tooth development in mice”、ASBMR 2017 annual meeting、デンバー(米国)、2017 年 9 月
19. Komatsu K., Ideno H., Shimada A., Nakashima K., Yamashita T., Udagawa N., Nifuji A. “A role of a histone methyltransferase G9a in regulation of osteoclast differentiation”第 59 回歯科基礎医学会学術大会、松本、2017 年 9 月
20. (*29)(*61) 島田明美、新井嘉則、和田悟史、出野 尚、中島和久、小松浩一郎、山下照仁、江面陽一、中村芳樹、二藤 彰「Annexin a5 による腱・靱帯付着部(enthesis)における骨の増大」第 2 回アネキシン研究会、札幌、2016 年 11 月
21. (*28) 和田悟史、出野 尚、島田明美、上運天 太一、中村芳樹、中島和久、木村 宏、眞貝洋一、立花 誠、二藤 彰「腱組織形成におけるヒストンメチル化酵素 G9a の機能」第 39 回日本分子生物学会年会、横浜、2016 年 11 月
22. (*28) 和田悟史、出野 尚、島田明美、上運天太一、中村芳樹、中島和久、木村 宏、眞貝洋一、立花 誠、二藤 彰「ヒストンメチル化酵素 G9a は腱組織の正常な発生に必要である」第 58 回歯科基礎医学会学術大会、札幌、2016 年 8 月
23. (*29)(*61) 島田明美、新井嘉則、和田悟史、出野 尚、中島和久、小松浩一郎、山下照仁、江面陽一、網塚憲生、中村芳樹、二藤 彰「Annexin a5 による腱・靱帯付着部(enthesis)における線維軟骨層の石灰化の制御」第 34 回日本骨代謝学会学術集会、大阪、2016 年 7 月
24. (*28) 和田悟史、出野 尚、島田明美、上運天太一、中村芳樹、中島和久、木村 宏、眞貝洋一、立花 誠、二藤 彰「ヒストンメチル化酵素 G9a 遺伝子欠損による腱の形成阻害」第 38 回日本分子生物学会、神戸、2015 年 12 月

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

25. (*28) Wada S., Ideno H., Shimada H., Kamiunten T., Nakamura Y., Nakashima K., Kimura H., Tachibana M., Nifuji A. “Histone 3 lysine 9 methyltransferase G9a is essential for the growth and differentiation of tenocytes.” ASBMR 2015 annual meeting、シアトル(米国)、2015 年 10 月
26. (*29)(*61) Shimada A., Arai Y., Wada S., Ideno H., Kamiunten T., Nakashima K., Komatsu K., Yamashita T., Ezura Y., Amizuka N., Poumlschl E., Brachvogel B., Nakamura Y., Nifuji A. “Annexin A5 inhibits bony outgrowth at tendon/ligament insertion sites.” ASBMR 2015 annual meeting、シアトル(米国)、2015 年 10 月
27. (*28) 和田悟史、出野 尚、島田明美、上運天太一、中村芳樹、中島和久、木村 宏、立花 誠、二藤 彰「ヒストンメチル化酵素 G9a は腱細胞の増殖および分化に必須である」第 33 回日本骨代謝学会学術集会、東京、2015 年 7 月
28. (*29)(*61) 島田明美、新井嘉則、和田悟史、出野 尚、上運天太一、中島和久、小松浩一郎、山下照仁、江面陽一、網塚憲生、中村芳樹、二藤 彰「Annexin a5 による腱・靱帯付着部(enthesis)における骨形成の調節」第 33 回日本骨代謝学会学術集会、東京、2015 年 7 月

【小川】

1. (*33) Ito T, Shigemoto S, Ikawa T, Ando E, Shigeta Y, Ogawa T. Visualization of static and dynamic occlusal contact. 4th Meeting of the International Association for Dental Research Asia Pacific Region. Brisbane Convention and Exhibition Centre (Queensland, Australia) 2019 年 11 月 28-30 日
2. (*32) 井川知子, 伊藤光彦, 伊藤崇弘, 木原琢也, 平井健太郎, 平井真也, 重田優子, 重本修伺, 小川 匠. 顎運動機能情報を活用する次世代 CAD/CAM システムの開発ー各種印象材のスキャン精度への影響ー. 日本顎口腔機能学会第 63 回学術大会 昭和大学旗の台キャンパス(東京) 2019 年 10 月 26-27 日
3. (*32) Ito M, Ikawa T, Park J, Ito T, Kihara T, Shigemoto S, Ogawa T. Reproducibility of scanned 5 silicone impressions via a laboratory scanner. The 5th Annual Meeting of the International Academy for Digital Dental Medicine, The 10th Annual Meeting of the Japan Academy of Digital Dentistry. Kasugano International Forum IRAKA (Nara) October 4-6, 2019
4. (*32) Kihara T, Ikawa T, Shigeta Y, Shigemoto S, Ito T, Hirai S, Harada N, Kawamura N, Ogawa T. Fabrication of muco-compressive splint via VR simulation technique in patients with mandibular reconstruction. The 5th Annual Meeting of the International Academy for Digital Dental Medicine, The 10th Annual Meeting of the Japan Academy of Digital Dentistry. Kasugano International Forum IRAKA (Nara) October 4-6, 2019.
5. (*31)(*62) Shigemoto S, Ito T, Ito M, Kihara T, Ikawa T, Park J, Ando E, Shigeta Y, Ogawa T. New concept of rotation axis for analyzing mandibular movements. 18th Biennial Meeting of the ICP Meeting Jointly with the European Prosthodontic Association (EPA). The Amsterdam Conference Centre Beurs van Berlage (Amsterdam, The Netherlands). September 4-7, 2019.
6. (*24) Ikawa T, Ito M, Park J, Ito T, Kihara T, Ando E, Shigeta Y, Shigemoto S, Ogawa T. Reproducibility of scanned 4 silicone impressions via a laboratory scanner. 18th Biennial Meeting of the ICP Meeting Jointly with the European Prosthodontic Association (EPA). The Amsterdam Conference Centre Beurs van Berlage (Amsterdam, The Netherlands). September 4-7, 2019.
7. (*33) 重本修伺, 伊藤崇弘, 平井真也, 平林里大, 井川知子, 重田優子, 小川 匠. 咬合関係を変化させることで顎運動に変化を生じた症例. 第 32 回一般社団法人日本顎関節学会学術大会 学術総合センター・一橋講堂(東京), 2019 年 7 月 27-28 日

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

8. (*32) 平井真也, 井川知子, 木原琢也, 伊藤崇弘, 平林里大, 重田優子, 重本修伺, 小川 匠. 変形性関節症における三次元的形態解析. 第 32 回一般社団法人日本顎関節学会学術大会 学術総合センター・一橋講堂(東京)2019 年 7 月 27-28 日
9. (*33) 伊藤崇弘, 重本修伺, 伊藤光彦, 木原琢也, 井川知子, 重田優子, 小川 匠. CT 画像と顎運動情報を用いた VR 咬合器の開発. 第 38 回日本医用画像工学会大会 奈良春日野国際フォーラム 薨〜I・RA・KA〜(奈良), 2019 年 7 月 24-26 日
10. 重田優子, 安藤栄里子, 井川知子, 木原琢也, 伊藤崇弘, 重本修伺, 小川 匠. 近赤外線を用いた舌脂肪の評価. 日本顎口腔機能学会第 62 回学術大会 愛知学院大学(愛知), 2019 年 4 月 13-14 日
11. (*32) 伊藤光彦, パク・ジユン, 井川知子, 伊藤崇弘, 平井健太郎, 木原琢也, 重本修伺, 小川 匠. 各種 3D スキャナーによる支台歯の形態再現性に関する検討. 第 8 回補綴若手研究会 国民宿舎レインボー桜島(鹿児島) 2019 年 3 月 10 日
12. 佐々木圭太, 積田光由, 木原琢也, 林 邦彦, 井川知子, 重田優子, 小久保裕伺, 小川 匠. ファイバー強化型コンポジットレジブリッジの破折強度に関する研究. 平成 30 年度公益社団法人日本補綴歯科学会東関東・西関東支部合同学術大会 京成ホテルミラマーレ(千葉) 2018 年 11 月 11 日
13. (*62) 木原琢也, 井川知子, 重田優子, 重本修伺, 小川 匠. 患者の個別情報を用いた有限要素解析の歯科臨床への応用. 第 27 回日本コンピュータ外科学会大会, 奈良県文化会館(奈良)2018 年 11 月 11 日
14. (*33) 小川 匠. デジタル技術を用いた 審美補綴の実例 ―咬合機能と形態の融合―. 日本歯科審美学会第 29 回学術大会 アドバンスドセミナー(補綴). ウェスタ川越(埼玉) 2018 年 9 月 30 日
15. (*62) 伊藤崇弘, 重本修伺, 伊藤光彦, 木原琢也, 井川知子, 平林里大, 重田優子, 平井真也, 小川 匠. 異常者における運動論的基準軸の検討. 日本顎口腔機能学会 第 61 回学術大会. 日本歯科大学歯学部九段ホール(東京) 2018 年 9 月 29-30 日
16. 木村紗央里, 伊原啓祐, 野平勇人, 井川知子, 英 將生, 小川 匠, 山本雄嗣. レジセメントの吸水によってセラミック修復物の表面亀裂は伸展する. 第 37 回日本接着歯学会学術大会 日本歯科大学新潟生命歯学部講堂・アイヴィホール(東京) 2018 年 11 月 10-11 日
17. (*32) 木原琢也, 井川知子, 伊藤光彦, 伊藤崇弘, 重本修伺, 重田優子, 小川 匠. 変形性関節症における咬合器の選択基準に関する検討 ―顎顔面頭蓋の形態的特徴―. 一般社団法人日本歯科技工学会第 40 回学術大会タワーホール船堀(東京), 2018 年 9 月 22-23 日
18. (*32) 井川知子, 大竹義人, 横田 太, 森口和也, 伊藤光彦, 伊藤崇弘, 木原琢也, 平井真也, 重田優子, 重本修伺, 佐藤嘉信, 小川 匠. CAD/CAM システムに応用可能な統計形状モデルの構築 第一大臼歯形状の推定. 日本補綴歯科学会第 127 回学術大会 岡山コンベンションセンター(岡山) 2018 年 6 月 17 日
19. (*32) 伊藤光彦, 井川知子, 伊藤崇弘, 平井健太郎, 木原琢也, 重田優子, 重本修伺, 小川 匠. 各種スキャナを用いてマージン形態の再現性の検討. 日本補綴歯科学会第 127 回学術大会 岡山コンベンションセンター(岡山) 2018 年 6 月 17 日
20. 木原琢也, 井川知子, 伊原啓祐, 佐々木圭太, 田地 豪, 平井健太郎, 伊藤光彦, 伊藤崇弘, 重田優子, 重本修伺, 二川浩樹, 小川 匠. 易摩耗性スプリントと歯冠修復に用いる材料の耐摩耗性. 日本補綴歯科学会第 127 回学術大会 岡山コンベンションセンター(岡山) 2018 年 6 月 17 日
21. (*32) 平井真也, 木原琢也, 井川知子, 伊藤光彦, 伊藤崇弘, 重田優子, 重本修伺, 小川 匠. 変形性関節症における形態的特徴の検討―咬合器の選択に関する一考察―. 日本顎口腔機能学会第 60 回学術大会 鶴見大学会館(神奈川) 2018 年 4 月 21-22 日

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

22. (*62) 重本修伺, 伊藤崇弘, 伊藤光彦, 木原琢也, 井川知子, 平林里大, 重田優子, 森山 毅, 坂東永一, 松香芳三, 小川 匠. 顎運動機能情報を活用する次世代歯科用 CAD/CAM システムの構築 ―顎運動測定器の開発と応用―. 日本顎口腔機能学会第 60 回学術大会 鶴見大学会館 (神奈川) 2018 年 4 月 21-22 日
23. (*32) 伊藤光彦, 井川知子, 伊藤崇弘, 木原琢也, 平井健太郎, 重田優子, 重本修伺, 小川 匠. 各種スキャナにおける測定能および三次元画像構築の特性について. 一般社団法人日本デジタル歯科学会学術大会第 9 回学術大会 アイーナいわて県民情報交流センター(岩手) 2018 年 4 月 14-15 日
24. 木原琢也, 井川知子, 伊原啓祐, 佐々木圭太, 平井健太郎, 伊藤光彦, 伊藤崇弘, 重本修伺, 重田優子, 小川 匠. 易摩耗性スプリントにおける耐摩耗性の検討―暫間修復用レジンとの比較―. 一般社団法人日本デジタル歯科学会学術大会第 9 回学術大会 アイーナいわて県民情報交流センター(岩手) 2018 年 4 月 14-15 日
25. (*31) 伊藤崇弘, 重本修伺, 平井真也, 伊藤光彦, 平井健太郎, 木原琢也, 佐々木圭太, 井川知子, 小川 匠. 顎運動情報を用いた下顎位の妥当性と顎機能の評価. 第 7 回補綴若手研究会 かずさアカデミアパーク(千葉) 2018 年 3 月 10 日
26. 林 邦彦, 井川知子, 伊藤崇弘, 伊藤光彦, 佐々木圭太, 積田光由, 重本修伺, 小川 匠. CAD/CAM 技術を用いたグラスファイバー強化型コンポジットレジブリッジの臨床的検討. 平成 29 年度日本補綴歯科学会西関東支部学術大会, 神奈川歯科大学附属新病院 12 階(神奈川). 2018 年 1 月 14 日
27. (*35) 木原琢也, 井川知子, 重本修伺, 重田優子, 伊藤光彦, 伊藤崇弘, 二川浩樹, 小川 匠. 食塊粒度解析による咀嚼能力の定量的評価. 日本歯科人間ドック学会第 20 回学術大会 鶴見大学会館地下 1 階メインホール(神奈川) 2017 年 12 月 10 日
28. (*32) 伊藤光彦, 井川知子, 伊藤崇弘, 木原琢也, 平井健太郎, 重田優子, 重本修伺, 小川 匠. 各種スキャナーにおける測定能の検証. 日本顎口腔機能学会第 59 回学術大会 長崎大学医学部良順会館(長崎) 2017 年 11 月 26 日
29. (*31) 伊藤崇弘, 重本修伺, 平井真也, 平林里大, 井川知子, 重田優子, 小川 匠. 咬合挙上により顎運動機能の改善を認めた症例. 第 30 回 一般社団法人日本顎関節学会総会・学術大会 ワークピア横浜(神奈川) 2017 年 7 月 30 日
30. 平井健太郎, 井川知子, 重田優子, 小川 匠. 易摩耗性スプリントを用いた摩耗の定量的評価法の開発. 日本顎口腔機能学会第 58 回学術大会 徳島大学藤井節郎記念医科学センター(徳島) 2017 年 4 月 16 日
31. 平井健太郎, 伊藤光彦, 木原琢也, 井川知子, 重田優子, 重本修伺, 安藤栄里子, 平林里大, 平井真也, 小久保裕司, 河村 昇, 小川 匠. 口腔内スプリントを用いた咬耗の定量的評価法. 平成 28 年度日本補綴歯科学会西関東支部学術大会 横浜県歯科医師会館(神奈川) 2017 年 1 月 22 日
32. (*32) 重本修伺, 平井真也, 井川知子, 田島登誉子, 松香芳三, 小川 匠. 下顎運動軸の 3 次元的评价的検討. 第 23 回日本歯科医学会総会 福岡サンパレス(福岡) 2016 年 10 月 22 日~23 日
33. 伊藤光彦, 井川知子, 平井健太郎, 木原琢也, 重本修伺, 伊藤崇弘, 二川浩樹, 小川 匠. 各種 3D スキャナーを用いた歯列モデルの計測 ―顎間距離の検討―. 日本顎口腔機能学会第 57 回学術大会 東北大学星陵オーデトリウム(宮城) 2016 年 10 月 2 日
34. (*32) 伊藤崇弘, 重本修伺, 井川知子, 伊藤光彦, 小川 匠, 松香芳三. 下顎運動情報を用いた運動論的基準軸の空間的特徴の検討. 日本顎口腔機能学会第 57 回学術大会 東北大学星陵オ

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

ーデイトリアム(宮城) 2016 年 10 月 1 日

35. 小川 匠. インプラント補綴におけるオールセラミック修復の是非 オールセラミック修復における咬合治療について. 第 46 回公益社団法人日本口腔インプラント学会学術大会 名古屋国際会議場(愛知) 2016 年 9 月 17 日
36. (*62) 平林里大, 平井真也, 重本修伺, 井川知子, 安藤栄里子, 重田優子, 小川 匠. 矢状面内限界運動と習慣性閉口運動を利用した咬合高径の評価. 第 29 回 一般社団法人日本顎関節学会総会・学術大会 湯本富士屋ホテル(神奈川) 2016 年 7 月 28 日
37. 西浦里英, 安藤栄里子, 平井健太郎, 井川知子, 平井真也, 重田優子, 小川 匠. 臼歯部開咬症例に対する VR シミュレーションの応用. 日本補綴歯科学会 125 回学術大会石川県立音楽堂(石川) 2016 年 7 月 9 日
38. (*32) 伊藤光彦, 井川知子, 平井健太郎, 木原琢也, 田地 豪, 二川浩樹, 小川 匠. 各種スキャナーを用いた計測用石膏模型の計測. 日本デジタル歯科学会第 7 回学術大会 北海道立道民活動センター(北海道) 2016 年 5 月 28 日
39. (*32) 佐々木圭太, 井川知子, 積田光由, 伊藤光彦, 平井健太郎, 重田優子, 小川 匠. 3 次元印象スキャンによる築造体製作についての検討. 平成 27 年度日本補綴歯科学会西関東・東関東合同学術大会 パシフィコ横浜アネックスホール(神奈川) 2016 年 1 月 10 日
40. (*32) 平井健太郎, 伊藤光彦, 木原琢也, 井川知子, 重田優子, 安藤栄里子, 平林里大, 平井真也, 小久保裕司, 河村 昇, 小川 匠. デジタル情報を用いた咬合の再現-口腔内スキャナーと模型スキャナーの精度について-. 平成 27 年度日本補綴歯科学会西関東・東関東合同学術大会 パシフィコ横浜アネックスホール(神奈川) 2016 年 1 月 10 日
41. 佐々木圭太, 井川知子, 平井健太郎, 重田優子, 伊原啓祐, 河村 昇, 小川 匠. グラスファイバー強化型レジンに対する接着性レジンセメントのせん断接着強さ. 第 34 回日本接着歯学会学術大会 タワーホール船堀(東京) 2015 年 12 月 19 日
42. 藤井俊朗, 伊原啓祐, 井川知子, 平井健太郎, 伊藤光彦, 河村 昇, 小川 匠. 審美情報に基づいた咬合再構成症例. 第 26 回日本歯科審美学会学術大会 東京歯科大学 水道橋校舎新館(東京)2015 年 11 月 23 日
43. 平井健太郎, 伊藤光彦, 井川知子, 藤井俊朗, 伊原啓祐, 河村 昇, 小川 匠. デジタル情報を用いたスプリント咬合量の測定に関する検討. 第 26 回日本歯科審美学会学術大会 東京歯科大学 水道橋校舎新館(東京) 2015 年 11 月 23 日
44. (*31) 平井 真也, 井川知子, 平林 里大, 安藤栄里子, 重田優子, 重本修伺, 小川 匠, 松香芳三. 顎機能異常者における運動論的基準軸の検討. 第 28 回一般社団法人日本顎関節学会, 名古屋国際会議場.(愛知県)2015 年 7 月 4 日-5 日

【濱田】

1. 濱田 良樹, 中岡 一敏, 齋藤 知之, 小笠原 邦茂, 熊谷 賢一, 重松 宏昭, 宮田 幸長, 江口 貴紀, 馬杉 亮彦 難治性の変形性顎関節症に対する顎関節開放形成術 機能関節面の骨棘除去術、第 32 回日本顎関節学会総会・学術大会、2019 年 7 月、東京
2. 重松 宏昭, 江口 貴紀, 馬杉 亮彦, 宮田 幸長, 熊谷 賢一, 中岡 一敏, 濱田 良樹 顎関節後方部に生じたガングリオンの 1 例、第 32 回日本顎関節学会総会・学術大会、2019 年 7 月、東京
3. (*37)(*51) 重松 宏昭, 中岡 一敏, 新井 千博, 山田 秀典, 石塚 忠利, 平田 朋子, 濱田 良樹 閉塞性睡眠時無呼吸症候群を伴う両側口唇口蓋裂患者に対して上下顎前方移動術を施行した 1 例、第 29 回日本顎変形症学会総会・学術大会、2019 年 6 月、東京
4. (*37)(*51) 平田 朋子, 重松 宏昭, 中岡 一敏, 園山 智生, 山田 秀典, 石塚 忠利, 新井 千博,

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

- 及川 崇, 関谷 利子, 中村 芳樹, 濱田 良樹, 鶴見大学歯学部附属病院口腔外科・顎顔面外科における 15 年間の顎矯正手術の臨床的検討、第 28 回日本顎変形症学会総会・学術大会、2018 年 6 月、大阪
5. (*37)(*51)(*54) 雨宮剛志, 山田秀典, 重松宏昭, 長谷部充彦, 吉澤泰昌, 中岡一敏, 濱田良樹 腺性歯原性嚢胞術後の骨欠損に対しインプラント治療を行った 1 症例、日本口腔インプラント学会第 37 回関東・甲信越支部学術大会、2018 年 2 月、横浜
 6. 角田直子, 大橋祐生, 小野寺 慧, 宮本郁也, 武田泰典, 山田浩之, 濱田良樹 多臓器に遠隔転移した頬粘膜扁平上皮癌の 1 例 第 36 回 日本口腔腫瘍学会総会・学術大会、2018 年 1 月、新潟
 7. 長谷部 充彦, 中岡 一敏, 熊谷 賢一, 山田 秀典, 吉澤 泰昌, 園山 智生, 濱田 良樹 インプラント周囲炎に継発した下顎骨骨髓炎と外歯瘻の 1 例 第 21 回顎顔面インプラント学会 総会・学術大会、2017 年 12 月、富山
 8. 重松 宏昭, 長谷部 充彦, 熊谷 賢一, 濱田 良樹 BP 製剤服用患者に生じたインプラント周囲炎に起因した外歯瘻の 1 例 鶴見歯学会例会 2017 年 7 月、横浜
 9. 荒井 俊明, 園山 智生, 荒 博範, 重松 宏昭, 平田 朋子, 中岡 一敏, 濱田 良樹 当初は口蓋腫瘍を疑った乳幼児の口腔内異物の 1 例 第 29 回小児口腔外科学会総会・学術大会、2017 年 11 月、新潟
 10. 松原 陵太, 熊谷 賢一, 重松 宏昭, 仲宗根 康成, 江口 貴紀, 鈴木 隆二, 濱田 良樹 パラジウムアレルギーモデルマウスにおけるフェキソフェナジンの免疫応答抑制効果について第 71 回日本口腔科学会学術大会、2017 年 4 月、愛媛
 11. 熊谷 賢一, 松原 陵太, 重松 宏昭, 仲宗根 康成, 鈴木 隆二, 濱田 良樹 チタンアレルギー発症に関与する T 細胞の解明について第 71 回日本口腔科学会学術大会、2017 年 4 月、愛媛
 12. 佐藤 光一郎, 中岡 一敏, 木村 裕香, 熊谷 賢一, 濱田 良樹 口腔、喉頭病変を併発した形質細胞粘膜炎の 1 例第 71 回日本口腔科学会学術大会、2017 年 4 月、愛媛
 13. 熊谷 賢一, 中岡 一敏, 斉藤 知之, 仲宗根 康成, 中村 芳樹, 濱田 良樹 二次性開咬に対する顎矯正手術を施行したリウマチ性顎関節炎の長期経過観察例第 30 回日本顎関節学会総会・学術大会 2017 年 7 月、横浜
 14. 濱田 良樹 特発性下顎頭吸収を含む開咬の診断と治療 下顎頭吸収による骨格性 II 級症例に対する顎矯正手術第 30 回日本顎関節学会総会・学術大会 2017 年 7 月、横
 15. (*37)(*51) 重松 宏昭, 中岡 一敏, 園山 智生, 君塚 幸子, 小笠原 邦茂, 山田 秀典, 秋谷 勇介, 仲宗根 康成, 山田 浩之, 濱田 良樹 顎矯正手術が及ぼす精神的影響に関する客観的評価の試み第 27 回日本顎変形症学会総会・学術大会、2017 年 6 月、東京
 16. 藤澤 靖子, 赤池 駿, 関谷 利子, 城所 明光, 中岡 一敏, 濱田 良樹, 中村 芳樹 両側下顎枝矢状分割法を適用した下顎側方偏位を伴う骨格性下顎前突患者の治療前後のスマイル時口唇の三次元的変化第 27 回日本顎変形症学会総会・学術大会 2017 年 6 月、東京
 17. 関谷 利子, 及川 崇, 藤澤 靖子, 青山 依儒, 藤江 仁厚, 中岡 一敏, 濱田 良樹, 中村 芳樹 顔面非対称症例の矯正治療について 外科的矯正治療とカムフラージュ治療の比較第 27 回日本顎変形症学会総会・学術大会 2017 年 6 月、東京
 18. 青山 依儒, 及川 崇, 中村 浩昭, 藤澤 靖子, 園山 智生, 中岡 一敏, 関谷 利子, 濱田 良樹, 中村 芳樹 骨格パターンの異なる顔面非対称を伴う顎変形症患者の外科的矯正治療による口唇変化の比較第 27 回日本顎変形症学会総会・学術大会 2017 年 6 月、東京
 19. (*37)(*51)(*54) 井川 知子, 重田 優子, 平井 真也, 小川 匠, 中岡 一敏, 濱田 良樹, 原田 直彦, 河村 昇 チーム医療による顎骨欠損症例の顎骨再建と咬合再建 鶴見歯学、2017.01

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

20. (*37)(*51)(*54) 山田 秀典, 中岡 一敏, 熊谷 賢一, 君塚 幸子, 川口 浩司, 濱田 良樹 脛骨PCBMとチタンメッシュトレーによる再建下顎骨にインプラント治療を行った1例 第20回日本顎顔面インプラント学会 総会・学術大会、2016年12月、東京
21. (*37)(*51)(*54) Kazutoshi Nakaoka, Hiroyuki Yamada, Kunishige Ogasawara, Naoki Saida, Koji Kawaguchi, Tomoko Ikawa, Takumi Ogawa, Yoshiki Hamada Dental implant treatment for the reconstructed mandible using a custom-made titanium mesh tray and PCBM: 4-Case Report AAMOS 98th Annual Meeting, Scientific Sessions and Exhibition September, 2016. Las Vegas
22. Koji Kawaguchi, Kazutoshi Nakaoka, Yuta Kishi, Kunishige Ogasawara, Naoki Saida, Yoshiki Hamada Efficacy and safety of stereotactic radiosurgery in advanced and/or recurrent head and neck cancer: Over 5-year Follow-up AAMOS 98th Annual Meeting, Scientific Sessions and Exhibition, September, 2016. Las Vegas
23. 佐藤光一郎、中岡一敏、荒井俊明、熊谷賢一、長谷部充彦、馬杉亮彦、園山智生、濱田良樹 顎変形症術後のヒロサームによる冷電法の抗炎症効果とサイトカインバランスの改善 第61回日本口腔外科学会総会・学術大会 2016年11月、千葉
24. (*37)(*51)(*54) 八木 正聡, 中岡 一敏, 重松 宏昭, 斎田 尚貴, 濱田 良樹 11歳女児に発生した下顎骨骨形成線維腫に対して区域切除と即時再建を施行した長期経過観察例 第28回日本小児口腔外科学会 総会・学術大会、2016年10月、広島
25. 杉 亮彦, 熊谷 賢一, 仲宗根 康成, 和気 昌弘, 江口 貴紀, 濱田 良樹 下顎頭に発生した滑液包炎の1例 第29回日本顎関節学会総会・学術大会、2016年7月、箱根
26. 岸 悠太(鶴見大学 歯学部口腔顎顔面外科学講座), 中岡 一敏, 中島 敏文, 八木 正聡, 熊谷 賢一, 仲宗根 康成, 濱田 良樹 下顎骨関節突起骨折の観血的整復固定術における High perimandibular approach の有用性について 第29回日本顎関節学会総会・学術大会、2016年7月、箱根
27. 及川 崇, 熊谷 賢一, 藤澤 靖子, 青山 依儒, 中岡 一敏, 関谷 利子, 濱田 良樹, 中村 芳樹 若年性突発性関節炎による下顎頭吸収を伴う骨格性開咬患者に対して外科矯正を施行した1症例 第26回日本顎変形症学会総会・学術大会 2016年6月、東京
28. 藤澤 靖子, 関谷 利子, 青山 依儒, 城所 明光, 及川 崇, 常盤 肇, 中岡 一敏, 濱田 良樹, 中村 芳樹 外科矯正治療前後の口唇非対称の三次元的評価 第26回日本顎変形症学会総会・学術大会 2016年6月、東京
29. 木村裕香、中岡一敏、長谷部充彦、雨宮剛志、熊谷賢一、堀江彰久、濱田良樹 下唇に生じた紡錘細胞癌の1例 第201回日本口腔外科学会関東・甲信越支部学術集会 2016年5月、群馬
30. 熊谷 賢一, 松原 陵太, 重松 宏昭, 仲宗根 康成, 江口 貴紀, 鈴木 隆二, 濱田 良樹 チタンアレルギーモデルマウスの作製と遅延型アレルギー免疫応答の解明について 第70回日本口腔科学会学術集会 2016年4月、福岡
31. 宮嶋 千秋, 馬杉 亮彦, 堀内 俊克, 中岡 一敏, 川口 浩司, 濱田 良樹 下顎枝矢状分割術を施行した血小板放出機構異常症の1例 第24回有病者歯科医療学会総会・学術集会 2015年3月、旭川
32. 大中恵里子, 園山智生, 山田浩之, 中岡一敏, 佐藤光一郎, 田中延幸, 濱田良樹 右側頬粘膜に生じた器質化血栓の1例, 第60回(公社)日本口腔外科学会総会・学術大会, 2015年10月、名古屋
33. 中岡 雅典, 君塚 幸子, 堀内 俊克, 熊谷 賢一, 山田 浩之, 濱田 良樹 上顎正中埋伏過剰歯の抜去において梨状口縁の骨切りを併用した3例 第81回鶴見大学歯学会例会、2015年6月、横

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

浜

34. 熊谷 賢一, 重松 宏昭, 松原 陵太, 江口 貴紀, 小林 浩, 鈴木 隆二, 濱田 良樹 金属アレルギー生体反応における NK T 細胞の関与について 第 69 回日本口腔科学会学術集会、2015 年 5 月、大阪
35. 福岡 愛理, 中岡 一敏, 山田 浩之, 川口 浩司, 濱田 良樹 口腔領域血管腫に対する Nd:YAG レーザーによる組織内照射の有用性 第 69 回日本口腔科学会学術集会、2015 年 5 月、大阪
36. エナメル上皮線維歯牙腫の 2 例 重松 宏昭, 園山 智生, 君塚 幸子, 濱田 良樹 第 27 回小児口腔外科学会総会・学術大会、2015 年 11 月、宮崎
37. 濱田 良樹 顎関節症 インタラクティブコース(パート 2) 顎関節症に対する治療の流れ 第 28 回 日本顎関節学会総会・学術大会、2015 年 7 月 名古屋
38. 和気 昌弘, 熊谷 賢一, 中岡 一敏, 仲宗根 康成, 濱田 良樹 顎関節症の既往を有する 2 次性開咬患者における血清中骨代謝マーカーの解析第 28 回 日本顎関節学会総会・学術大会、2015 年 7 月 名古屋
39. 濱田 良樹 下顎頭吸収による 2 次性開咬(骨格性Ⅱ級)症例に対する外科的アプローチ 第 25 回日本顎変形症学会総会・学術大会、2015 年 6 月、東京
40. 松林 幸枝, 須佐美 隆史, 大久保 和美, 井口 隆人, 岡安 麻里, 内野 夏子, 高橋 直子, 上床喜和子, 安部 貴大, 阿部 雅修, 濱田 良樹, 中岡 一敏, 森 良之, 高戸 毅 顎関節強直症による小下顎症の 1 例 第 25 回日本顎変形症学会総会・学術大会、2015 年 6 月、東京
41. 青山 依儒, 及川 崇, 藤澤 靖子, 馬杉 亮彦, 園山 智生, 中岡 一敏, 関谷 利子, 濱田 良樹, 中村 芳樹 上下顎同時移動術を行った顔面非対称を伴う顎変形症患者における上下口唇の対称性の評価 第 25 回 日本顎変形症学会総会・学術大、2015 年 6 月、東京
42. 深代祐五、中岡一敏、石井宏昭、笠原英生、濱田良樹 外傷性顎関節強直症に顎関節開放授動術を適用した女兒の 1 例 第 199 回日本口腔外科学会関東・甲信越支部学術集会、2015 年 5 月、横浜
43. 福岡 愛理, 中岡 一敏, 山田 浩之, 川口 浩司, 濱田 良樹 Nd:YAG レーザーによる組織内照射を行った口腔領域血管腫 5 例の臨床的検討, 第 69 回日本口腔科学会学術集会、2015 年 5 月、大阪
44. 宮嶋千秋、馬杉亮彦、堀内俊克、中岡一敏、川口浩司、濱田良樹 下顎枝矢状分割術を施行した血小板放出機構異常症の 1 例 第 24 回日本有病者歯科医療学会総会・学術大会、2015 年 3 月、旭川

【大島】

1. (*40) Analysis of oral microbiota in Japanese oral cancer patients using 16S rRNA sequencing. Park, J., Takahashi, Y., Hosomi, K., Yamada, T., Kobayashi, A., Yamaguchi, Y., Iketani, S., Kunisawa, J., Mizuguchi, K., Maeda, N. & Ohshima, T. (2019. 10., 第 61 回歯科基礎医学会学術大会、アップデートシンポジウム、東京都)
2. (*43) Inhibitory effect of Lactobacilli culture supernatant on *Candida albicans*. Kojima, Y., Kawai, T., Ohshima, T., Seneviratne C. J., Maeda, N. (2018.7, 96th IADR(国際歯科学会) General Session & Exhibition, London, UK)
3. (*43) Inhibitory Effect of Lactobacilli Culture Supernatant on *Candida albicans*. 小島由佳子, 大島朋子, 前田伸子 (2018. 3., 第 91 回日本細菌学会総会、福岡市)
4. (*43) Analysis of effective component produced by oral probiotic candidates against *Candida albicans*. 小島由佳子, 大島朋子, 河井智美, 前田伸子. (2016, 8., 第 58 回歯科基礎医学会学術

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

会, 札幌市)

5. (*41) 抗真菌薬添加含嗽薬による口腔ケアの有用性の確認. 前田伸子, 山本共夫, 木村陽介 (2016, 4., 第 13 回日本口腔ケア学会, 千葉市)
6. (*41) 経管栄養を受けている入所者の口腔ケアについて. 小関翔子, 横田綾子, 前田伸子, 山本共夫, 木村陽介, 原田雷太郎 (2016, 4., 第 13 回日本口腔ケア学会, 千葉市)

【下田】

1. 浅田由佳, 千葉 敏江, 下田 信治, 桃井 保子, 山本 雄嗣 : エナメル質最表層界面に見られる酸性リン酸カルシウム結晶層について, 第 27 回硬組織再生生物学会学術大会, 東京都, 2018.8.18.
2. 浅田由佳, 千葉敏江, 下田信治, 桃井保子 : エナメル質最外層の結晶の層構造について, 日本歯科保存学会 2016 年度春季学術大会, 宇都宮, 2016.6.9-10.
3. 関水健宏, 下田信治, 細矢哲康 : 歯髄内血管および全身の動脈の石灰変性との関連に関する研究 ~ 歯の石灰変性の種類と髄石発生率の評価 ~, 第 121 回日本解剖学会総会学術集会, 郡山, 2016.3. 30.

【奥村】

1. 八木澤由佳、大貫芳樹、梅木大輔、伊藤愛子、奥村 敏、友成 博 咬合異常モデルにおける心臓リモデリングと β アドレナリン受容体遮断薬による抑制効 第 78 回日本矯正歯科学会学術大会 2019 年 11 月 20 日-22 日 長崎ブリックホール
2. 松尾一朗、長野孝俊、奥村 敏、五味一博 Porphyromonas gingivalis 由来の LPS による心疾患発症メカニズムの解明 第 62 回秋季日本歯周病学会学術大会 2019 年 10 月 25 日-26 日 北九州国際会議場
3. 成山明具美、大貫芳樹、吹田憲治、梅木大輔、伊藤愛子、八木澤由佳、石川美佐緒、朝田芳信、奥村 敏 Mitf 遺伝子変異による咬筋の線維化とアポトーシスの誘導 第 61 回歯科基礎医学会学術大会 2019 年 10 月 12 日-14 日 東京歯科大学
4. 梅木大輔、大貫芳樹、伊藤愛子、八木澤由佳、吹田憲治、石川美佐緒、友成博、奥村 敏 咬合異常マウスの咬筋筋肥大効果における mRNA の役割 第 61 回歯科基礎医学会学術大会 2019 年 10 月 12 日-14 日 東京歯科大学
5. 八木澤由佳、大貫芳樹、梅木大輔、吹田憲治、伊藤愛子、早川佳男、松尾一朗、中村芳樹、友成博、奥村 敏 咬合異常モデルにおける心臓リモデリングと β アドレナリン受容体遮断薬による抑制効果 第 61 回歯科基礎医学会学術大会 2019 年 10 月 12 日-14 日 東京歯科大学
6. 伊藤愛子、大貫芳樹、梅木大輔、吹田憲治、石川美佐緒、八木澤由佳、中村芳樹、友成 博、奥村 敏 骨格筋細胞の分化が β アドレナリン受容体の発現量に及ぼす影響とその生理学的役割 第 61 回歯科基礎医学会学術大会 2019 年 10 月 12 日-14 日[場所] 東京歯科大学
7. 早川佳男、大貫芳樹、吹田憲治、石川美佐緒、伊藤愛子、川村直矢、八木澤由佳、松尾一朗、河原 博、奥村 敏 口腔のストレスに起因する心疾患に対する抗ヘルペス薬(ピダラビン)の予防効果 第 61 回歯科基礎医学会学術大会 2019 年 10 月 12 日-14 日 東京歯科大学
8. 伊藤愛子、大貫芳樹、梅木大輔、八木澤由佳、石川美佐緒、中村芳樹、奥村 敏、友成 博 β_1 アドレナリン受容体の咬筋での役割 第 78 回東京矯正歯科学会大会 2019 年 7 月 11 日 有楽町朝日ホール
9. 成山明具美、奥村 敏、朝田芳信 咬筋における小眼球症関連転写調節因子(MITF)の生理的役割 第 57 回日本小児歯科学会大会 2019 年 6 月 10-11 日 札幌コンベンションセンター
10. 松尾一朗、川村直矢、長野孝俊、奥村 敏、五味一博 Porphyromonas gingivalis 由来 LPS による心疾患発症における心筋 β アドレナリン受容体シグナルの重要性 第 62 回春季日本歯周病学会学術

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

大会 2019 年 6 月 23-25 日 神奈川県民ホール

11. Suita K, Fujita T, Okumura S, Ishikawa Y Usefulness of anti-arrhythmic drug therapy targeting cardiac adenylyl cyclase. 9th FAOPS Congress in conjugation with The 96th Annual Meeting of the Physiology Society of Japan. March 28-31, 2019 Kobe Convention Center
12. Ohnuki Y, Suita K, Okumura S Roles of Epac1 in the regulation of contractility in cardiac muscle. 9th FAOPS Congress in conjugation with The 96th Annual Meeting of the Physiology Society of Japan March 28-31, 2019 Kobe Convention Center
13. 松尾一朗、吹田憲治、川村直矢、早川佳男、八木澤由佳、伊藤愛子、大貫芳樹、五味一博、奥村敏 プロプラノロールは *Porphyromonas gingivalis* 由来 LPS による心機能障害を抑制する治療薬として有効である 第 87 回鶴見大学歯学会例会 2018 年 12 月 15 日 鶴見大学会館メインホール
14. 早川佳男、大貫芳樹、石川美佐緒、川村直矢、伊藤愛子、八木澤由佳、松尾一朗、吹田憲治、河原 博、奥村 敏 口腔のストレスに起因する心疾患に対する抗ヘルペス薬(ピダラビン)の予防効果[学会名] 第 87 回鶴見大学歯学会例会 2018 年 12 月 15 日 鶴見大学会館メインホール
15. 八木澤由佳、大貫芳樹、梅木大輔、伊藤愛子、奥村 敏、中村芳樹 強制的開口モデルにおける心臓リモデリングと β アドレナリン受容体遮断薬による抑制効果
第 77 回日本矯正歯科学会学術大会 2018 年 10 月 30 日-11 月 1 日 パシフィコ横浜
16. 管崎弘幸、熊澤正雄、山田祐子、須藤智省、赤池駿、和田悟史、及川崇、奥村 敏、中村芳樹 骨格筋下顎前突症では咀嚼刺激による脳血流上昇の程度が正常咬合者に比べて低い 第 77 回日本矯正歯科学会学術大会 2018 年 10 月 30 日-11 月 1 日 パシフィコ横浜
17. 川村直矢、松尾一朗、奥村 敏、五味一博 *Porphyromonas gingivalis* 由来の LPS が心機能におよぼす影響とそのメカニズムの解析 第 61 回日本歯周病学会学術大会 2018 年 10 月 25 日-27 日 リーガロイヤルホテル大阪
18. 吹田憲治、八木澤由佳、大貫芳樹、梅木大輔、石川美佐緒、伊藤愛子、川村直矢、中村芳樹、奥村 敏 強制的開口負荷が心機能および心筋細胞内シグナル伝達に与える影響の解析 第 60 回歯科基礎医学会学術大会 2018 年 9 月 5 日-7 日 九州大学医学部百年講堂
19. 塩澤光一、奥村 敏 ヒトの摂食行動と心理的要因との関係について 第 60 回歯科基礎医学会学術大会 2018 年 9 月 5 日-7 日 九州大学医学部百年講堂
20. 伊藤愛子、大貫芳樹、梅木大輔、石川美佐緒、川村直矢、八木澤由佳、中村芳樹、奥村 敏 骨格筋リモデリング過程における β アドレナリン受容体シグナルの重要性 第 60 回歯科基礎医学会学術大会 2018 年 9 月 5 日-7 日 九州大学医学部百年講堂
21. 川村直矢、大貫芳樹、吹田憲治、梅木大輔、氏家優子、伊藤愛子、五味一博、奥村 敏 *Porphyromonas gingivalis* 由来の LPS が心機能におよぼす影響 第 60 回歯科基礎医学会学術大会 2018 年 9 月 5 日-7 日 九州大学医学部百年講堂
22. 八木澤由佳、大貫芳樹、梅木大輔、吹田憲治、伊藤愛子、川村直矢、石川美佐緒、中村芳樹、奥村 敏 強制的開口モデルにおける心臓リモデリングと β アドレナリン受容体遮断薬による抑制効果 第 60 回歯科基礎医学会学術大会 2018 年 9 月 5 日-7 日 九州大学医学部百年講堂
23. 松尾一朗、吹田憲治、川村直矢、早川佳男、八木澤由佳、伊藤愛子、大貫芳樹、五味一博、奥村 敏 *Porphyromonas gingivalis* 由来の LPS による心機能障害に対する β アドレナリン受容体遮断薬の抑制効果 第 60 回歯科基礎医学会学術大会 2018 年 9 月 5 日-7 日 九州大学医学部百年講堂
24. 梅木大輔、大貫芳樹、伊藤愛子、八木澤由佳、川村直矢、吹田憲治、石川美佐緒、中村芳樹、奥村 敏 強制的開口によるマウス咬筋肥大効果に対するデキサメサゾンの拮抗作用 第 60 回歯科基礎医学会学術大会 2018 年 9 月 5 日-7 日 九州大学医学部百年講堂

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

25. 成山明具美、大貫芳樹、梅木大輔、吹田憲治、伊藤愛子、川村直矢、八木澤由佳、石川美佐緒、朝田芳信、奥村 敏 咬筋における小眼球症関連転写調節因子 MITF の生理機能 第 60 回歯科基礎医学会学術大会 2018 年 9 月 5 日-7 日 九州大学医学部百年講堂
26. 吹田憲治、奥村 敏、石川義弘 抗ヘルペス薬ビダラビンによる酸化ストレスの低減を介した抗不整脈作用 第 28 回病態生理学会大会 2018 年 8 月 4 日-5 日 横浜市立大学 医学部 福浦キャンパス
27. ブラジャパティ ラジュシュ、藤田孝之、吹田憲治、中村隆、蔡文倩、日高裕子、奥村 敏、石川義弘 The role of Epac1 in the development of ventricular arrhythmia in mice 第 28 回病態生理学会大会 2018 年 8 月 4 日-5 日 横浜市立大学 医学部 福浦キャンパス
28. 本谷安正、奥村 敏、岡村匡史 GRIN3 ノックアウトマウスにおけるドーパミン β アレスチン 2 シグナル経路を介した行動異常 第 41 回日本神経科学大会 2018 年 7 月 26 日-29 日 神戸コンベンションセンター
29. 吹田憲治、奥村 敏、石川義弘 心臓型アデニル酸シクラーゼを標的にした新しい不整脈薬物療法(シンポジウム 医工学と循環治療薬) 第 57 回日本生体医工学会 2018 年 6 月 19 日-21 日 札幌コンベンションセンター
30. 伊藤愛子、大貫芳樹、梅木大輔、石川美佐緒、八木澤由佳、奥村 敏、中村芳樹 β アドレナリン受容体シグナルの咬筋での役割 第 76 回日本矯正歯科学会学術大会 2017 年 10 月 18 日-20 日 札幌(さっぽろ芸文館)
31. 管崎弘幸、熊澤正雄、山田祐子、須藤智省、赤池駿、和田悟史、及川崇、奥村 敏、中村芳樹 顎変形症は認知症の誘発因子となりえるか?—顎変形症は咀嚼刺激による脳血流量上昇を妨げる— 第 76 回日本矯正歯科学会学術大会 2017 年 10 月 18 日-20 日 札幌(さっぽろ芸文館)
32. 梅木大輔、大貫芳樹、伊藤愛子、八木澤由佳、成山明具美、川村直矢、吹田憲治、中村芳樹、奥村 敏 マウス咀嚼筋適応機構の解明(アップデートシンポジウム 若手の口腔生理学研究最前線) 第 59 回歯科基礎医学会学術大会 2017 年 9 月 16 日-18 日 塩尻市(松本歯科大学キャンパス)
33. 塩澤光一、奥村 敏 咬筋における β アドレナリン受容体シグナルのサブタイプ特異的な役割 第 59 回歯科基礎医学会学術大会 2017 年 9 月 16 日-18 日 塩尻市(松本歯科大学キャンパス)
34. 八木澤由佳、大貫芳樹、梅木大輔、石川美佐緒、川村直矢、伊藤愛子、吹田憲治、中村芳樹、奥村 敏 咬筋における β アドレナリン受容体シグナルのサブタイプ特異的な役割 第 59 回歯科基礎医学会学術大会 2017 年 9 月 16 日-18 日 塩尻市(松本歯科大学キャンパス)
35. 吹田憲治、八木澤由佳、大貫芳樹、梅木大輔、石川美佐緒、伊藤愛子、川村直矢、中村芳樹、奥村 敏 咬合拳上負荷がマウスの心房に与える影響 第 59 回歯科基礎医学会学術大会 2017 年 9 月 16 日-18 日 塩尻市(松本歯科大学キャンパス)
36. 伊藤愛子、大貫芳樹、梅木大輔、石川美佐緒、川村直矢、八木澤由佳、中村芳樹、奥村 敏 咬筋における β アドレナリン受容体シグナルのサブタイプ特異的な役割 第 59 回歯科基礎医学会学術大会 2017 年 9 月 16 日-18 日 塩尻市(松本歯科大学キャンパス)
37. 川村直矢、大貫芳樹、氏家優子、梅木大輔、伊藤愛子、五味一博、奥村 敏 Polphyromonas gingivalis 由来 LPS が心筋、骨格筋に及ぼす影響 第 59 回歯科基礎医学会学術大会 2017 年 9 月 16 日-18 日 塩尻市(松本歯科大学キャンパス)
38. 成山明具美、大貫芳樹、奥村 敏、朝田芳信 咬筋における小眼球症関連転写因子(MITF)の生理機能について 第 55 回日本小児歯科学会大会 2017 年 5 月 25 日-26 日 北九州市(西日本総合展示場)
39. 大貫芳樹、三枝木泰文、奥村 敏 β_2 アゴニスト依存性の骨格筋肥大に対する Epac の役割 第 94 回日本生理学会大会 2017 年 3 月 28 日-30 日 アクトシティ浜松

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

40. 塩澤光一、奥村 敏 トロミ剤の添加が咀嚼行動および食品食塊物性に及ぼす影響 第 58 回歯科基礎医学会学術大会総会 2016 年 8 月 24 日-26 日 札幌コンベンションセンター
41. 成山明具美、大貫芳樹、梅木大輔、伊藤愛子、川村直矢、八木澤由佳、奥村 敏、朝田芳信 咬筋における小眼球症関連転写調節遺伝子 mitf の生理機能の解明 第 58 回歯科基礎医学会学術大会 2016 年 8 月 24 日-26 日 札幌コンベンションセンター
42. 梅木大輔、大貫芳樹、伊藤愛子、八木澤由佳、成山明具美、石川美佐緒、川村直矢、中村芳樹、奥村 敏 咬筋および心筋における咬合拳上の筋肥大効果とデキサメサゾンの拮抗作用 第 58 回歯科基礎医学会学術大会 2016 年 8 月 24 日-26 日 札幌コンベンションセンター
43. 大貫芳樹、梅木大輔、成山明具美、伊藤愛子、川村直矢、八木澤由佳、奥村 敏 β_2 アドレナリン受容体刺激による cAMP 活性化因子 Epac 依存性の筋肥大効果 第 58 回歯科基礎医学会学術大会総会 2016 年 8 月 24 日-26 日 札幌コンベンションセンター
44. 伊藤愛子、大貫芳樹、梅木大輔、石川美佐緒、川村直矢、八木澤由佳、中村芳樹、奥村 敏 咬筋における β アドレナリン受容体のサブタイプ特異的な役割 第 58 回歯科基礎医学会学術大会総会 2016 年 8 月 24 日-26 日 札幌コンベンションセンター
45. 川村直矢、大貫芳樹、氏家優子、梅木大輔、伊藤愛子、五味一博、奥村敏 *Polyphyromonas gingivalis* 由来 LPS が心筋、骨格筋に及ぼす影響 第 58 回歯科基礎医学会学術大会総会 2016 年 8 月 24 日-26 日 札幌コンベンションセンター
46. 金慧玲、藤田孝之、金美花、蔡文倩、日高祐子、吹田憲治、ブラザパティール、ラジャス、梁晨、奥村敏、石川義弘 敗血症性心不全における心機能低下に対する Epac1 の保護的役割 第 37 回日本循環制御医学会総会 2016 年 7 月 8 日-9 日 ステーションコンファレンス東京
47. Nariyama M, Ohnuki Y, Umeki D, Ito A, Kawamura N, Okumura S, Asada Y Role of micro-associated transcription factor in masseter muscle hypertrophy induced by β_2 -adrenergic stimulation. 10th Biennial Conference of the Pediatric Dentistry Association of Asia, May 26-29, 2016 Tokyo Dome Hotel
48. 大貫芳樹、三枝木泰文、奥村 敏 β_2 アドレナリン受容体刺激による Epac 依存性の筋肥大効果 第 93 回日本生理学会大会 2016 年 3 月 23 日-24 日 札幌コンベンションセンター
49. 大貫芳樹、梅木大輔、伊藤愛子、奥村 敏 β_2 アドレナリン受容体刺激による骨格筋肥大に対する cAMP 活性化因子 Epac の役割 第 57 回歯科基礎医学会学術大会総会 2015 年 9 月 11 日-13 日 朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター
50. 島田明美、小松浩一郎、荒井嘉則、大貫芳樹、中島和久、山下照仁、奥村敏、二藤 彰 アネキシン A5 欠損マウスは歯の咬耗と腱付着部における顎骨の肥大を呈する 第 57 回歯科基礎医学会学術大会総会 2015 年 9 月 11 日-13 日 朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター
51. 梅木大輔、大貫芳樹、伊藤愛子、中村芳樹、奥村 敏 デキサメタゾン投与による咬筋の委縮と遅筋化に対するクレンプテロールの拮抗作用 第 57 回歯科基礎医学会学術大会総会 2015 年 9 月 11 日-13 日 朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター
52. 成山明具美、島崎絵美、安藤 準、大貫芳樹、奥村 敏、朝田芳信 咬筋と腓腹筋の生後発達過程における miR-1, miR-133a の機能 第 57 回歯科基礎医学会学術大会総会 2015 年 9 月 11 日-13 日 朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター
53. 塩澤光一、奥村 敏 傾斜計を用いた食塊物性測定 第 57 回歯科基礎医学会学術大会総会 2015 年 9 月 11 日-13 日 朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター

【花田】

1. (*46) 武内 博朗, 寺田 美香, 小林 和子, 花田 信弘、インプラント治療への保健指導導入は、体

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

組成とHbA1cを改善する、第49回公益社団法人日本口腔インプラント学会学術大会、福岡国際会議場、福岡市、2019年9月20日～22日

2. 青柳 ひとみ, 鈴木 恵, 藏下 友実, 是澤 絵梨, 相葉 望美, 今村 安芸子, 村田 貴俊, 花田 信弘, 佐藤 勉、血管内皮機能に対する歯周組織健康状態改善の有効性評価 第2報 有効性の検討、日本歯科衛生学会第14回学術大会、ウインクあいち(愛知県産業労働センター、名古屋、2019年(令和元年)9月14日～16日
3. (*12)(*14)(*18) 花田 信弘、口腔のコア・マイクロバイオームを構成する細菌種の検討、第27回日本口腔感染症学会学術大会、広島大学医学部 広仁会館、広島市、平成30年10月13日(土)～14日(日)
4. 村田 貴俊, 花田 信弘、ショ糖依存性バイオフィルムの強固な付着に必須の *S.mutans* GTF-SI、第27回日本口腔感染症学会学術大会、広島大学医学部 広仁会館、広島市、平成30年10月13日(土)～14日(日)
5. 加藤 光敏, 金村 幸枝, 森川 よし子, 酒井 久美子, 大石 和子, 岡田 彩子, 野村 義明, 花田 信弘, 筒井 健介, 山下 滋雄, 中村 みゆき, 斎藤 杏子, 加藤 則子、当クリニックにおける歯科診療所との連携手段とその有効性、第62回 日本糖尿病学会年次学術集会(2019年度)、仙台国際センター、仙台市、2019年5月23日(木) - 25日(土)
6. 渋谷 耕司, 石川 綾子, 花田 信弘, 石川 正夫、銅含有ガラス粉末のメチルメルカプタンに対する消臭効果、日本歯科保存学会 2019 年度春季学術大会(第150回)、石川県立音楽堂、金沢市、2019年6月26日(水) - 28日(金)
7. 花田 信弘、歯周病は未病のサイン: 未病改善は歯周病の予防と治療から、第62回春季日本歯周病学会学術大会、神奈川県民ホール、横浜市、2019年5月25日(土)
8. 武内 博朗, 野村 義明, 花田 信弘、歯科補綴による咀嚼機能回復と保健指導の組合せは体組成と代謝マーカーに影響する、第68回日本口腔衛生学会・総会・学術大会、滋賀県立県民交流センター「ピアザ淡海」、大津市、2019年5月23日(木)～24日(金)
9. 山田 秀則, 宮之原 真由, 大塚 良子, 石川 芽生, 曾我部 薫, 岡田 彩子, 武内 博朗, 村田 貴俊, 野村 義明, 花田 信弘、全身的な健康を歯科から考える“予防医学”としての概念を歯科へ「3DS 除菌外来」の試み、第68回日本口腔衛生学会・総会・学術大会、滋賀県立県民交流センター「ピアザ淡海」、大津市、2019年5月23日(木)～24日(金)
10. 岡田 彩子, 村田 貴俊, 有吉 芽生, 大塚 良子, 山下 万美子, 鈴木 恵, 青柳 ひとみ, 植松 裕美, 今村 安芸子, 佐藤 勉, マティン・カイルール, 花田 信弘、血管内皮機能に対する歯周組織健康状態改善の有効性評価 ランダム化並行群間比較試験、第68回日本口腔衛生学会・総会・学術大会、滋賀県立県民交流センター「ピアザ淡海」、大津市、2019年5月23日(木)～24日(金)
11. 石川 正夫, 村田 貴俊, 岡本 公彰, 泉福 英信, 花田 信弘, 渋谷 耕司、ブラックミンおよび殺菌剤のカンジダに対する抗真菌活性について、第68回日本口腔衛生学会・総会・学術大会、滋賀県立県民交流センター「ピアザ淡海」、大津市、2019年5月22日(水)～24日(金)
12. (*17)(*68) 上谷 公之, 矢吹 義秀, 福澤 洋一, 古藤 真実, 吉野 浩和, 三穂 乙暁, 西辻 直之, 谷村 秀樹, 長井 博昭, 角田 衣理加, 大塚 良子, 岡本 公彰, 岡田 彩子, 山下 万美子, 村田 貴俊, 野村 義明, 花田 信弘、唾液検査を用いた歯周病のスクリーニング検査による地域健康診断システム構築、大塚 貴俊、第68回日本口腔衛生学会・総会・学術大会、滋賀県立県民交流センター「ピアザ淡海」、大津市、2019年5月23日(木)～24日(金)
13. 稲井 裕子, 野村 義明, 寶田 貫, 花田 信弘, 和田 尚久、全身麻酔下手術前の診査における手術後肺炎発症のリスク因子、第68回日本口腔衛生学会・総会・学術大会、滋賀県立県民交流セン

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

ター「ピアザ淡海」、大津市、2019 年 5 月 23 日(木)～24 日(金)

14. 村田 貴俊, 花田 信弘, *Streptococcus mutans* が産生するショ糖依存性バイオフィルムのガラス表面への強固な付着に必須の役割を持つ GTF-SI、第 60 回歯科基礎医学会学術大会、九州大学病院キャンパス 百年講堂、福岡市、2018 年 9 月 5 日(水)～7 日(金)
15. 花田 信弘、見えてきた口内細菌と認知症の因果な関係 口腔細菌と健康寿命、第 60 回歯科基礎医学会学術大会、九州大学病院キャンパス 百年講堂、福岡市、2018 年 9 月 5 日(水)～7 日(金)
16. 角田 衣理加, 千葉 敏江, 五十嵐 千浪, 伊東 宏和, 花田 信弘, 桃井 保子、ICDAS のう蝕検出精度 他の検査方法との比較、日本歯科保存学会 2018 年度春季学術大会(第 148 回)、横浜みなとみらいホール、横浜市、2018 年 6 月 14 日(木)～15 日(金)
17. (*68) 加藤 光敏, 野村 義明, 岡田 彩子, 花田 信弘, 横田 邦信, 筒井 健介, 山下 滋雄, 酒井 久美子, 森川 よし子, 金村 幸枝, 大石 和子, 斎藤 杏子, 加藤 則子、糖尿病患者の唾液ヘモグロビン測定は歯科診療所との診療連携に有用である、第 61 回日本糖尿病学会年次学術集会、東京国際フォーラム、東京、2018 年 5 月 24 日(木)～ 5 月 26 日(土)
18. (*46) 武内 博朗, 寺田 美香, 小林 和子, 花田 信弘、歯科インプラントによる咀嚼機能回復と保健指導の組合せは体組成と代謝マーカーに影響する、第 48 回公益社団法人日本口腔インプラント学会学術大会、大阪国際会議場、2018 年 9 月 14 日(金)・15 日(土)・16 日(日)
19. 青柳 ひとみ, 鈴木 恵, 藏下 友実, 佐藤 絵梨, 相葉 望美, 植松 裕美, 今村 安芸子, 村田 貴俊, 花田 信弘, 佐藤 勉、血管内皮機能に対する歯周組織健康状態改善の有効性評価(第 1 報) ランダム化並行群間比較試験、日本歯科衛生学会第 13 回学術大会、福岡国際会議場、福岡市、2018 年 9 月 15 日～17 日
20. 井上 一彦, 山口 一郎, 村田 貴俊, 今井 奨, 野村 義明, 花田 信弘, 櫻井 四郎, 佐藤 勉、福島原発事故等により放出された放射性核種(^{90}Sr 、 ^{238}Pu 、 $^{239+240}\text{Pu}$)のヒト乳歯への蓄積の推移に関する研究(第 2 報) 日本と欧州のデータとの比較、第 26 回日本臨床環境医学会学術集会、東海大学高輪校舎 2 号館 2017 年 6 月 24 日(土)
21. 今井 奨, 岡田 彩子, 中島 聡美, 花田 信弘、ミュータンスレンサ球菌のバイオフィルム形成・エナメル質脱灰に及ぼすサイクロデキストランの効果、第 67 回日本口腔衛生学会総会・学術大会、札幌市・教育文化会館、2018 年 5 月 18 日(金)、19 日(土)、20 日(日)
22. 石川 正夫, 村田 貴俊, 泉福 英信, 花田 信弘, 渋谷 耕司、ブラッククミンおよび殺菌剤の *Fusobacterium nucleatum* のメチルメルカプタン産生に及ぼす影響、第 67 回日本口腔衛生学会総会・学術大会、札幌市・教育文化会館、2018 年 5 月 18 日(金)、19 日(土)、20 日(日)
23. 岡本 公彰, 宮之原 真由, 野村 義明, 今井 奨, 齋藤 渉, 桃井 保子, 花田 信弘、チンパンジー口腔におけるコアマイクロバイオームの解析、第 67 回日本口腔衛生学会総会・学術大会、札幌市・教育文化会館、2018 年 5 月 18 日(金)、19 日(土)、20 日(日)
24. 稲井 裕子, 寶田 貫, 野村 義明, 花田 信弘、食道がん患者の周術期口腔管理が術後経過に及ぼす要因についての分析、第 67 回日本口腔衛生学会総会・学術大会、札幌市・教育文化会館、2018 年 5 月 18 日(金)、19 日(土)、20 日(日)
25. 山田 秀則, 岡田 彩子, 宮之原 真由, 曾我部 薫, 村田 貴俊, 武内 博朗, 野村 義明, 花田 信弘、全身的な健康を歯科から考える“予防医学”としての概念を歯科へ『3DS 除菌外来』の試み(第五報)、第 67 回日本口腔衛生学会総会・学術大会、札幌市・教育文化会館、2018 年 5 月 18 日(金)、19 日(土)、20 日(日)
26. がん治療周術期における口腔内環境の変化 1 症例報告(第 2 報)、大塚 良子, 今井 奨, 岡田 彩子, 有吉 芽生, 菊地 朋宏, 宮之原 真由, 曾我部 薫, 村田 貴俊, マティン・カイルール, 野村

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

- 義明, 花田 信弘, 桃井 保子, 熊谷 崇、第 67 回日本口腔衛生学会総会・学術大会、札幌市・教育文化会館、2018 年 5 月 18 日(金)、19 日(土)、20 日(日)
27. 岡田 彩子, 村田 貴俊, 有吉 芽生, 大塚 良子, 山下 万美子, 鈴木 恵, 青柳 ひとみ, 植松 裕美, 今村 安芸子, 佐藤 勉, マティン・カイルール, 花田 信弘、喫煙者の口腔ケアと歯周組織の健康状態との関連性について、第 67 回日本口腔衛生学会総会・学術大会、札幌市・教育文化会館、2018 年 5 月 18 日(金)、19 日(土)、20 日(日)
28. 野邑 浩美, 井田 亮, 山田 秀則, 村田 貴俊, 野村 義明, 花田 信弘、長期間(35 年)にわたり定期的な口腔衛生管理を行い良好に経過している 1 症例、第 67 回日本口腔衛生学会総会・学術大会、札幌市・教育文化会館、2018 年 5 月 18 日(金)、19 日(土)、20 日(日)
29. 有吉 芽生, 村田 貴俊, 岡田 彩子, 大塚 良子, 山下 万美子, 鈴木 恵, 青柳 ひとみ, 植松 裕美, 今村 安芸子, 佐藤 勉, マティン・カイルール, 花田 信弘、血管内皮機能に対する歯周組織健康状態改善の有効性評価 ランダム化並行群間比較試験(第一報)、第 67 回日本口腔衛生学会総会・学術大会、札幌市・教育文化会館、2018 年 5 月 18 日(金)、19 日(土)、20 日(日)
30. 上谷 公之, 大柵 貴俊, 矢吹 義秀, 福澤 洋一, 古藤 真実, 吉野 浩和, 三穂 乙暁, 西辻 直之, 谷村 秀樹, 長井 博昭, 小石 健, 大塚 良子, 岡田 彩子, 岡本 公彰, 野中 衣理加, 村田 貴俊, 野村 義明, 花田 信弘、唾液を用いた歯周病のスクリーニング検査による地域健康診断システム構築 平成 29 年度までの実施結果報告、第 67 回日本口腔衛生学会総会・学術大会、札幌市・教育文化会館、2018 年 5 月 18 日(金)、19 日(土)、20 日(日)
31. 花田 信弘、すべての人にカリエスマネジメントを う蝕の検出について、第 67 回日本口腔衛生学会総会・学術大会、札幌市・教育文化会館、2018 年 5 月 18 日(金)、19 日(土)、20 日(日)
32. 村田 貴俊, 花田 信弘、遺伝子クローニングを要しないミュータンス連鎖球菌の遺伝子破壊株作製法、第 67 回日本口腔衛生学会総会・学術大会、札幌市・教育文化会館、2018 年 5 月 18 日(金)、19 日(土)、20 日(日)
33. (*46) 岡田 彩子, 曾我部 薫, 村田 貴俊, 野村 義明, 花田 信弘、現在歯数に着目した高齢者施設での食と栄養指導システムの構築、第 67 回日本口腔衛生学会総会・学術大会、札幌市・教育文化会館、2018 年 5 月 19 日(土)、20 日(日)
34. 両角 俊哉, 中川 種昭, 野口 和行, 原 宜興, 西村 英紀, 梅田 誠, 野口 俊英, 吉成 伸夫, 沼部 幸博, 伊藤 公一, 和泉 雄一, 小方 頼昌, 三邊 正人, 齋藤 淳, 佐藤 聡, 高橋 慶壮, 川浪 雅光, 花田 信弘, 高柴 正悟, 吉江 弘正, 角田 衣理加, 中村 利明, 吉村 篤利, 前田 勝正, 藤瀬 修, 上田 雅俊, 河野 智生, 福田 光男, 横井 隆, 高橋 美穂, 深谷 千絵, 関野 愉, 菅野 直之, 小林 宏明, 高井 英樹, 中山 洋平, 高野 聡美, 山田 了, 大井 麻子, 奥田 倫子, 横山 智子, 阿部 祐三, 鈴木 史彦, 菅谷 勉, 野村 義明、歯肉縁下細菌と血清抗体価による慢性歯周炎進行の予知判定 24ヵ月多施設前向きコホート研究、日本歯科保存学会 2017 年度春季学術大会(第 146 回)、リンクステーションホール青森(青森市文化会館)、青森市、2017 年 6 月 8 日(木)~9 日(金)
35. 岡田 彩子, 有吉 芽生, 曾我部 薫, 大塚 良子, 宮之原 真由, 村田 貴俊, マティン・カイルール, 花田 信弘、Liquid Carrier Type 3DS トレーを用いた殺菌洗口液の細菌学的・臨床的効果、第 67 回日本口腔衛生学会総会・学術大会、札幌市・教育文化会館、2018 年 5 月 18 日(金)、19 日(土)、20 日(日)
36. 石川 正夫, 村川 拓士, 村田 貴俊, 花田 信弘, 渋谷 耕司、ブラッククミン種子精油の口臭産生菌のメチルメルカプタン産生に及ぼす影響、第 67 回日本口腔衛生学会総会・学術大会、札幌市・教育文化会館、2018 年 5 月 19 日(土)、20 日(日)

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

37. 大塚 良子, 今井 奨, 阿部 繭, 岡田 彩子, 有吉 芽生, 菊地 朋宏, 村田 貴俊, マティン・カイルール, 野村 義明, 花田 信弘, 桃井 保子, 熊谷 崇、がん治療周術期における口腔内環境の変化 1 症例報告、第 67 回日本口腔衛生学会総会・学術大会、札幌市・教育文化会館、2018 年 5 月 19 日(土)、20 日(日)
38. 山田 秀則, 岡田 彩子, 宮之原 真由, 曾我部 薫, 村田 貴俊, 武内 博朗, 野村 義明, 花田 信弘、全身的な健康を歯科から考える“予防医学”としての概念を歯科へ『3DS 除菌外来』の試み(第四報)、第 67 回日本口腔衛生学会総会・学術大会、札幌市・教育文化会館、2018 年 5 月 19 日(土)、20 日(日)
39. 曾我部 薫, 野村 義明, 村田 貴俊, 花田 信弘、現在歯数に着目した高齢者施設での食と栄養指導システムの構築、第 67 回日本口腔衛生学会総会・学術大会、札幌市・教育文化会館、2018 年 5 月 19 日(土)、20 日(日)
40. 角田 衣理加, 大島 朋子, 野村 義明, 花田 信弘, 前田 伸子、高齢者の認知機能と口腔微生物の相関、第 67 回日本口腔衛生学会総会・学術大会、札幌市・教育文化会館、2018 年 5 月 18 日(金)、19 日(土)、20 日(日)
41. (*17) 古藤 真実, 上谷 公之, 吉野 浩和, 久保 宏史, 矢吹 義秀, 福澤 洋一, 西辻 直之, 長井 博昭, 矢島 正隆, 有吉 芽生, 曾我部 薫, 岡田 彩子, 野村 義明, 花田 信弘、唾液を用いた歯周病のスクリーニング検査による地域健康診断システム構築 平成 28 年度実施結果報告、第 67 回日本口腔衛生学会総会・学術大会、札幌市・教育文化会館、2018 年 5 月 19 日(土)、20 日(日)
42. 野邑 浩美, 井田 亮, 岡田 彩子, 山田 秀則, 村田 貴俊, 野村 義明, 花田 信弘、フッ化物歯面塗布の臨床効果に関する研究、第 67 回日本口腔衛生学会総会・学術大会、札幌市・教育文化会館、2018 年 5 月 19 日(土)、20 日(日)
43. 泉福 英信, 平野 浩彦, 枝広 あや子, 白部 麻樹, 角田 衣理加, 花田 信弘, 富永 燦, 武内 博朗, 西山 佳秀、高齢者の口腔常在菌に対するヨーグルト摂取習慣の効果、第 67 回日本口腔衛生学会総会・学術大会、札幌市・教育文化会館、2018 年 5 月 19 日(土)、20 日(日)
44. 井上 一彦, 山口 一郎, 佐藤 勉, 村田 貴俊, 今井 奨, 野村 義明, 花田 信弘、福島原発事故等により放出された放射性核種のヒト乳歯への蓄積の推移に関する研究 第 1 報、第 67 回日本口腔衛生学会総会・学術大会、札幌市・教育文化会館、2018 年 5 月 19 日(土)、20 日(日)
45. 両角 俊哉, 角田 衣理加, 野村 義明, 中川 種昭, 野口 和行, 原 宜興, 西村 英紀, 梅田 誠, 野口 俊英, 吉成 伸夫, 沼部 幸博, 伊藤 公一, 和泉 雄一, 小方 頼昌, 三邊 正人, 齋藤 淳, 佐藤 聡, 高橋 慶壮, 川浪 雅光, 花田 信弘, 高柴 正悟, 吉江 弘正、歯肉縁下細菌と血清抗体価を用いた慢性歯周炎進行の評価 24 ヶ月多施設前向きコホート研究、第 60 回 春季日本歯周病学会学術大会、福岡国際会議場、福岡市、2017 年 5 月 12 日(金)~13 日(土)
46. 井上 一彦, 山口 一郎, 佐藤 勉, 村田 貴俊, 今井 奨, 野村 義明, 花田 信弘、放射性核種(90Sr、238Pu、239+240Pu)のヒト乳歯への蓄積の推移に関する研究、第 25 回日本臨床環境医学会学術集会、郡山商工会議所会館、郡山市、2016 年 6 月 17 日(金)~18 日(土)
47. 今井 奨, 岡田 彩子, 岡本 公彰, 宮之原 真由, 太田 一正, 桃井 保子, 友永 雅己, 花田 信弘、ヒトおよびチンパンジー由来ミュータンスレンサ球菌のバイオフィーム形成能とエナメル質脱灰能の比較、第 30 回日本バイオフィーム学会学術集会、第一三共本社ビル会議室、2016 年 7 月 2 日(土)
48. 須藤 智省, 落合 剛, 菅崎 弘幸, 花田 信弘, 中村 芳樹、可視光応答型光触媒酸化チタンの歯科矯正材料への応用、第 74 回東京矯正歯科学会大会、ベルサール新宿グランド、東京、2017 年 7 月

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

16日(木)

49. 村川 拓士, 石川 正夫, 中杉 徹, 村田 貴俊, 花田 信弘, 渋谷 耕司、ブラックミン精油の口腔細菌に対する抗菌活性と口臭抑制効果、第 66 回日本口腔衛生学会総会・学術大会、山形テルサ、山形市、2017 年 6 月 1 日(木)・2 日(金)
50. 金子 昇, 濃野 要, 山賀 孝之, 葭原 明弘, 花田 信弘, 宮崎 秀夫、*Streptococcus sobrinus* 臨床分離株の *gtfI* 遺伝子における多様性の検討、第 66 回日本口腔衛生学会総会・学術大会、山形テルサ、山形市、2017 年 6 月 1 日(木)・2 日(金)
51. 岡本 公彰, 宮之原 真由, 今井 奨, 野村 義明, 齋藤 渉, 桃井 保子, 花田 信弘、チンパンジー口腔微生物叢の解析、第 66 回日本口腔衛生学会総会・学術大会、山形テルサ、山形市、2017 年 6 月 1 日(木)・2 日(金)
52. (*17)(*68) 吉野 浩和, 上谷 公之, 矢吹 義秀, 福澤 洋一, 古藤 真実, 久保 宏史, 西辻 直之, 長井 博昭, 矢島 正隆, 岡田 彩子, 野村 義明, 花田 信弘、唾液を用いた歯周病のスクリーニング検査による地域健康診断システム構築 平成 27 年度実施結果報告、第 66 回日本口腔衛生学会総会・学術大会、山形テルサ、山形市、2017 年 6 月 1 日(木)・2 日(金)
53. (*57) 井田 亮, 野邑 浩美, 山田 秀則, 村田 貴俊, 野村 義明, 花田 信弘、Dental Drug Delivery System と 0.4%フッ化第一錫による歯の健康の長期管理、第 66 回日本口腔衛生学会総会・学術大会、山形テルサ、山形市、2017 年 6 月 1 日(木)・2 日(金)
54. 山田 秀則, 岡田 彩子, 宮之原 真由, 村田 貴俊, 武内 博朗, 野村 義明, 花田 信弘、全身的な健康を歯科から考える“予防医学”としての概念を歯科へ『3DS 除菌外来』の試み(第三報)、第 66 回日本口腔衛生学会総会・学術大会、山形テルサ、山形市、2017 年 6 月 1 日(木)・2 日(金)
55. 宮之原 真由, 村田 貴俊, 山田 秀則, 岡田 彩子, 石川 芽生, 野村 義明, 花田 信弘、3DS 除菌外来における疲労測定システム(自律神経測定センサー)の導入、第 66 回日本口腔衛生学会総会・学術大会、山形テルサ、山形市、2017 年 6 月 1 日(木)・2 日(金)
56. 花田 信弘、NCD 予防対策における栄養と口腔保健の連携の必要性 ライフコース疫学における口腔保健の意義、第 66 回日本口腔衛生学会総会・学術大会、山形テルサ、山形市、2017 年 6 月 1 日(木)・2 日(金)
57. 武内 博朗, 泉福 英信, 野村 義明, 花田 信弘、3DS による歯周病原細菌の制御とエンドトキシン血症の予防、第 25 回日本口腔感染症学会学術大会、神戸市立医療センター中央市民病院、神戸市、2016 年 10 月 15 日(土)～16 日(日)
58. (*46) 武内 博朗, 河野 結, 寺田 美香, 野村 義明, 柳田 健, 花田 信弘、歯科補綴による咀嚼機能の回復と保健指導の組み合わせによる体組成の改善に関する研究、第 16 回日本抗加齢医学会総会、パシフィコ横浜、横浜市、2016 年 6 月 10 日(金)～12 日(日)
59. 武内 博朗, 野村 義明, 柳田 健, 花田 信弘、歯科医師による歯原性菌血症とエンドトキシン血症の予防、第 16 回日本抗加齢医学会総会、パシフィコ横浜、横浜市、2016 年 6 月 10 日(金)～12 日(日)
60. 岡田 彩子, 村田 貴俊, マティン・カイルール, 宮之原 真由, 曾我部 薫, 大塚 良子, 須藤 智省, 松澤 匡純, 桐原 大, 花田 信弘、3DS トレーを用いた次亜塩素酸電解水の臨床的評価(第 2 報)、第 17 回日本口腔機能水学会学術大会、梅田センタービル、大阪市、2016 年 3 月 27 日(日)
61. 花田 信弘、機能水の有効性を再認識する 歯科における使用 衛生管理、第 17 回日本口腔機能水学会学術大会、梅田センタービル、大阪市、2016 年 3 月 27 日(日)
62. 村田 貴俊, 花田 信弘、*Streptococcus mutans* のフッ化物耐性に寄与する chloride channel permease、第 57 回歯科基礎医学会学術大会、朱鷺メッセ(新潟コンベンションセンター)、新潟市、

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

2015 年 9 月 11 日(金)ー9 月 13 日(日)

63. 岡田 彩子, 村田 貴俊, Matin Khairul, 宮之原 真由, 芦垣 薫, 大塚 良子, 須藤 智省, 松澤 匡純, 桐原 大, 武内 博朗, 花田 信弘, 新規 3DS トレーを用いた次亜塩素酸電解水の臨床的評価、第 16 回口腔機能水学会学術大会・総会、鶴見大学記念館、2015 年 3 月 29 日(日)
64. (*46) 武内 博朗, 河野 結, 萩原 芳幸, 角田 衣理加, 村田 貴俊, 野村 義明, 花田 信弘, 咀嚼機能回復と保健指導の組み合わせによる体組成・栄養の改善に関する研究、第 64 回日本口腔衛生学会総会・学術大会、つくば国際会議場(エポカルつくば)、つくば市、2015 年 5 月 28 日(木)、29 日(金)
65. 阿保 備子, 花田 信弘, 誤嚥性肺炎患者の口腔細菌叢の解析、第 64 回日本口腔衛生学会総会・学術大会、つくば国際会議場(エポカルつくば)、つくば市、2015 年 5 月 28 日(木)、29 日(金)
66. Author: 村田 貴俊, 岡田 彩子, 宮之原 真由, 芦垣 薫, 菊地 朋宏, 武内 博朗, 今井 奨, 山田 秀則, 野村 義明, 花田 信弘, *Streptococcus mutans* にフッ化物耐性を付与する遺伝子の同定 第 64 回日本口腔衛生学会総会・学術大会、つくば国際会議場(エポカルつくば)、つくば市、2015 年 5 月 28 日(木)、29 日(金)
67. (*68) 久保 宏史, 上谷 公之, 西辻 直之, 古藤 真実, 矢吹 義秀, 福澤 洋一, 矢島 正隆, 岡田 彩子, 野村 義明, 花田 信弘, 歯周病のスクリーニングを目的とする唾液生化学検査の有用性、継続性に関する受診者の意識調査、(公社)東京都港区芝歯科医師会成人保健常任委員会、第 64 回日本口腔衛生学会総会・学術大会、つくば国際会議場(エポカルつくば)、つくば市、2015 年 5 月 28 日(木)、29 日(金)
68. 岡田 彩子, 村田 貴俊, マティン・カイルール, 芦垣 薫, 大塚 良子, 根深 研一, 武内 博朗, 花田 信弘, 3DS トレーを用いた殺菌消毒液の臨床的評価、第 64 回日本口腔衛生学会総会・学術大会、つくば国際会議場(エポカルつくば)、つくば市、2015 年 5 月 28 日(木)、29 日(金)
69. 山田 秀則, 角田 衣理加, 岡田 彩子, 宮之原 真由, 阿保 備子, 村田 貴俊, 武内 博朗, 野村 義明, 花田 信弘, 全身的な健康を歯科から考える“予防医科”としての概念を歯科へ『3DS 除菌外来』の試み(第二報)、第 64 回日本口腔衛生学会総会・学術大会、つくば国際会議場(エポカルつくば)、つくば市、2015 年 5 月 28 日(木)、29 日(金)
70. 岡田 彩子, 阿保 備子, 大塚 良子, 根深 研一, 今井 奨, 花田 信弘, スポンジを用いた口腔細菌採取法の有効性について、マティン・カイルール, 第 64 回日本口腔衛生学会総会・学術大会、つくば国際会議場(エポカルつくば)、つくば市、2015 年 5 月 28 日(木)、29 日(金)
71. 野邑 浩美(井田歯科東診療所), 井田 亮, 武内 博朗, 角田 衣理加, 岡田 彩子, 山田 秀則, 村田 貴俊, 野村 義明, 花田 信弘, c 唾液検査と歯面除菌清掃法(3DS)を併用した定期管理の 10 年間の評価、第 64 回日本口腔衛生学会総会・学術大会、つくば国際会議場(エポカルつくば)、つくば市、2015 年 5 月 28 日(木)、29 日(金)
72. 花田 信弘, 歯科が発信するコモン・リスクファクター対策 タバコ対策から コモン・リスクファクター対策 歯科領域が原因の菌血症のメカニズム、第 64 回日本口腔衛生学会総会・学術大会、つくば国際会議場(エポカルつくば)、つくば市、2015 年 5 月 28 日(木)、29 日(金)

【山越】

1. 千葉理紗子, 唐木田丈夫, 山本竜司, 山越康雄 エナメル質形成過程における TGF- β アイソフォームについて、第 61 回歯科基礎医学会学術大会、発表年月日 2019 年 10 月 12 日～2019 年 10 月 14 日、東京歯科大学(東京都千代田区)
2. 宮川友里, 唐木田丈夫, 小林冴子, 山越康雄, 朝田芳信, TGF- β アイソフォームによる成熟期エナメルタンパク遺伝子発現の制御、第 61 回歯科基礎医学会学術大会、発表年月日 2019 年 10 月 12

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

- 日～2019 年 10 月 14 日、東京歯科大学(東京都千代田区)
3. 野々山駿、唐木田丈夫、山本竜司、長野孝俊、山越康雄、五味一博、再生医療におけるMSCの代替細胞としてのHUCPVC、第 61 回歯科基礎医学会学術大会、発表年月日 2019 年 10 月 12 日～2019 年 10 月 14 日、東京歯科大学(東京都千代田区)
 4. 齊藤まり、小沼一雄、山本竜司、山越康雄、新規歯科インプラント材セリア系ジルコニア・アルミナ複合体は骨類似アパタイト結晶を誘導する、第 61 回歯科基礎医学会学術大会、発表年月日 2019 年 10 月 12 日～2019 年 10 月 14 日、東京歯科大学(東京都千代田区)
 5. Hidaka, K. Fujii-Abe, T. Karakida, MM. Saito, R. Yamamoto, Y. Yamakoshi, H. Kawahara. Midazolam does not inhibit BMP-2 and acts repressively on C2C12 cells. IADR, 2019. 6.21,バンクーバー・コンベンションセンター(Canada)
 6. T. Hattori, T. Karakida, Y. Yamakoshi, N. Hosoya. Characterization of fluorescent porcine pulp cell line on MTA-disk. IADR, 2019. 6.21,バンクーバー・コンベンションセンター(Canada)
 7. MM. Saito, T. Karakida, R. Yamamoto, R. Chiba, Y. Yamakoshi. Basic study for drug repositioning of midazolam toward dentin regeneration. IADR, 2019. 6.21,バンクーバー・コンベンションセンター(Canada)
 8. S. Kobayashi, M. Okubo, R. Chiba, R. Yamamoto, Y. Yamakoshi, Y. Asada. Potential function of TGF- β isoforms in maturation-stage ameloblasts. IADR, 2019. 6.21,バンクーバー・コンベンションセンター(Canada)
 9. 丹羽堯彦、小林一行、千葉理紗子、山川駿次郎、山本竜司、長野孝俊、山越康雄、五味一博 Er:YAG レーザー照射されたヒト歯根膜細胞における Caspase3 と細胞増殖能の関係性について 第 30 回日本レーザー歯学会、発表年月日 2019 年 10 月 5 日、大阪歯科大学(大阪府枚方市)
 10. 山川駿次郎、丹羽堯彦、小林一行、千葉理紗子、山崎泰志、山越康雄、細矢哲康 歯髓細胞における Er:YAG レーザーならびに半導体レーザー照射の影響、第 30 回日本レーザー歯学会、発表年月日 2019 年 10 月 5 日、大阪歯科大学(大阪府枚方市)
 11. C. Kudo, R. Yamamoto, MM. Saito, Y. Yamakoshi. Potential for drug repositioning of midazolam for dentin regeneration. JADR, 2018. 11.17, 北海道大学(札幌市北区)
 12. 齊藤まり、千葉理紗子、山本竜司、唐木田丈夫、小林一行、山越康雄 Er:YAG および半導体レーザーによるブタ歯髓細胞および歯髓組織への影響について 第 60 回歯科基礎医学会学術大会、発表年月日 2018 年 9 月 5 日～2018 年 9 月 7 日、九州大学(福岡県福岡市)
 13. 大久保水羽、千葉理紗子、唐木田丈夫、山本竜司、小林冴子、長野孝俊、五味一博、山越康雄 エナメル質形成過程における TGF- β のシグナル伝達 第 60 回歯科基礎医学会学術大会発表年月日 2018 年 9 月 5 日～2018 年 9 月 7 日、九州大学(福岡県福岡市)
 14. 服部 環、唐木田丈夫、山本竜司、山越康雄、細矢哲康、蛍光発色ブタ歯髓細胞株の作製とMTAセメント上の培養、第 60 回歯科基礎医学会学術大会、発表年月日 2018 年 9 月 5 日～2018 年 9 月 7 日九州大学(福岡県福岡市)
 15. 浅田桜子、工藤千華子、唐木田丈夫、山本竜司、齊藤まり、千葉理紗子、山越康雄 ブタ不死化歯髓細胞の象牙芽細胞分化に及ぼすミダゾラムの影響、第 60 回歯科基礎医学会学術大会 発表年月日 2018 年 9 月 5 日～2018 年 9 月 7 日、九州大学(福岡県福岡市)
 16. 日高享彦、阿部佳子、唐木田丈夫、齊藤まり、山本竜司、山越康雄、河原 博、ミダゾラムとBMP 2の併用によるマウス筋芽細胞由来C2C12細胞の石灰化物形成について、第 60 回歯科基礎医学会学術大会、発表年月日 2018 年 9 月 5 日～2018 年 9 月 7 日、九州大学(福岡県福岡市)
 17. MM. Saito, T. Karakida, R. Yamamoto, R. Chiba, Y. Yamakoshi. Basic study for drug repositioning

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

- of midazolam toward dentin regeneration. JADR, 2017. 11.19, 昭和大学(東京都品川区)
18. 齊藤まり, 唐木田丈夫, 山本竜司, 大井田新一郎, 山越康雄 歯髄細胞のスフェロイド形成に及ぼす TGF- β と BMP の影響、第 59 回歯科基礎医学会学術大会、発表年月日 2017 年 9 月 16 日～2017 年 9 月 18 日、松本歯科大学(長野県塩尻市)
 19. 大久保水羽, 小林冴子, 長野孝俊, 五味一博, 山越康雄 *Mmp20* ノックアウトマウス・エナメル質の TGF- β アイソフォームについて、第 59 回歯科基礎医学会学術大会、発表年月日 2017 年 9 月 16 日～2017 年 9 月 18 日、松本歯科大学(長野県塩尻市)
 20. 千葉理紗子, 山本竜司, 大久保水羽, 齊藤まり, 西川純雄, 山越康雄 形成過程のエナメル質中のケラチン75について、第 59 回歯科基礎医学会学術大会、発表年月日 2017 年 9 月 16 日～2017 年 9 月 18 日、松本歯科大学(長野県塩尻市)
 21. 山越康雄 歯牙エナメル質—生体で最も硬い組織の石灰化機構について—バイオミネラリゼーションと石灰化—遺伝子から地球環境まで—、発表年月日 2016 年 11 月 12 日、東京大学大気海洋研究所(千葉県柏市)
 22. 大久保水羽, 小林冴子, 山本竜司, 齊藤まり, 長野孝俊, 五味一博, 大井田新一郎, 山越康雄 ブタ幼若および成熟エナメル質中の TGF- β アイソフォームについて、第 58 回歯科基礎医学会学術大会、発表年月日 2016 年 8 月 24 日～2016 年 8 月 26 日、札幌コンベンションセンター(北海道札幌市)
 23. 小林冴子, 山本竜司, 大井田新一郎, 朝田芳信, 山越康雄 ブタ幼若エナメル質中の TGF- β 1 とエナメルタンパク質との相互作用について、第 58 回歯科基礎医学会学術大会、発表年月日 2016 年 8 月 24 日～2016 年 8 月 26 日、札幌コンベンションセンター(北海道札幌市)
 24. 島崎絵美, 唐木田丈夫, 山本竜司, 朝田芳信, 山越康雄 生理的乳歯歯根吸収組織の存在する TGF- β 1 の発現と破歯細胞の分化誘導調節について、第 58 回歯科基礎医学会学術大会、発表年月日 2016 年 8 月 24 日～2016 年 8 月 26 日、札幌コンベンションセンター(北海道札幌市)
 25. 白井麻衣, 山本竜司, 小松浩一郎, 下田信治, 山越康雄, 大井田新一郎、生理活性物質を有する脱灰骨シートを用いたインプラント周囲の骨増生、第 58 回歯科基礎医学会学術大会、発表年月日 2016 年 8 月 24 日～2016 年 8 月 26 日、札幌コンベンションセンター(北海道札幌市)
 26. 丹羽堯彦, 長野孝俊, 五味一博, 山越康雄 象牙質中の DSPP 由来タンパク質の加齢に伴う変化について、第 58 回歯科基礎医学会学術大会、発表年月日 2016 年 8 月 24 日～2016 年 8 月 26 日、札幌コンベンションセンター(北海道札幌市)
 27. 野田千尋, 藤浪さをり, 山本竜司, 小林冴子, 大井田新一郎, 山越康雄 ブタ幼若エナメル質中のアメロゲニン・TGF- β 1 複合体と TGF- β 受容体との結合能について、第 58 回歯科基礎医学会学術大会、発表年月日 2016 年 8 月 24 日～2016 年 8 月 26 日、札幌コンベンションセンター(北海道札幌市)
 28. 唐木田丈夫, 大井田新一郎, 山本竜司, 齊藤まり, 山越康雄 ブタ歯髄細胞の不死化と象牙芽細胞分化に及ぼす BMP2 と TGF β の影響、第 58 回歯科基礎医学会学術大会、発表年月日 2016 年 8 月 24 日～2016 年 8 月 26 日、札幌コンベンションセンター(北海道札幌市)
 29. 山越康雄, オーバービュー: DSPP を形態と機能から考える, 第 57 回歯科基礎医学会・サテライトシンポジウム, 2015. 9.11, 朱鷺メッセ(新潟県, 新潟市)
 30. R. Yamamoto, S. Kinoshita and Y. Yamakoshi, DSPP-derived Proteins are Necessary for Maintaining TGF-beta Activity in Dentin IADR, 2015. 3.13, ポストン・コンベンションセンター(MA, USA)
 31. S. Kinoshita, Y. Asada, Y. Yamakoshi Interaction of Enamel Proteins and TGF-beta 1 in Porcine

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

Enamel IADR, 2015. 3.13,ボストン・コンベンションセンター (MA, USA)

32. K. Takahashi, Y. Yamakoshi Kallikrein 4 in Human Saliva IADR, 2015. 3.13,ボストン・コンベンションセンター (MA, USA)

【黒田】

1. 黒田 範行、佐藤 哲二 グリチルリチンによるオートファジー亢進作用の 薬理作用に及ぼす影響 第 42 回日本分子生物学会年会, 12 月 2-4 日, 2019, 福岡
2. 黒田 範行 グリチルリチンの薬効作用におけるオートファジーへの影響 第 24 回日本病態プロテアーゼ学会学術集会, 8 月 2-3 日, 2019, 岐阜
3. 黒田 範行、佐藤 哲二 グリチルリチンによるオートファジー亢進作用の検討 第 124 回日本解剖学会総会・学術集会, 3 月 27-29 日, 2019, 新潟
4. 黒田 範行、佐藤 哲二 グリチルリチンは肝細胞由来セルライン Hepa1-6 においてオートファジーを亢進する 第 41 回日本分子生物学会年会, 11 月 28-30 日, 2018, 横浜
5. 黒田 範行、佐藤 哲二. LPS 投与炎症モデルにおけるグリチルリチンによるオートファジーへの影響 第 23 回日本病態プロテアーゼ学会, 8 月 3-4 日, 2018, 甲府
6. 黒田 範行、佐藤 哲二. LPS 投与炎症モデルにおけるグリチルリチンの作用効果と オートファジー関連遺伝子 第 40 回日本分子生物学会年会, 12 月 6-9 日, 2017, 神戸
7. 黒田 範行、佐藤 哲二. LPS 投与炎症モデルにみられるオートファジーへのグリチルリチンの作用効果第 22 回日本病態プロテアーゼ学会, 8 月 11-12 日, 2017, 大阪
8. 黒田 範行、佐藤 哲二. アポトーシス / オートファジーと HMGB1 Role of HMGB1 in regulation of Apoptosis / Autophagy 第 59 回歯科基礎医学会学術大会, 9 月 16-18 日, 2017, 松本
9. 石山巳喜夫、三上正人、中富満城、岡 俊哉、佐藤秋絵、田畑 純、笹川一郎. エナメルとガノインの分子生物学的解析. 第 58 回歯科基礎医学会学術大会, 2016 年 8 月 24-27 日、札幌
10. 黒田 範行、佐藤 哲二. LPS 投与炎症モデルにおけるグリチルリチン作用機序の検討 第 21 回日本病態プロテアーゼ学会, 8 月 5-6 日, 2016, 大阪
11. Akie Sato, Jan Klein. Contribution for poster session "Completing Mendel's Unfinished Experiments".Mendel Forum 2015, Celebrate 150 years since the publication of Mendel's discovery in Brno, March 6-8, 2015, Centrum Mendelianum, Brno - city centre, Czech Republic
12. 黒田 範行、佐藤 哲二. The role of nuclear protein Hmgb1 by injection of LPS, and the analysis of signal pathway LPS 投与による炎症モデルにおける核内タンパク Hmgb1 の役割とシグナル解析 第 38 回日本分子生物学会年会, 12 月 6-9 日, 2015, 神戸
13. 黒田 範行、佐藤 哲二. LPS 投与炎症モデルにおけるシグナル解析とアポトーシス抑制の検討 第 20 回日本病態プロテアーゼ学会, 8 月 21-22 日, 2015, 名古屋

【中村】

1. (*22) Sakamoto M, Moriyama M, and Nakamura S. TLR8⁺CD68⁺ monocytes/macrophages contribute to the pathogenesis of Sjögren's syndrome. International Association of Dental Research (IADR) 2019 in Vancouver, Canada
⇒「IADR Uniliver Hatton Divisional Award」受賞
2. (*22) Sakamoto M, Moriyama M, Ohya Y, Maehara T, Ogata K, Furukawa S, Ohta M, Yamauchi M, Ishiguro N, Haque ASMR, Chinju A, Mochizuki K, Mastumura M, Munemura R, Hayashoda JN, Nakamura S. Involvement of Toll like receptor 8 in the pathogenesis of Sjögren's syndrome. Korean Association of Oral and Maxillofacial Surgeons (KAOM) 2018 in Korea
⇒「韓国口腔外科学会総会 (KAOMS) 若手最優秀口演賞」受賞

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

【豊福】

1. 須賀隆行, 渡邊毅, 美久月瑠宇, 竹之下美穂, 豊福 明. Oral Dysesthesia Rating Scale を用いた口腔異常感症の口腔内症状評価. 第2回日本心身医学関連学会合同集会. 2019 年 11 月 15 日、大阪市中央公会堂、大阪.
2. 須賀隆行, 渡邊毅, 美久月瑠宇, 竹之下美穂, 豊福 明. Sodium valproate が奏功した 難治性の舌痛症の1例. 第2回日本心身医学関連学会合同集会, 2019 年 11 月 17 日、大阪市中央公会堂、大阪.
3. 須賀隆行, 渡邊毅, 美久月瑠宇, 竹之下美穂, 松岡紘史、安彦善裕、豊福 明 少量の aripiprazole の増強療法が奏功した舌痛症の1例. 第2回日本心身医学関連学会合同集会, 2019 年 11 月 17 日、大阪市中央公会堂、大阪.
4. 竹之下美穂、Tu Trang, 菅原詩織、川崎カオル、須賀隆行、Hong Chaoli, 美久月瑠宇、渡邊毅、豊福 明. 口腔異常感を伴う口臭症にアリピプラゾールが奏功した1例. 第2回日本心身医学関連学会合同集会, 2019 年 11 月 17 日、大阪市中央公会堂、大阪.
5. 宇都宮雅史、松岡 紘史、吉田光希、竹之下美穂、豊福 明、安彦善裕. 不確実さ不耐性が舌痛症患者の症状に及ぼす影響. 第2回日本心身医学関連学会合同集会, 2019 年 11 月 17 日、大阪市中央公会堂、大阪.
6. 豊福 明. 老年期の口腔セネストパシー. 第2回日本心身医学関連学会合同集会. 2019 年 11 月 17 日、大阪市中央公会堂、大阪.
7. 吉田光希、パウデルドルガ、宇都宮雅史、森川哲郎、松岡 紘史、千葉逸朗、豊福 明、安彦善裕. Burning mouth syndrome における薬物療法の治療成績:A 1-year retrospective study. 第2回日本心身医学関連学会合同集会, 2019 年 11 月 17 日、大阪市中央公会堂、大阪.
8. 須賀隆行, 川崎カオル、美久月瑠宇, 豊福 明. 過去 7 年間の舌痛症患者の身体・精神併存疾患の変化について. 第 64 回日本口腔外科学会総会・学術集会. 2019 年 10 月 26 日 札幌コンベンションセンター、札幌市、北海道.
9. 美久月瑠宇, 須賀隆行、豊福 明. 2017,2018 年度当科初診患者に関する臨床的検討. 第 64 回日本口腔外科学会総会・学術集会. 2019 年 10 月 26 日 札幌コンベンションセンター、札幌市、北海道.
10. Yoshihiro Abiko, Masafumi Utsunomiya, Durga Paudel Hirofumi Matsuoka, Akira Toyofuku. Therapeutic approaches for burning mouth syndrome. 2019 Conference meeting of the Korean Society of Psychosomatic Dentistry 2019/10/20, Preme Foundation Nexon Children's Rehabilitation Hospital, Seoul, Korea.
11. Trang T.H Tu, Lou Mikuzuki, Kazuya Watanabe, Takayuki Suga, Chaoli Hong, Asami Mitsuhiro, Takeshi Watanabe, Miho Takenoshita and Akira Toyofuku. The impact of personality in patients with Burning Mouth Syndrome: Hit or Miss? 2019 Conference meeting of the Korean Society of Psychosomatic Dentistry, 2019/10/20, Preme Foundation Nexon Children's Rehabilitation Hospital, Seoul, Korea.
12. Takayuki Suga, Takeshi Watanabe, Lou Mikuzuki, Miho Takenoshita and Akira Toyofuku. Medical Comorbidities of Patients with Burning Mouth Syndrome. 2019 Conference meeting of the Korean Society of Psychosomatic Dentistry, 2019/10/20, Preme Foundation Nexon Children's Rehabilitation Hospital, Seoul, Korea.
13. Takayuki Suga, Takeshi Watanabe, Lou Mikuzuki, Trang T.H Tu, Chaoli Hong, Miho Takenoshita and Akira Toyofuku. Social Indication of Jaw Deformity Surgery in Patients with Psychiatric

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

- Comorbidities. 2019 Conference meeting of the Korean Society of Psychosomatic Dentistry, 2019/10/20, Preme Foundation Nexon Children's Rehabilitation Hospital, Seoul, Korea
14. 須賀隆行, 美久月瑠宇, 豊福 明. 「舌痛」の原因特定に苦慮した聴神経鞘腫の2例. 第 29 回日本口腔内科学会. 2019 年 09 月 22 日, 一橋講堂、千代田区、東京
 15. Kazuya Watanabe, Trang T.H Tu, Lou Mikuzuki, Kaoru Kawa- saki, Shiori Sugawara, Takayuki Suga, Chaoli Hong, Asami Mitsuhiro, Takeshi Watanabe, Miho Takenoshita, Akira Toyofuku. The difference in the clinical characteristics of unilateral Oral Dysesthesia patients with or without trigeminal Neurovascular Compression. ICPM 25th World Congress, September 11, 2019, Florence, Italy.
 16. Trang T.H Tu, Lou Mikuzuki, Kaoru Kawasaki, Shiori Sugawara, Takayuki Suga, Chaoli Hong, Asami Mitsuhiro, Takeshi Watanabe, Miho Takenoshita, Akira Toyofuku. The impact of personality dimension in patients with medically unex- plained oral symptoms. ICPM 25th World Congress, September 12, 2019, Florence, Italy.
 17. MihoTakenoshita, Tu T H Trang, Shiori Sugawara, Kaoru kawasaki, Takayuki Suga, Kazuya Watanabe, Chaoli Hong, Yuka Sakuraba, Lou Mikuzuki,Takeshi Watanabe, Akira Toyofuku. A case study on halitophobia with oral dysesthesia treated with low- dose aripiprazole. ICPM 25th World Congress, September 12, 2019, Florence, Italy.
 18. Takayuki Suga, Lou Mikuzuki, Takeshi Watanabe, TRANG T.H TU, Miho Takenoshita, Akira Toyofuku. Oral squamous cell carcinoma mimicking burning mouth syndrome in elderly patients: a case series. ICPM 25th World Congress, September 13, 2019, Florence, Italy.
 19. Takeshi Watanabe, Shunsuke Takano, Kohsuke Abe, Shiori Sugawara, Kaoru Kawasaki, Kazuhito Miura, Takayuki Suga, Lou Mikuzuki, Chaoli Hong, Tu Thi Huyen Trang, Kazuya Watanabe, Miho Takenoshita, Akira Toyofuku. Effect of low dose aripiprazole on amitriptyline-intolerant burning mouth syndrome. ICPM 25th World Congress, September 13, 2019, Florence, Italy
 20. 須賀隆行, 美久月瑠宇, 竹之下美穂, 豊福 明. 精神疾患の悪化が予測されたため手術適応を再検討した顎変形症の3例. 第 73 回日本口腔科学会学術集会ウエスタ川越, 川越市, 埼玉県.
 21. 須賀隆行、竹之下美穂、豊福 明. インプラント部に痛みが生じた高齢の非定型歯痛患者に mirtazapine が有効だった1例. 第 130 回日本心身医学会関東地方会 2019 年 02 月 09 日, 日本大学病院5階大会議室、千代田区、東京.
 22. 豊福 明. 歯科インプラント患者の「メンタル問題」への対応. 日本口腔インプラント学会第36回九州支部学術大会, 2019 年 01 月 27 日, 浦添市てだこホール、沖縄県.
 23. 美久月瑠宇, 須賀隆行, 青田宥馬, 川崎カオル, 篠原優貴子, 島本裕彰, 池田 通, 原田浩之, 豊福 明. 舌痛症との鑑別を要した口底癌の 1 例. 第 63 回日本口腔外科学会総会・学術大会、2018 年 11 月 3 日、幕張メッセ国際会議場・国際展示場、千葉県.
 24. 須賀隆行, 青田宥馬, 川崎カオル, 美久月瑠宇, 篠原優貴子, 豊福 明. 増加する高齢者の舌痛症に対する amitriptyline の安全で有効な使用について. 第 63 回日本口腔外科学会総会・学術大会 2018 年 11 月 2 日、幕張メッセ国際会議場・国際展示場、千葉県.
 25. 川崎カオル, 高田 訓, 豊福 明. 非 定 型 顔 面 痛 (歯 痛) と 三 叉 神 経 の Neurovascular compression (NVC) の関係について. 第 63 回日本口腔外科学会総会・学術大会 2018 年 11 月 2 日、幕張メッセ国際会議場・国際展示場、千葉県.
 26. 川崎カオル, 高田 訓, 豊福 明. 非定型顔面痛(歯痛)と三叉神経の Neurovascular compression(NVC)との関係性について. 第 28 回日本口腔内科学会学術大会 2018 年 9 月 15 日、

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

横浜市開港記念会館、神奈川県.

27. 須賀隆行, 美久月瑠宇, 豊福 明. 増加する高齢者の舌痛症に対する amitriptyline の安全性と有効性についての統計的検討. 第 28 回日本口腔内科学会学術大会 2018 年 9 月 15 日、横浜市開港記念会館、神奈川県.
28. 松岡紘史, 宇都宮雅史, 吉田光希, 竹之下美穂、豊福 明、千葉逸朗、安彦善裕. 舌痛症患者の不確実さ不耐性の変化が患者および治療者の症状改善一致度に及ぼす影響. 第 28 回日本口腔内科学会学術大会 2018 年 9 月 15 日、横浜市開港記念会館、神奈川県.
29. Akira Toyofuku. Psychosomatic Dentistry; from brain to a new dentistry. The 32nd IADR-SEA Division Annual Scientific Meeting 2018.09.14 Da Nang city, Vietnam.
30. Trang T.H Tu, Kaoru Kawasaki, Shiori Sugawara, Takeshi Watanabe, Takayuki Suga, Lou Mikuzuki, Yukiko Shinohara, Anna Miura, Miho Takenoshita, Akira Toyofuku. PAIN, DEPRESSION AND CATASTROPHIZING IN PATIENTS WITH ATYPICAL ODONTALGIA. 32th IADR-SEA (International Association for Dental Research Southeast Asian Division) 2018.09.14 Furama Resort Da Nang, Da Nang, Vietnam.
31. Takeshi Watanabe, Takahiko Nagamine, Kaoru Kawasaki, Trang T.H. Tu, Takayuki Suga, Yuma Aota, Miho Takenoshita, Akira Toyofuku. The change in QTc intervals predicts the response to tricyclic antidepressants in patients with chronic nonorganic orofacial pain. 18th Congress of the ACPM(Asian College of Psychosomatic Medicine) 2018.08.25 Kyung Hee University, Seoul, Korea.
32. Trang T.H. Tu, Anna Miura, Yukiko Shinohara, Lou Mikuzuki, Kaoru Kawasaki, Shiori Sugawara, Takayuki Suga, Takeshi Watanabe, Yuma Aota, Tatsuya Yoshikawa, Miho Takenoshita, Akira Toyofuku. New potential pharmacotherapeutic approaches for Atypical Odontalgia. 18th Congress of the ACPM(Asian College of Psychosomatic Medicine) 2018.08.25 Kyung Hee University, Seoul, Korea.
33. Takayuki Suga, Takeshi Watanabe, Tu Thi Huyen Trang, Yuma Aota, Kaoru Kawasaki, Shiori Sugawara, Lou Mikuzuki, Yukiko Shinohara, Miho Takenoshita, Akira Toyofuku. Efficacy and safety of low-dose amitriptyline for elderly patients with Burning mouth syndrome. 18th Congress of the ACPM(Asian College of Psychosomatic Medicine) 2018.08.25 Kyung Hee University, Seoul, Korea.
34. Miho Takenoshita, Yukiko Shinohara, Lou Mikuzuki, Kaoru Kawasaki, Shiori Sugawara, Tu Thi Huyen Trang, Takayuki Suga, Takeshi Watanabe, Hirofumi Matsuoka, Yoshihiro Abiko, Akira Toyofuku. Clinical study on pain catastrophizing and short-term outcomes of patients with burning mouth syndrome. 18th Congress of the ACPM(Asian College of Psychosomatic Medicine) 2018.08.25 Kyung Hee University, Seoul, Korea.
35. TRANG TU, Kaoru Kawasaki, Shiori Sugawara, Anna Miura, Miho Takenoshita, Yukiko Shinohara, Lou Mikuzuki, Takayuki Suga, Akira Toyofuku, . Treatment Outcome in Atypical Odontalgia: Determinants of Pain Relief,. The 96th General Session of the IADR 2018.07.27 London, England.
36. Shiori Sugawara, Ayano Katagiri, Kinuyo Ohara, Lou Mikuzuki, Shigeru Nakamura, Kazuo Tsubota, Akira Toyofuku, Koichi Iwata:. Dry-Eye Pain by Diquafosal Sodium Administration. The 96th General Session of the IADR 2018.07.27 London, England.
37. 宇都宮雅史、松岡紘史、吉田光希、竹之下美穂、豊福 明、千葉逸朗、安彦善裕. 症状改善の評価における舌痛症患者と治療者の違いに不確実さ不耐性が及ぼす影響. 第 33 回日本歯科心身医学会総会・学術大会 2018 年 7 月 7 日、北九州国際会議場、北九州市、福岡県.
38. 菅原詩織、片桐綾乃、美久月瑠宇、豊福 明、岩田幸一. ドライアイ誘因性眼痛に伴う三叉神経脊

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

髄路核神経活動亢進に対するジクアホソルナトリウム点眼の効果. 第 33 回日本歯科心身医学会総会・学術大会 2018 年 7 月 7 日、北九州国際会議場、北九州市、福岡県。

39. 豊福 明. 「心因性」と呼ばれる痛みとは何なのか？. 第 33 回日本歯科心身医学会総会・学術大会 2018 年 7 月 7 日、北九州国際会議場、北九州市、福岡県。
40. 須賀隆行、渡邊毅、菅原詩織、川崎カオル、Tu Thi Huyen Trang、美久月瑠宇、三浦杏奈、篠原優貴子、吉川達也、竹之下美穂、豊福 明. 低用量 amitriptyline が奏功した高齢舌痛症患者の2症例. 第59回日本心身医学会総会ならびに学術講演会、2018 年 6 月 9 日、名古屋国際会議場、愛知県。
41. 松岡紘史、宇都宮雅史、吉田光希、竹之下美穂、豊福 明、千葉逸朗、安彦善裕. 舌痛症において患者と治療者の症状改善の評価にみられる違いに不確実さ不耐性が及ぼす影響. 第59回日本心身医学会総会ならびに学術講演会 2018 年 6 月 9 日、名古屋国際会議場、愛知県。
42. 渡邊毅、長嶺敬彦、須賀隆行、Tu Thi Huyen Trang、川崎カオル、菅原詩織、美久月瑠宇、三浦杏奈、篠原優貴子、吉川達也、竹之下美穂、豊福 明. QT 延長は口腔慢性疼痛患者に対する Amytriptyline の効果の予測因子となる. 第59回日本心身医学会総会ならびに学術講演会 2018 年 6 月 8 日、名古屋国際会議場、愛知県。
43. 竹之下美穂、三浦杏奈、篠原優貴子、美久月瑠宇、菅原詩織、Tu Thi Huyen Trang、川崎カオル、須賀隆行、渡邊毅、松岡紘史、安彦善裕、豊福 明. 舌痛症患者の破局的思考 (Pain Catastrophizing)と短期転帰に関する臨床的検討. 第59回日本心身医学会総会ならびに学術講演会 2018 年 6 月 8 日、名古屋国際会議場、愛知県
44. 須賀隆行、美久月瑠宇、竹之下美穂、豊福 明. 高齢者の舌痛症の増加とその対策について. 第 72 回日本口腔科学会学術集会 2018.05.13 ウィンクあいち、名古屋市、愛知県。
45. 須賀隆行、菅原詩織、三浦杏奈、竹之下美穂、豊福 明. 低用量 amytriptyline が高齢女性の舌痛症に奏功した1例. 第 129 回日本心身医学会関東地方会 2018 年 2 月 3 日、東京大学弥生講堂 一条ホール、文京区、東京。
46. 豊福 明. 歯科心身症と性差. 第 11 回日本性差医学・医療学会学術集会 2018 年 1 月 20 日、パピヨン24、福岡市、福岡県。

<研究成果の公開状況> (上記以外)

シンポジウム・学会等の実施状況、インターネットでの公開状況等

<既に実施しているもの>

研究成果報告会 (別添資料 2)

1. 平成 28 年 3 月 12 日(土) (於: 鶴見大学 2 号館 3 階 第 10 講堂)
 分担研究者 14 名による平成 27 年度成果報告
 特別講演: 「環境因子を基盤とした自己免疫疾患の病態解明」
 徳島大学大学院医歯薬学研究部口腔分子病態学講座 教授 石丸 直澄
2. 平成 28 年 11 月 5 日(土) (於: 鶴見大学 2 号館 3 階 第 10 講堂)
 分担研究者 14 名による平成 28 年度成果報告
 特別講演: 「長生きを享受するための口腔の重要性」
 国立研究開発法人国立長寿医療研究センター口腔疾患研究部 部長 松下 健二
3. 平成 29 年 10 月 7 日(土) (於: 鶴見大学 2 号館 3 階 第 10 講堂)
 分担研究者 14 名による平成 29 年度成果報告
 特別講演: 「ドラッグリポジショニング応用した臓器再生医療へのアプローチ」
 An Approach to Organ Regeneration using Drug-repurposing」
 大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能治療学教室 教授 阪井 丘芳

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

4. 平成 30 年 11 月 17 日(土) (於:鶴見大学 2 号館 3 階 第 10 講堂)

分担研究者 14 名による平成 30 年度成果報告

特別講演:「唾液腺再生研究の変遷」

昭和大学歯学部口腔病態診断科学講座口腔病理部門 教授 美島 健二

5. 令和元年 10 月 26 日(土) (於:鶴見大学 2 号館 3 階 第 10 講堂)

分担研究者 14 名による令和元年度成果報告

研究成果発表 (別添資料 3)

3 年目の進捗状況を発表(中間報告)

「鶴見歯学」(第 45 巻第 1 号 P.23-57、2019 年 1 月 10 日発行)

インターネットでの公開

鶴見大学ホームページ内に公開

<https://www.tsurumi-u.ac.jp/site/about/190322.html>

<これから実施する予定のもの>

【斎藤】

1. 宿題報告

斎藤一郎 第 109 回日本病理学会総会、2020 年 4 月 18 日

【朝田/船山】

1. 成山明具美、奥村 敏、朝田芳信:咬筋における Mitf 遺伝子変異とオートファジーの関連性について、第 58 回日本小児歯科学会大会 2020 年 5 月 21-22 日 沖縄コンベンションセンター(沖縄県那覇市)
2. 成山明具美、奥村 敏、朝田芳信:Mitf 遺伝子変異による咬筋の線維化とアポトーシスの誘導およびオートファジーの関連性について、第 62 回歯科基礎医学会学術大会 2020 年 9 月 11-12 日、鹿児島県民交流センター (鹿児島県鹿児島市)

【二藤】

1. 鶴見大学歯学部薬理学講座 HP にて公開予定

<https://mphdentnifuji.sakura.ne.jp/wp/>

【下田】

1. 浅田由佳, 吉野文貴, 千葉敏江, 塩崎一成, 下田信治: ヒトのエナメル質無機質密度のマイクロ CT による定量評価, 第 125 回日本解剖学会総会学術集会, 宇部, 2020.3.25-27.

【奥村】

シンポジウム

1. [オーガナイザー] 奥村 敏、藤田孝之

[題名]多臓器連関ネットワーク:分子機構とその破綻による病態生理
(日本病態生理学会連携シンポジウム)

[学会名]第 97 回日本生理学会大会

[期間] 2020 年 3 月 17 日-19 日

[場所] 別府国際コンベンションセンター、ビーコンプラザ

2. [招待講演] 大貫芳樹、吹田憲治、奥村 敏

[題名]P. gingivalis 由来内毒素による心筋リモデリングに対する Toll 様受容体 4 阻害薬の抑制効果
シンポジウム:多臓器連関ネットワーク:分子機構とその破綻による病態生理

[学会名] 第 97 回日本生理学会大会

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

【期間】 2020 年 3 月 17 日-19 日

【場所】 別府国際コンベンションセンター、ビーコンプラザ

図書

1. 奥村 敏他 基礎歯科生理学 第7版 医歯薬出版 2020 年 4 月発刊予定

【花田】

1. 日本歯科保存学会 2020 年度春季学術大会(第 152 回)、神戸国際展示場、神戸市、
2020 年 6 月 11 日(木)~12 日(金)

【豊福】

1. 日韓合同歯科心身医学会(2021 年度予定)

14 その他の研究成果等

〈受賞〉

【斎藤】

1. 2018 年 11 月 2020 年度 日本病理学賞(宿題報告)受賞、日本病理学会
斎藤 一郎

【小川】

1. (*32)(*34) Brilliant Poster Award (The 5th Annual Meeting of the International Academy for Digital Dental Medicine, The 10th Annual Meeting of the Japan Academy of Digital Dentistry/6-Oct-19):
Kihara T, Ikawa T, Shigeta Y, Shigemoto S, Ito T, Hirai S, Harada N, Kawamura N, Ogawa T.
Fabrication of muco-compressive splint via VR simulation technique in patients with mandibular reconstruction.
2. (*34)(*50) Best Poster Presentation (The European Prosthodontic Association (EPA) 7-Sep-19):
Shigemoto S, Ito T, Ito M, Kihara T, Ikawa T, Park J, Ando E, Shigeta Y, Ogawa T
New concept of rotation axis for analyzing mandibular movements
3. (*34) 最優秀発表賞 (一般社団法人日本歯科技工学会第 40 回学術大会 2018 年 9 月 23 日):
木原琢也, 井川知子, 伊藤光彦, 伊藤崇弘, 重本修伺, 重田優子, 小川 匠
変形性関節症における咬合器の選択基準に関する検討ー顎顔面頭蓋の形態的特徴ー

【中村】

1. (*22) 「IADR Uniliver Hatton Divisional Award」受賞
Sakamoto M, Moriyama M, and Nakamura S. TLR8⁺CD68⁺ monocytes/macrophages contribute to the pathogenesis of Sjögren's syndrome. International Association of Dental Research (IADR) 2019 in Vancouver, Canada.
2. (*22) 「韓国口腔外科学会総会(KAOMS)若手最優秀口演賞」受賞
Sakamoto M, Moriyama M, Ohyama .K, Maehara T, Ogata K, Furukawa S, Ohta M, Yamauchi M, Ishiguro N, Haque ASMR, Chinju A, Mochizuki K, Mastumura M, Munemura R, Hayashoda JN, Nakamura S. Involvement of Toll like receptor 8 in the pathogenesis of Sjögren's syndrome. Korean Association of Oral and Maxillofacial Surgeons (KAOM) 2018 in Korea

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

〈特許〉

【奥村】

1. (*67) アデニル酸シクラーゼの活性調節剤
発明者(横浜市立大学:石川義弘、奥村 敏;横浜国立大学:星野雄二郎、井上誠一)
2015 年 12 月 11 日 国内特許登録: 9,096,632
2. (*67) アデニル酸シクラーゼの活性調節剤
発明者(横浜市立大学:石川義弘、奥村 敏;横浜国立大学:星野雄二郎、井上誠一)
2015 年 12 月 8 日 欧州特許登録: 11836112.0
3. (*67) アデニル酸シクラーゼの活性調節剤
発明者(横浜市立大学:石川義弘、奥村 敏;横浜国立大学:星野雄二郎、井上誠一)
2015 年 8 月 4 日 米国特許登録: 9,096,632

〈その他〉

【大島】

1. (*64) Analysis of salivary proteins adhering to dental materials. Mukai, Y., Ohshima, T., Maeda, N.
97th IADR(国際歯科学会) General Session & Exhibition. (2019. 6., Vancouver, Canada)

【花田】

1. (*46) 武内博朗、花田信弘、栄養・運動と全身の健康の架け橋を担う歯科補綴 咀嚼機能回復と保健指導の組み合わせは、体組成と代謝指標を改善する.日本補綴歯科学会誌 (1883-4426)11 巻 3 号 Page206-214(2019.07)
2. 花田 信弘、野村 義明、村田 貴俊、岡本 公彰、【腸内フローラとディスバイオーシス(バランス失調)】
口腔微生物叢と歯のケアが腸内微生物叢に及ぼす影響、腸内フローラシンポジウム 27 巻
Page35-43(2019.09)
3. 花田 信弘、特定健康診査・特定保健指導に参加する歯科衛生士の将来と問題点、日本歯科衛生学会雑誌 14 巻 1 号 Page50-55(2019.08)
4. 花田 信弘、歯学の行方 口腔のキーストーン病原体との戦い、日本歯科評論 79 巻 6 号 Page18-19(2019.06)
5. 岡田 彩子、野村 義明、向井田 克、三善 潤、赤坂 栄里子、大黒 英貴、前川 秀憲、佐藤 保、花田 信弘、潜在歯科衛生士の再就職に影響する因子の探索(岩手県歯科衛生士実態調査より)口腔衛生学会雑誌 69 巻 2 号 Page86-92(2019.04)
6. 花田 信弘、歯周病(第 4 回) 歯周病の早期発見・早期治療は全身の健康に寄与する、アニムス(1342-0119)24 巻 2 号 Page39-45(2019.04)
7. (*46) 武内 博朗、花田 信弘、欠損回復から代謝・体組成を改善する歯科補綴への取り組み、ヘルスサイエンス・ヘルスケア(1881-1892)17 巻 2 号 Page58-69(2017.12)
8. バイオフィルム感染症、花田 信弘、内分泌・糖尿病・代謝内科 48 巻 2 号 Page155-158(2019.02)
9. 花田 信弘、歯周病(第 3 回) 歯周病と糖尿病の関連性を紐解く、アニムス(1342-0119)24 巻 1 号 Page40-47(2019.01)
10. 花田 信弘、【すべての人にカリエスマネジメントを】う蝕の検出について、The Quintessence(0286-407X)37 巻 8 号 Page1765-1767(2018.08)
11. 花田 信弘、歯周病(第 1 回) 歯周病と生活習慣病、アニムス 23 巻 2 号 Page29-32(2018.05)
12. 花田 信弘、バイオセーフティ 口腔におけるバイオセーフティ、バムサジャーナル 30 巻 2 号 Page56-59(2018.04)

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

13. 宮崎 秀夫, 深井 穂博, 神原 正樹, 花田 信弘, 佐々木 健, 大内 章嗣、NCDs と歯科疾患の地域医療連携ガイドラインの確立に関する研究 糖尿病、がんにおける医科歯科連携のモデル事例分析を中心として、日本歯科医学会誌 37 巻 Page34-39(2018.03)
14. 花田 信弘、【エナメル質初期う蝕管理と学校歯科保健の連携】学識者の立場から ルシャトリエの原理から見たむし歯、日本学校歯科医会誌 123 号 Page22-27(2018.03)
15. 埴岡 隆, 青山 旬, 川口 陽子, 小島 美樹, 日野出 大輔, 尾崎 哲則, 山中 玲子, 瀬川 洋, 細見 環, 田野 ルミ, 千葉 逸朗, 小川 祐司, 平田 幸夫, 三宅 達郎, 谷口 奈央, 井下 英二, 花田 信弘, 眞木 吉信, 於保 孝彦, 歯科医師・歯科衛生士養成機関における禁煙介入教育の課題と展望、口腔衛生学会雑誌 67 巻 4 号 Page298-305(2017.10)
16. 花田 信弘、歯学の行方 全身の健康に寄与する歯学研究の行方、日本歯科評論 77 巻 9 号 Page11-13(2017.09)
17. 武内 博朗(鶴見大学 歯学部), 花田 信弘, 栗林 伸一, 小林 友依、アクティブライフを実現する医科歯科連携 アクティブライフ達成に必要な歯科からの発信、DENTAL DIAMOND(0386-2305)42 巻 11 号 Page40-47(2017.08)
18. 花田 信弘、アクティブライフを実現する医科歯科連携 新しい歯科医療のかたち、DENTAL DIAMOND(0386-2305)42 巻 11 号 Page24-27(2017.08)
19. 花田 信弘、【齲蝕・歯周病予防のための唾液検査システム】唾液に存在するさまざまなバイオマーカー、日本歯科理工学会誌 36 巻 4 号 Page221-224(2017.07)
20. 今井 奨(鶴見大学 歯学部探索歯学講座), 岡田 彩子, 岡本 公彰, 宮之原 真由, 太田 一正, 桃井 保子, 友永 雅己, 花田 信弘、ヒトおよびチンパンジー由来ミュータンスレンサ球菌のバイオフィルム形成能とエナメル質脱灰能の比較、BACTERIAL ADHERENCE & BIOFILM30 巻 Page87-90(2017.0)
21. 花田 信弘、健康を創り出す歯科医療 発症予防と重症化予防をめざして、日本歯科医師会雑誌 70 巻 2 号 Page137-143(2017.05)
22. 宮崎 秀夫(新潟大学), 森田 学, 深井 穂博, 安藤 雄一, 眞木 吉信, 村上 伸也, 桃井 保子, 平野 浩彦, 相田 潤, 葭原 明弘, 山賀 孝之, 町田 達哉, 多田 紗弥夏, 内藤 徹, 伊藤 加代子, 花田 信弘, 野村 義明、高齢者のオーラルセルフケアに関する学会提言 2017 年 2 月 28 日、一般社団法人日本口腔衛生学会, 高齢者のオーラルセルフケア検討委員、口腔衛生学会雑誌 67 巻 2 号 Page94-117(2017.04)
23. 西辻 直之, 古藤 真実, 福澤 洋一, 矢吹 義秀, 上谷 公之, 久保 宏史, 吉野 浩和, 長井 博昭, 中曽根 隆一, 矢島 正隆, 岡田 彩子, 有吉 芽生, 曾我部 薫, 菊地 朋宏, 宮之原 真由, 山田 秀則, 村田 貴俊, 野村 義明, 花田 信弘、歯周病を対象とした唾液生化学検査に対する受診者の意識調査、口腔衛生学会雑誌(0023-2831)67 巻 2 号 Page89-93(2017.04)
24. 花田 信弘、【学校歯科保健とライフコース疫学】学識者の立場から 学校歯科保健とライフコースヘルスケア、日本学校歯科医会誌 121 号 Page54-59(2017.03)
25. 若井 建志, 内藤 真理子, 川村 孝, 内藤 徹, 小島 正彰, 梅村 長生, 横田 誠, 花田 信弘、歯科医師を対象とした歯と全身の健康、栄養との関連に関する研究 歯磨き回数、喪失歯数と口腔・咽頭・食道がんリスクとの関連、8020: はち・まる・にい・まる 16 号 Page118-119(2017.01)
26. 花田 信弘、口腔常在菌研究の現在、8020: はち・まる・にい・まる 16 号 Page22(2017.01)
27. 埴岡 隆, 青山 旬, 川口 陽子, 小島 美樹, 日野出 大輔, 尾崎 哲則, 山中 玲子, 瀬川 洋, 細見 環, 田野 ルミ, 小川 祐司, 平田 幸夫, 花田 信弘, 井下 英二, 谷口 奈央, 眞木 吉信, 於保 孝彦、タバコ使用歯科介入の卒前教育への提言 世界の文献レビューと最新の背景から、日本

法人番号	141007
プロジェクト番号	S1511018

口腔衛生学会禁煙推進委員会、口腔衛生学会雑誌 67 巻 1 号 Page35-39(2017.01) 28. 野村 義明, 岡田 彩子, 花田 信弘, 深井 稔博、健康増進計画の目標とセルフケアの行動目標、ヘルスサイエンス・ヘルスケア 16 巻 1 号 Page40-43(2016.09) 29. 野村 義明, 曾我部 薫, 岡田 彩子, <u>花田 信弘</u>、歯科医療・口腔保健のキーワード、考えるヒント [エビデンスに基づく歯科医療・口腔保健・健康政策]ビッグデータ、歯界展望 128 巻 6 号 Page1224-1225(2016.12) 30. (*68) <u>花田 信弘</u>、<u>検査 NEW WAVE なぜ、唾液検査が必要か 現在の方法に対する優位性・歯周病唾液検査の概要</u>、アニムス 21 巻 4 号 Page43-44(2016.11) 31. 深井稔博、宮崎秀夫、大渡凡人、喜久田利弘、佐藤博信、弘地尚子、西原達次、吉野賢一、品川隆、<u>花田信弘</u>、保健・医療・介護・福祉をつなぐための歯科からの提言～2025 年問題に対する歯科界の挑戦～、ザ・クインテッセンス 35:84-94, 2016. 32. 若井 建志, 内藤 真理子, 川村 孝, 内藤 徹, 小島 正彰, 梅村 長生, 横田 誠, <u>花田 信弘</u>、歯科医師を対象とした歯と全身の健康、栄養との関連に関する研究 歯間部清掃器具使用と全死亡リスクとの関連、8020: はち・まる・にい・まる 15 号 Page114-115(2016.01) 33. <u>花田 信弘</u>、【歯科が発信するコモンスクファクター対策】歯科領域が原因の菌血症のメカニズム、The Quintessence35 巻 1 号 Page116-120(2016.01) 34. 山口 貴央, 野村 義明, <u>花田 信弘</u>, 森戸 亮行, 山崎 泰志, 吉田 拓正, 細矢 哲康、歯周組織由来細胞における LRRC32 の遺伝子発現、日本歯科保存学雑誌 58 巻 5 号 Page391-397(2015.10) 35. <u>花田 信弘</u>、【根拠に基づく小児う蝕予防最前線!】(第 3 回)伝播からう窩形成までミュータンス菌の歩みを徹底的に邪魔しよう、歯科衛生士 39 巻 9 号 Page28-39(2015.09)

15 「選定時」及び「中間評価時」に付された留意事項及び対応

<「選定時」に付された留意事項>

全学的な取組であることから、各テーマ間の協働性に留意しつつ、研究の方向性を定めてほしい。

<「選定時」に付された留意事項への対応>

本研究プロジェクトには歯科医学に従事する研究室からの総勢 28 人を超えるメンバーにより構成される研究組織であることから、各テーマ間の協働性を強化するために分担者同士の研究成果報告会を頻回開催し情報交換や試料ならびに技術の提供等の連携を密に行った。

それぞれの研究テーマの専門領域は異なるものの口腔領域の機能や病態という統一したテーマで研究を推進し、研究の方向性を定めるための対応は欠かさず行い、総花的な研究にならないような実践を心掛けた。

<「中間評価時」に付された留意事項>

該当なし

<「中間評価時」に付された留意事項への対応>

該当なし